



教育課程 の概要

トヨタ看護専門学校

第39期生

目 次

No	内 容	ページ
1	教育理念、教育目的、教育目標	1
2	看護を構成する主要概念	2
3	ディプロマポリシー (卒業の認定に関する方針)	3
4	年次別到達目標	4
5	教育課程	5 ~ 8
6	教科外活動	9
7	シラバス 基礎分野	10 ~ 28
8	シラバス 専門基礎分野	29 ~ 73
9	シラバス 専門分野	74 ~ 168
10	臨地実習	169 ~ 170

教 育 理 念

人々の健康の回復・維持・増進を図るために、社会における看護の役割を認識し、生命の尊厳・人間性の尊重を基に豊かな感性を養い、看護に関する専門的知識および技術を教授し、科学的思考に基づき看護が実践できる基礎的能力を身につけ、生涯にわたって自己を啓発できるような人材を育成する。

教 育 目 的

本校は、創造と人間理解の理念に基づき、学生に対して看護に関する基礎的知識、技術を教授し、人間形成を図り、もって保健・医療・福祉における専門職としての看護師を育成することを目的とする。

教 育 目 標

1. 人々の健康上の問題を解決するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
2. 人々の多様な価値観を認識し、専門職業人としての共感的態度や倫理に基づいた態度を養う。
3. 看護師としての役割を認識し、保健・医療・福祉チームの一員として機能できる基礎的能力を養う。
4. 生命を尊び、人としての権利を尊重して行動できる豊かな感性を養う。
5. 看護を発展させるために、継続的学習の基本的態度と習慣を養う。

看護を構成する主要概念

<人 間>

1. 人間は、身体的・精神的・社会的側面を持つ統合された存在である。単に部分の総和ではない。
2. 人間は、環境と絶えず相互に影響しながら変化し、生涯発達する存在である。
3. 人間は、感情・思考力を持ち、様々なニーズを充足しながら生活している。
4. 人間は、固有の自己概念を持ち主体的な存在である。
5. 人間は、一人一人かけがえのない存在である。
6. 人間は、無限の可能性をもつ存在である。

<環 境>

1. 環境は、内部環境と外部環境があり、人間を取り巻く全てのものである。
2. 環境は、人間と相互に影響し常に変化している。
3. 環境は、人間が社会の中でよりよく生きるための法律、政治、経済、文化、教育、保健、医療、福祉などの機能を含んでいる。

<健 康>

1. 健康は、個別的で自ら創り出すものである。
2. 望ましい健康とは、自己実現をめざし、環境と適応している状態である。
3. 健康は、環境に影響を受け常に変化している。
4. 健康は、最良な健康から死に至るまでの連続的な状態である。

<看 護>

1. 看護は、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重して行なうものである。
2. 看護は、あらゆる成長発達段階にある個人とその家族・集団・地域社会を対象とする。
3. 看護は、あらゆる健康の段階に応じた生活行動が整えられるよう支援することである。
4. 看護は、健康上の問題を明確にし、その問題を解決するために系統的に働きかけることである。
5. 看護は、対象となる人と看護者との人間関係を基盤として行なうものである。
6. 看護は、社会のニーズに対応するものである。
7. 看護は、保健・医療・福祉チームの中で協働しながら独自の機能と役割を担うものである。

<ディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針）>

トヨタ看護専門学校は、105単位の修得の認定を受け、学則に定める創造と人間理解の理念に基づき、学生に対して看護に関する基礎的知識、技術を教授し、人間形成を図り、保健・医療・福祉における専門職としての看護師を育成することを目的とする。

その実現のために下記的能力・資質を修得し、時代の要請と地域社会の要望に応え得る人材に専門士（医療専門課程看護科）を授与する。

1. 看護の対象である人を統合的に理解し、生活を営む存在として幅広くとらえることができている。
2. 対象との関係を発展させるために必要なコミュニケーション能力を身につけている。
3. 科学的根拠に基づき、看護を実践する能力を身につけている。
4. 人々の多様な価値観を認識し、専門職業人として共感的態度で他者を受容し、行動する力を身につけている。
5. 保健・医療・福祉における看護師および他職種の役割と機能を理解し、多職種連携に必要なコミュニケーション能力（連携・調整・協働する力を含む）を身につけている。
6. 人間の生命と尊厳・権利を尊重できる豊かな感性を身につけている。
7. 自己の倫理観をもち、礼節と節度を持って人に対応できる力を身につけている。
8. 自己の課題達成に向けて、主体的かつ継続的に取り組むことができている。
9. 地域のニーズに関心を持ち、課題解決に向けて考え、地域社会に貢献する姿勢を身につけている。
10. 社会の変化に応じて自ら研鑽できる能力を身につけている。

年次別到達目標

教育目標	1 年次	2 年次	卒業時
1. 人々の健康上の問題を解決するために、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。	1. 看護の対象である人を身体的、精神的、社会的側面から統合的に理解する。 1) 人体の構造と機能を理解する。 2) 人間の心の仕組みと発達について理解する。 3) 人間の生活の場である社会を理解する。 4) 人間は、身体・精神・社会が相互に関連していることを理解する。 2. 論理的に思考できる能力を養う。 1) 論理的思考を身につける。 2) 看護に応用できる基礎的能力を修得する。 3. 健康と健康障害について理解する。 1) 疾病の種類・病態・原因・症状・検査・治療を理解する。 2) 主な治療法について理解する。 3) 自己の健康管理について理解する。 4. 看護に共通する基本的技術・生活行動援助技術を学ぶ。	1. 他者とのかかわりの中で、よりよい人間関係を発展できる能力を身につける。 2. ライフサイクルにおける対象の特徴および健康問題とその看護について理解する。 1) ライフサイクルにおける対象の特徴を理解する。 2) 健康を保持・増進する看護を理解する。 3) 健康問題をもつ対象に応じた看護を理解する。	1. 看護の対象である人を統合的に理解し、生活を営む存在として幅広く捉えることができる。 2. 対象との関係を発展させるために必要なコミュニケーション能力を身につける。 3. 科学的根拠に基づき、看護を実践する能力を身につける。
2. 人々の多様な価値観を認識し、専門職業人としての共感的態度や倫理に基づいた態度を養う。	1. 人々の多様な価値観や生命の大切さを認識する。 2. 看護の対象を知り、看護とは何かを考える姿勢を身につける。	1. 看護師として、社会的責任と義務を自覚する態度を身につける。 2. 対象とのかかわりの中で、共感的態度を身につける。	1. 人々の多様な価値観を認識し、専門職業人として共感的態度で他者を受容し、行動する力を身につける。
3. 看護師としての役割を認識し、保健医療福祉チームの一員として機能できる基礎的能力を養う。	1. 看護への関心を深め、看護とは何かを理解する。 1) 看護・人間・環境・健康の概念を理解する。 2) 看護の役割と責任を自覚する。 2. 保健医療福祉チームの一員であることを自覚する。	1. 保健・医療・福祉に関する知識を学び、医療における看護の役割を理解する。 1) 保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、それらを調整する必要性を認識する。 2) 保健・医療・福祉の役割・機能と活用方法を理解する。	1. 保健・医療・福祉における看護師および他職種の役割を機能を理解し、多職種連携に必要なコミュニケーション能力（連携・調整・協働する力を含む）を身につける。
4. 生命を尊び、人としての権利を尊重して行動できる心豊かな人間性を養う。	1. 広く人間・文化・社会に対する教養を高める。 2. 人の権利について理解する。	1. 生命の尊厳を認識し、人間を尊重する態度を身につける。	1. 人間の生命と尊厳・権利を尊重できる豊かな感性を身につける。 2. 自己の倫理観をもち、礼節と節度を持って人に対応できる力を身につける。
5. 看護を発展させるために、継続的学習の基本的態度と習慣を養う。	1. 自主的に学習する習慣を身につける。 2. 自己学習の評価・修正を行い、継続する習慣を身につける。	1. 看護の実践を通して自ら研鑽できる能力を身につける。	1. 自己の課題達成に向けて、主体的かつ継続的に取り組むことができる。 2. 地域のニーズに関心を持ち、課題解決に向けて考え、地域社会に貢献する姿勢を身につける。 3. 社会の変化に応じて自ら研鑽できる能力を身につける。

別表 教育課程

	科目	単位	時間
基礎分野	【科学的思考の基盤】		
	基礎セミナーⅠ	1	30
	看護物理学	1	30
	論理学	1	30
	教育学	1	30
	統計学	1	15
	情報科学	1	30
	【人間と生活、社会の理解】		
	心理学	1	30
	人間関係論	1	30
	カウンセリング論	1	15
	健康科学	1	15
	倫理学	1	30
	文化人類学	1	15
家族社会学	1	30	
英語	1	30	
【基礎分野 小計】	14	360	
専門基礎分野	【人体の構造と機能】		
	解剖生理学Ⅰ	1	15
	解剖生理学Ⅱ	1	30
	解剖生理学Ⅲ	1	30
	解剖生理学Ⅳ	1	30
	臨床生化学	1	30
	【疾病の成り立ちと回復の促進】		
	臨床微生物学	1	30
	病理学	1	15
	病態治療論Ⅰ	1	30
	病態治療論Ⅱ	1	30
	病態治療論Ⅲ	1	30
	病態治療論Ⅳ	1	30
	病態治療論Ⅴ	1	30
	病態治療論Ⅵ	1	15
	臨床栄養学	1	30
	臨床薬理学	1	30
	基礎セミナーⅡ	1	15
	【健康支援と社会保障制度】		
	医療概論	1	15
	公衆衛生学	1	30
	社会福祉Ⅰ	1	15
	社会福祉Ⅱ	1	15
	関係法規Ⅰ	1	15
	関係法規Ⅱ	1	15
	【専門基礎分野 小計】	22	525
専門分野	【基礎看護学】		
	対象の理解・看護の目的Ⅰ	1	30
	対象の理解・看護の目的Ⅱ	1	30
	人間関係技術	1	15
	療養環境調整技術	1	15
	活動・休息援助技術	1	15
	清潔・衣生活援助技術	1	30
	食事・栄養/排泄援助技術	1	30
	ヘルスアセスメント	1	30
	安全・感染予防・生命活動を支える	1	30
	検査・治療における看護技術	1	30
	臨床判断	1	30
	看護過程	1	30
	看護理論・看護研究	1	15
	基礎看護学Ⅰ期実習	1	40
	基礎看護学Ⅱ期実習	2	80
	【小計】	16	450

	科目	単位	時間
専門分野	【地域・在宅看護論】		
	地域社会と看護	1	15
	地域療養を支えるケア	1	30
	在宅療養生活を支える技術	1	15
	療養を支える医療ケア	1	30
	療養者の状態理解と在宅看護	1	15
	療養の場の移行に伴う看護と多職種	1	15
	地域・在宅看護論実習	2	80
	【小計】	8	200
	【成人看護学】		
	成人期にある人の特徴と看護	1	15
	健康危機状況にある成人の看護	1	30
	慢性疾患をもつ成人を支える看護	1	30
	検査・治療を受ける成人の看護	1	15
	成人看護学実習Ⅰ（急性期の看護）	1	40
	成人看護学実習Ⅱ（慢性期の看護）	1	40
	成人看護学実習Ⅲ（終末期の看護）	2	80
	【小計】	8	250
	【老年看護学】		
	高齢者の理解と看護の基本	1	30
高齢者の生活を支える看護	1	30	
高齢者の継続看護	1	15	
老年看護学実習Ⅰ	1	40	
老年看護学実習Ⅱ	1	40	
老年看護学実習Ⅲ	1	40	
【小計】	6	195	
【小児看護学】			
小児の発達と看護	1	15	
小児の健康障害と看護	1	30	
小児の看護技術	1	30	
小児看護学実習	1	40	
【小計】	4	115	
【母性看護学】			
リプロダクティブヘルスと看護	1	15	
妊婦・産婦を支える看護	1	30	
褥婦・新生児を支える看護	1	30	
母性看護学実習	1	40	
【小計】	4	115	
【精神看護学】			
こころの健康と精神医療と看護	1	30	
精神看護の基本技術	1	15	
精神障がいのある人の看護	1	15	
精神看護学実習	2	80	
【小計】	5	140	
【領域横断】			
領域横断 健康支援論	1	30	
領域横断 周術期看護	1	30	
領域横断 終末期看護	1	30	
領域横断 問題解決法Ⅰ	1	30	
領域横断 問題解決法Ⅱ	1	15	
領域横断 問題解決法Ⅲ	1	30	
領域横断 健康支援論実習	2	80	
領域横断 継続看護実習	2	80	
領域横断 周術期看護実習	2	80	
【小計】	12	405	
【看護の統合と実践】			
看護マネジメント	1	30	
災害看護・国際看護	1	30	
医療安全	1	15	
看護技術の総合評価	1	15	
看護の統合と実践実習	2	80	
【小計】	6	170	
【専門分野 小計】	69	2040	
【総合計】	105	2925	

教育課程（年次別）

	科 目	単位	時間	第1年次		第2年次		第3年次	
				単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤								
	基礎セミナーⅠ	1	30	1	30				
	看護物理学	1	30	1	30				
	論理学	1	30	1	30				
	教育学	1	30			1	30		
	統計学	1	15					1	15
	情報科学	1	30			1	30		
	人間と生活、社会の理解								
	心理学	1	30	1	30				
	人間関係論	1	30	1	30				
	カウンセリング論	1	15	1	15				
	健康科学	1	15	1	15				
	倫理学	1	30			1	30		
	文化人類学	1	15	1	15				
	家族社会学	1	30	1	30				
	英語	1	30					1	30
	小 計	14	360	9	225	3	90	2	45
専門基礎分野	人体の構造と機能								
	解剖生理学Ⅰ	1	15	1	15				
	解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30				
	解剖生理学Ⅲ	1	30	1	30				
	解剖生理学Ⅳ	1	30	1	30				
	臨床生化学	1	30	1	30				
	疾病の成り立ちと回復の促進								
	臨床微生物学	1	30	1	30				
	病理学	1	15	1	15				
	病態治療論Ⅰ	1	30	1	30				
	病態治療論Ⅱ	1	30	1	30				
	病態治療論Ⅲ	1	30	1	30				
	病態治療論Ⅳ	1	30	1	30				
	病態治療論Ⅴ	1	30	1	30				
	病態治療論Ⅵ	1	15			1	15		
	臨床栄養学	1	30	1	30				
	臨床薬理学	1	30	1	30				
	基礎セミナーⅡ	1	15	1	15				
	健康支援と社会保障制度								
	医療概論	1	15	1	15				
	公衆衛生学	1	30	1	30				
社会福祉Ⅰ	1	15	1	15					
社会福祉Ⅱ	1	15			1	15			
関係法規Ⅰ	1	15	1	15					
関係法規Ⅱ	1	15			1	15			
小 計	22	525	19	480	3	45	0	0	

教育課程（年次別）

科 目	単位	時間	第1年次		第2年次		第3年次	
			単位	時間	単位	時間	単位	時間
基 礎 看 護 学								
対象の理解・看護の目的Ⅰ	1	30	1	30				
対象の理解・看護の目的Ⅱ	1	30	1	30				
人 間 関 係 技 術	1	15	1	15				
療養環境調整技術	1	15	1	15				
活動・休息援助技術	1	15	1	15				
清潔・衣生活援助技術	1	30	1	30				
食事・栄養/排泄援助技術	1	30	1	30				
ヘルスアセスメント	1	30	1	30				
安全・感染予防・生命活動を支える看護技術	1	30	1	30				
検査・治療における看護技術	1	30			1	30		
臨 床 判 断	1	30			1	30		
看 護 過 程	1	30			1	30		
看護理論・看護研究	1	15					1	15
基礎看護学Ⅰ期実習	1	40	1	40				
基礎看護学Ⅱ期実習	2	80			2	80		
小 計	16	450	10	265	5	170	1	15
地 域 ・ 在 宅 看 護 論								
地域社会と看護	1	15	1	15				
地域療養を支えるケア	1	30			1	30		
在宅療養生活を支える技術	1	15			1	15		
療養を支える医療ケア	1	30			1	30		
療養者の状態理解と在宅看護	1	15					1	15
療養の場の移行に伴う看護と多職種連携	1	15					1	15
地域・在宅看護論実習	2	80					2	80
小 計	8	200	1	15	3	75	4	110
成 人 看 護 学								
成人期にある人の特徴と看護	1	15	1	15				
健康危機状況にある成人の看護	1	30			1	30		
慢性疾患をもつ成人を支える看護	1	30			1	30		
検査・治療を受ける成人の看護	1	15			1	15		
成人看護学実習Ⅰ（急性期の看護）	1	40					1	40
成人看護学実習Ⅱ（慢性期の看護）	1	40					1	40
成人看護学実習Ⅲ（終末期の看護）	2	80					2	80
小 計	8	250	1	15	3	75	4	160
老 年 看 護 学								
高齢者の理解と看護の基本	1	30	1	30				
高齢者の生活を支える看護	1	30			1	30		
高齢者の継続看護	1	15			1	15		
老年看護学実習Ⅰ	1	40			1	40		
老年看護学実習Ⅱ	1	40					1	40
老年看護学実習Ⅲ	1	40			1	40		
小 計	6	195	1	30	4	125	1	40

専門分野

教育課程（年次別）

科 目	単位	時間	第1年次		第2年次		第3年次	
			単位	時間	単位	時間	単位	時間
小 児 看 護 学								
小児の発達と看護	1	15			1	15		
小児の健康障害と看護	1	30			1	30		
小児の看護技術	1	30			1	30		
小児看護学実習	1	40					1	40
小 計	4	115	0	0	3	75	1	40
母 性 看 護 学								
リプロダクティブヘルスと看護	1	15			1	15		
妊婦・産婦を支える看護	1	30			1	30		
褥婦・新生児を支える看護	1	30			1	30		
母性看護学実習	1	40					1	40
小 計	4	115	0	0	3	75	1	40
精 神 看 護 学								
こころの健康と精神医療と看護	1	30	1	30				
精神看護の基本技術	1	15			1	15		
精神障がいのある人の看護	1	15			1	15		
精神看護学実習	2	80					2	80
小 計	5	140	1	30	2	30	2	80
領 域 横 断								
領域横断 健康支援論	1	30	1	30				
領域横断 周術期看護	1	30			1	30		
領域横断 終末期看護	1	30			1	30		
領域横断 問題解決法Ⅰ	1	30			1	30		
領域横断 問題解決法Ⅱ	1	15			1	15		
領域横断 問題解決法Ⅲ	1	30			1	30		
領域横断 健康支援論実習	2	80			2	80		
領域横断 継続看護実習	2	80					2	80
領域横断 周術期看護実習	2	80					2	80
小 計	12	405	1	30	7	215	4	160
看 護 の 統 合 と 実 践								
看護マネジメント	1	30			1	30		
災害看護・国際看護	1	30					1	30
医療安全	1	15					1	15
看護技術の総合評価	1	15					1	15
看護の統合と実践実習	2	80					2	80
小 計	6	170	0	0	1	30	5	140
科目総合計	105	2925	43	1090	37	1005	25	830
教科外活動		143		46		56		41
総時間数		3068		1166		1096		881

専門分野

〔教科外活動〕

看護師を志すうえで、専門知識・技術の習得だけでなく、看護の専門職として豊かな感性を育む。

活動項目		月度	時間数			目的
			1年次	2年次	3年次	
学校行事	入学式	4月	2	1	1	1年次：入学を認定し、看護学生としての自覚を持つ 2・3年次：初心を振り返り看護師を志す上級生としての自覚を深める
	入学 オリエンテーション	4月	10			学校の教育課程、履修方法を理解し、主体的な学習をするための動機づけとする。また、学生生活を円滑に送るための諸規則、諸手続きを理解する。
	卒業式	3月	1	1	2	3年次：3年間の全課程を修了したことを祝い、専門職業人としての責任と自覚を新たにす
	灯火のルー	4月		1		看護師を志す者としての自覚を新たにし、今後の学習・臨地実習への動機づけとする
	防災訓練	5月 10月	2	2	2	災害に関する意識を高め、災害時の対処方法を学ぶ
健康診断	4月	3	3	3	自己の健康状態について把握し、健康管理への関心を深める	
交通安全教育	4月 12月	2	2	2	交通安全に関心を持ち、交通ルール、法的責任を理解し、事故防止への意識を高める	
交流会	4月 3月	5	5	5	学生が主体となって企画・運営を行い、他者との交流を通じて親睦を深める	
マナー講座	5月 2月	2			社会人・専門職業人としての接遇マナーを学ぶ	
自主研修	10月		12		看護に活用できる研修を企画・運営することで、主体性・計画性・協調性を養うと共に他者との親睦を深める。また、文化・芸術に触れることにより感性を育む。	
講演会参加	12月	2	2	2	講演を通して、看護に必要な幅広い知識と視野を持つ	
特別講義	通年	4	6	2	既習の知識を整理・統合し、看護に活用できる知識・技術を身に付ける	
国家試験対策	通年	4	2	4	看護師国家試験合格に向けて、学習力を身に付ける	
実習オリエンテーション 実習のまとめ	随時	9	23	14	実習の概要および実習方法・留意点を理解する。自己の看護を振り返り、経験の意味付けをすることで「思い」「根拠」を可視化し、看護観を深める。	
総時間数		143	46	60	37	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	基礎セミナー I	1 年次前期	1 単位	3 0 時間
科目責任者	金澤 寛明			
担当教員	金澤 寛明			
事前学習内容	日頃より読書の習慣、また文章を読んだら短くまとめる練習をおこなっておくこと。また計算に関しては、加減乗除は確実にしておくこと。重量、体積の単位については復習しておくこと。			
科目のねらい	本校での学ぶための基礎力を養成する。情報を検索し、まとめ、討論し、報告するという一連の過程を通じて、主体的に学習を実施していく手法、課題設定の仕方、表現スキルなどの修得を目指す。加えて正確な数値、計算、単位の取り扱いを身につける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分が必要とする情報を収集し、その真偽を判断できる。(第 1 ~ 9 回) 2. 自分が主張したい内容について、他者に判るように発表できる。(第 1 1 ~ 1 4 回) 3. 他者からの意見を正しく把握し、討論できる。(第 1 1 ~ 1 4 回) 4. 自分の考えをレポートとして正しくまとめることができる。(第 1 1 ~ 1 4 回) 5. 看護に必要な計算ができる。(第 1 0 回) 			
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの興味のある看護の事象から題材(テーマ)を決め、「調べる(根拠のある内容を見つける)」「まとめる(レポートの書き方)」「報告をする(プレゼンテーションの方法)」「ディスカッションをする(主体的に話し合いに参加する)」という学びの一連の過程を、講義、課題演習、情報検索、レポート作成を講義、演習、グループ学習を通して習得する。 2. 看護に必要な計算など演習を通して習得する。 			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	文章~わかりやすい日本語表現	講義・演習		
2	メモ	講義・演習		
3	レポート(論理的文章)の書き方	講義・演習		
4	レポートの構造、接続詞	講義・演習		
5	パラグラフライティング	講義・演習		
6	文章表現の正確さ	講義・演習		
7	情報検索方法・	講義・演習		
8	プレゼンテーションスキル	講義・演習		
9	メール	講義・演習		
10	基礎計算問題演習(看護に必要な計算)	講義・演習		
11	レポートのテーマ設定、レポートの作成、プレゼンテーション資料の作成	講義・演習		

12	レポートのテーマ設定、レポートの作成、プレゼンテーション資料の作成	演習
13	レポートのテーマ設定、レポートの作成、プレゼンテーション資料の作成	演習
14	レポートのテーマ設定、レポートの作成、プレゼンテーション資料の作成	演習
15	まとめ	
評価方法	グループワークの参加状況（20%）20点 発表討論の状況（30%）30点 レポート（50%）50点	
テキスト	NHK 出版 最新版 論文の教室 レポートから卒論まで	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	医師、看護教育の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	看護物理学	1 年次前期	1 単位	30 時間
科目責任者	奥宮 正洋			
担当教員	奥宮 正洋			
事前学習内容	中学校理科（身近な物理現象，運動とエネルギー等），高等学校数学 I（三角関数等）			
科目のねらい	看護に必要な物理の基礎概念や原理原則を学ぶ。			
到達目標	1. 医療で使用されている機器の仕組みを物理的な観点から理解し正しく使用できるようになる。 （第 1～14 回） 2. 人体の機構を物理的な観点から理解し，適した看護動作ができるようになる。 （第 1～14 回）			
授業概要	テキストを用いて説明を行うとともに，質疑による双方向授業を行う。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	<物理を学ぶ意味> I. 重いものを持つにはどうしたらよいか 1. 力のモーメント 2. てこの原理と人体中での応用 3. 筋肉の張力と関節にはたらく力 1) 僧帽筋の張力 2) 腓腹筋の張力	講義		
2	3) 上腕二頭筋の張力（第 3 種のとこ） 4) 人体メカニズムの力学模型 4. 腰にかかる力	講義		
3	II. 看護ボディメカニクスの物理 1. ベッド上の患者の状態を起こす方法 2. 小さな力でも大きな効果が 3. 看護ボディメカニクスの物理的重点事項 1) まず、前準備、ベッドの高さを調節 2) 両足を広げ、安定性を増す 3) 膝を曲げて低い姿勢をとる 4) 持ち上げるより水平にずらす 5) 自分に近づける方向に引っ張る 6) 自分の横方向への作業は非効率 7) 力を節約するための工夫	講義		
4	8) 最も重い部分を広い面積で支える 9) 強い筋肉を優先的に使い、自分の体重も利用する 10) 急激な速さの変化や方向の変化を避ける III. 身近な圧力 1. 圧力とは何か	講義		
5	2. もし気圧が変わったら人間はどうなるか 3. 入浴とベッドの圧力効果	講義		

6	IV. 呼吸器と吸引の原理 1. 肺はどのようにして呼吸をするのか 2. 吸引（胸腔ドレナージ） 1) 3連ボトルシステム	講義
7	2) チェスト・ドレーン・バッグ 3) 気管吸引 3. サイフォン	講義
8	中間まとめ	講義
9	V. 点滴静脈内注射の物理 1. 点滴静脈内注射のセッティング	講義
10	2. 流量の調節 3. 輸液バッグの高さ	講義
11	VI. 循環器の物理 1. ポンプとしての心臓 2. 血液循環と血圧 3. 血圧が測定できる理由	講義
12	4. いろいろなタイプの血圧計	講義
13	5. 血圧の重力による影響	講義
14	その他の看護に関連する物理	講義
15	まとめ	
評価方法	筆記試験 100% (100点)	
テキスト	医学書院 看護学生のための物理学	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護物理学に精通した講師が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	論理学	1 年次後期	1 単位	30 時間
科目責任者	浦 英雄			
担当教員	浦 英雄			
事前学習内容	講義の前に、論理学とはどのような学問であるかを調べておこう。			
科目のねらい	系統的に物事を考えることの意義・方法を学ぶ。			
到達目標	1. 論理的思考及びその言語的表現について学ぶ。(第 1～14 回) 2. 自らの意見を正しく伝達する力を身につける。(第 1～14 回)			
授業概要	物事を論敵的に考える、話す、記述する力を身につけるために、講義だけでなく、自分の考えをまとめる演習も組み入れていく予定です。			
授業展開				
回	学習内容			方法
1・2	I. 論理学とは何か			講義
3・4	II. 命題と推論			講義
5・6	III. 論理的に考える			講義
7・8	IV. 論理的に書く一文の構造			講義・演習
9・10	V. 論理的に書く文章の構造			講義・演習
11・12	VI. 論理的に議論するー方法と組み立て			講義・演習
13・14	VII. 論理的に議論するー演習			講義・演習
15	まとめ			
評価方法	レポート100% (100点)			
テキスト	教員による資料提示			
参考書	必要時、適時紹介する。			
実務経験のある教員による授業	論理学に精通した講師が担当			

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	統計学	3年次前期	1単位	15時間
科目責任者	青山 和裕			
担当教員	青山 和裕			
事前学習内容	特になし			
科目のねらい	統計の基礎を知り、統計資料を読み取る方法を学ぶ。			
到達目標	医療・看護研究で用いられる統計的手法について知り、推定・検定等の背景にある数理統計学の理論を理解し、実践できるようにする。(第1～8回)			
授業概要	データの特徴・種類や統計グラフ等の記述統計に関する基礎から始め、 χ^2 乗検定、t 検定を扱う。授業において実際のデータを用いて演習形式で行う。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 統計学入門 【4H】 II. 統計データの種類とまとめ方	講義・演習		
3・4	III. 確率と分布 【4H】 IV. 母集団・標本と推定	講義・演習		
5・6	V. 各種検定 【4H】	講義・演習		
7・8	VI. データ分析演習 【3H】	演習		
評価方法	筆記試験 50% (50点) レポート評価 50% (50点)			
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 統計学			
参考書	必要時、適時紹介する。			
実務経験のある教員による授業	統計学に精通した講師が担当			

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	情報科学	2年次後期	1単位	30時間
科目責任者	堀場 文彰			
担当教員	堀場 文彰			
事前学習内容	日常的に情報機器に触れ、次回の講義に該当する内容を予習しておくことが望ましい。			
科目のねらい	情報化社会に対応できる能力を身につけるために、必要な情報を自律的に収集・処理・活用する基礎的な知識を習得する。情報を科学的に認識し、適切に扱う知識と技能を身に付けることを目指す。			
到達目標	1. 情報の特質を理解し、論理的に情報を取り扱うことができる。(第1回) 2. 情報機器やネットワークの特性を理解し、情報を安全に活用することができる。(第2～3回) 3. 文書作成や表計算などの操作技術を身に付ける。(第4～14回)			
授業概要	コンピュータやネットワーク知識、セキュリティについて理解を深める。また、コンピュータの基本的な技能を習得し、膨大な情報の中から必要とする情報を的確に得るためにどのようにすればよいか、また、その情報をどのように処理、蓄積し、そして利用するかを学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 情報処理の概念 データと情報、アナログとデジタル	講義・演習		
2	II. 医療における情報処理 1. 情報と倫理 2. 看護師に必要な情報処理技術	講義・演習		
3	III. 病院情報システム	講義・演習		
4	IV. ワープロと表計算 1. ワープロ活用 I (タイピング・基本操作)	講義・演習		
5	2. ワープロ活用 II (ビジネス文書)	講義・演習		
6	3. 表計算活用 I (基本操作)	講義・演習		
7	4. 表計算活用 II (相対参照/絶対参照)	講義・演習		
8	5. 表計算活用 III (グラフ)	講義・演習		
9	6. 表計算活用 IV (日付)	講義・演習		
10	7. 表計算活用 V (統計関数)	講義・演習		
11	V. 論文検索 (医中誌)	講義・演習		
12	VI. プレゼンテーションスキル 1. プレゼンテーション I (効果的なプレゼンテーション)	講義・演習		

13	2. プレゼンテーションⅡ (特殊効果)	講義・演習
14	VII. 情報セキュリティ	講義・演習
15	まとめ	
評価方法	筆記試験80% (80点) 提出物提出状況10% (10点) 受講態度10% (10点)	
テキスト	例題 50+ 演習問題 100 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows11/Office2021	
参考書	必要時、適宜紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	情報科学に精通した講師が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	心理学	1 年次前期	1 単位	30 時間
科目責任者	井村 安之			
担当教員	井村 安之			
事前学習内容	テキストの指定章と配布資料に目を通し、概要を把握しておく。			
科目のねらい	自己と他者を理解するための基礎的知識として、こころの発達や働きについて学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学を学ぶ意義を理解する。(第 1 回) 2. 人間の基本的な心の仕組みと働きについて理解する。(第 2～5 回) 3. 対人関係や集団の心理について理解する。(第 6～11 回) 4. 人間の心理的な発達について理解する。(第 12 回～14 回) 5. 心理学を学ぶことを通して自己理解を深める。(第 1～14 回) 			
授業概要	心理学とは何か、心理学の方法、歴史などについて概説し、心理学を学ぶ意義について明らかにしたのち、一般的な心理学の基本的な事項を学ぶ。また、授業では、心理学の基礎がどのように実生活と結びついているかについて触れ、臨床現場で役立つように解説をしていく。また、この授業を通して自己理解を深める機会としたい。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 心理学とは <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは何か 2. 対人援助と心理学 3. 心理学の歴史 4. 心理学の研究方法 	講義		
2・3	II. 感覚と知覚 <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚・知覚とは 2. 感覚の諸現象 3. 錯覚と体制化 	講義		
4・5	III. 記憶 <ol style="list-style-type: none"> 1. 記憶のメカニズム 2. 短期記憶と長期記憶 IV. 思考・言語・知能 <ol style="list-style-type: none"> 1. 思考とは 2. 言語の働き 3. 知能とは 	講義		
6・7	V. 学習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習とは 2. 古典的条件づけとオペラント条件づけ 3. 社会的学習理論 	講義		
8・9	VI. 感情と動機づけ <ol style="list-style-type: none"> 1. 感情とは 2. 感情のメカニズム 3. 動機・欲求 4. 内発的動機づけと外発的動機づけ 5. 動機づけの理論 	講義		

10	Ⅶ. 性格とパーソナリティ 1. 性格とは 2. 類型論と特性論	講義
11	Ⅷ. 社会と集団 1. 社会的認知 2. 態度と説得的コミュニケーション 3. 対人魅力 4. 集団とリーダーシップ	講義
12～14	Ⅸ. 発達 1. 発達とは 2. 発達段階と発達課題 3. 発達の要因 4. 初期発達 5. 乳幼児の発達 6. 児童・青年の発達 7. 成人・高齢者の発達	講義
15	まとめ	講義
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	医学書院 系統看護学講座 基礎分野 心理学	
参考書	必要時、紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	心理学に精通した講師が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	人間関係論	1年次前期	1単位	30時間
科目責任者	楠本 かおり			
担当教員	楠本 かおり			
事前学習内容	毎回の授業で取り上げた章を、授業後に熟読し、演習の体験を振り返って次の授業への準備としてください。			
科目のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して、人間関係における様々な要素に目を向け、関わり方を考える。 ・自己、他者、グループの動きに気づき、関わるスキル・態度、知識を学ぶ。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「体験から学ぶ」という学び方を理解する。(第1回) 2. 自分自身のコミュニケーションや、他者やグループとの関わり方に気づく。(第2～15回) 3. 体験で得た学びから次の行動目標をたて、自己成長に取り組むことができる。 (第2～15回) 			
授業概要	この授業は、体験学習方式で行われます。人間関係を体験するための演習と、理論に照らして体験を整理し学ぶための小講義によって、自分自身のコミュニケーション、他者やグループとの関わり方の理解に取り組みます。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 人間関係論とは	講義・演習		
3・4	II. 人間関係の意義 III. 人間関係の成立過程	講義・演習		
5～12	IV. コミュニケーションに関する理論 V. コミュニケーション技術	講義・演習		
13・14	VI. 人間関係の発達	講義・演習		
15	まとめ	講義・演習		
評価方法	レポート100% (100点)			
テキスト	ナカニシヤ出版 人間関係の学び方			
参考書	必要時、適宜紹介する。			
実務経験のある教員による授業	人間関係学に精通した講師が担当			

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	カウンセリング論	1 年次後期	1 単位	1 5 時間
科目責任者	楠本 かおり			
担当教員	楠本 かおり			
事前学習内容	心理学や人間関係論で学んだ内容を復習しておく。普段の生活の中で、自分を振り返る習慣をつけておいてください。			
科目のねらい	カウンセリングの考え方や方法を看護に生かすことができるようにカウンセリングについて学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの基本的概念について理解することができる。(第 1 ～ 2 回) 2. カウンセリング関係の特性について説明することができる。(第 3 回) 3. カウンセリングの過程、実際の進め方について説明することができる。(第 4 回) 4. 医療職にとってのカウンセリングの意義と限界を説明することができる。(第 4 回) 5. ロールプレイを通して、自らの課題に気づき、振り返ることができる。(第 5 ～ 7 回) 			
授業概要	基礎理論と実践を通して、カウンセリング技法を学びます。共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につけることも目的の一つである。アサーティブトレーニングやロールプレイなど、場面設定した演習を取り入れ、他者も自分も尊重し、誠実な態度や正直・素直に自分を表現することをめざしましょう。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) カウンセリングとは 2) カウンセリングと心理療法の関係 	講義		
2	<ol style="list-style-type: none"> 2. カウンセリングの基礎理論 <ol style="list-style-type: none"> 1) カウンセリングの歴史的発展 2) 基本的人間観 3) パーソナリティ 	講義		
3	<ol style="list-style-type: none"> 3. カウンセリングにおける関係と援助者としての条件 <ol style="list-style-type: none"> 1) カウンセリング関係の原則 2) 関係でおこる問題 3) 援助者としての条件 	講義		
4	<ol style="list-style-type: none"> 4. カウンセリング過程 5. 医療におけるカウンセリングの意義と限界 	講義		
5～7	<ol style="list-style-type: none"> 6. 試行カウンセリングの実践・ロールプレイ 	演習		
8	まとめ			
評価方法	筆記試験 100% (100点)			
テキスト	なし (講師が準備した資料、事前に資料提示予定)			
参考書	必要時適時紹介する。			
実務経験のある教員による授業	人間関係学に精通した講師が担当			

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	健康科学	1 年次前期	1 単位	1 5 時間
科目責任者	若月 徹			
担当教員	若月 徹			
事前学習内容	毎回の授業で抽出された学習課題を自主学習し、結果をレポートにまとめる。			
科目のねらい	人の健康、現代社会の環境問題を理解し、自己の健康管理、および対象の健康教育に役立てる。			
到達目標	1. 健康の定義を説明できる。(第 1～3 回) 2. 生活の質 (QOL) について説明できる。(第 4～6 回) 3. 健康増進のための運動を説明とともに実践することができる。(第 7 回)			
授業概要	健康の定義の理解すすめ、身近な健康問題とついでその解決法などを PBL(Problem Based Learning)形式で学習する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 健康の概念 1. 健康の理解 2. 健康の定義	講義		
2	3. 健康に影響する因子 4. 健康の政策	講義		
3	5. 健康の捉え方 6. 看護における健康概念	講義		
4	II. 健康の指標 1. 個人の健康指標	講義		
5	2. 集団の健康指標	講義		
6・7	III. 健康と運動	演習		
8	まとめ			
評価方法	筆記試験 100% (100点)			
テキスト	講師による資料配布			
参考書	必要時、適時紹介する。			
実務経験のある教員による授業	健康科学に精通した講師が担当			

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	倫理学	2 年次後期	1 単位	3 0 時間
科目責任者	三谷 竜彦			
担当教員	三谷 竜彦			
事前学習内容	取り扱うテーマの多くは、新聞・ニュースなどでもしばしば報じられている。新聞・ニュースなどでの報道に接した際には、注意深く読んで・見ておくように。そのテーマについての最新の情報を得ることができる。			
科目のねらい	人間存在の意味を探求し、自己の倫理観・道徳観を深める。 医療現場の倫理的諸問題に関心をもち、看護者としての姿勢を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における倫理的諸問題について、基本的な事実を学ぶことにより、基本的な事柄を説明できるようになる。(第 1～4 回) 2. 現代社会における倫理的諸問題について、多様な考え方を学ぶことにより、多様な観点から考察できるようになる。(第 5～11 回) 3. 現代社会における倫理的諸問題について、上記 1)2)に基づいて(憶測ではなく事実に基づき、また独断ではなく多様な考え方を踏まえ)、自身の考え方を表現できるようになる。 (第 12～15 回) 			
授業概要	現在、社会のさまざまな場面でさまざまな倫理的問題が生じている。例えば人間や動物の生命をめぐる、あるいは自由・平等や社会の中での個人のあり方をめぐってなど。本講義では、こうした諸問題を取り上げ、考察していく。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 日常道徳と倫理	講義		
3・4	II. 現代生活と倫理	講義		
5・6	III. 生命倫理 1. 人工授精 2. 遺伝子治療 3. 人工妊娠中絶	講義		
7・8	4. 脳死 5. 臓器移植	講義		
9・10	6. 尊厳死 7. 安楽死 8. 人工臓器	講義		
11・12	IV. 日常生活と倫理 1. 表現の自由と規制	講義		
13・14	2. 公と私、平等	講義		
15	3. 社会の中の個人	講義		
16	まとめ			

評価方法	筆記試験 100% (100点)
テキスト	教員による資料提示
参考書	必要時、適時紹介する。
実務経験のある 教員による授業	倫理学に精通した講師が担当

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	文化人類学	1年次後期	1単位	15時間
科目責任者	野澤 暁子			
担当教員	野澤 暁子			
事前学習内容	講義に該当する内容を予習しておくことが望ましい。			
科目のねらい	自分が住む社会の文化を理解するとともに、世界の多様な文化、社会、価値観を学ぶ。			
到達目標	文化がもつ様々な働きや、思考・行動との関係性を具体的に理解し、人間の多様な受療行動の文化的・社会的背景を考える。(第1～7回)			
授業概要	人間が生存のために行ってきた多面的な活動とその蓄積された文化・慣習に対する普遍性と多様性を学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容			方法
1	I. 人間と文化			講義
2	II. 個人・家族・家族をこえたつながり			講義
3	III. 人生と通過儀礼			講義
4	IV. 宗教と世界観			講義
5・6	V. 健康と医療			講義
7	VI. いのちと文化			講義
8	まとめ			
評価方法	筆記試験 100% (100点)			
テキスト	医学書院 系統看護学講座 基礎分野 文化人類学			
参考書	必要時、適時紹介する。			
実務経験のある教員による授業	文化人類学に精通した講師が担当			

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	家族社会学	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	小林 尚司 岡田 摩理 原田 真澄			
担当教員	小林 尚司 岡田 摩理 原田 真澄			
事前学習内容	現代の家族が抱える問題について、新聞やニュースなど興味関心をもって注意深く読んで見ておく。			
科目のねらい	現代家族の特徴を知り、家族の抱える問題とさまざまな家族のありようを学ぶ。			
到達目標	1. 人間生活の基盤としての家族を社会的視点から考察し理解する。(第1～6回) 2. 家族の構造と機能、人間関係、発達段階、家族変化の発生、家族のストレス反応などの概念を理解する。(第7～14回)			
授業概要	少子・高齢化が進む中で、育児不安、寝たきり老人の介護問題など、家族にかかわる多数の問題がある。家族社会的視点から家族の構造や機能、家族の環境、人間関係、家族変化などの反応について学び理解を深める。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 家族社会学とは II. 家族とは 1. 家族とは	講義		
2	2. 家族の構造 (家族の形態・家族構成)	講義		
3	3. 家族の機能 (家庭の機能と役割の変化)	講義		
4	4. 家族の発達段階 (家族の周期とライフサイクル)	講義		
5	5. 国内外の家族を取り巻く社会的・文化的背景	講義		
6	6. 家族を理解するための諸理論	講義		
7・8	III. 夫婦関係	講義		
9・10	IV. 親子関係 V. 少子化	講義		
11・12	VI. 青少年の問題	講義		
13・14	VII. 高齢者と家族	講義		
15	まとめ			
評価方法	筆記試験100% (100点)			
テキスト	講師による資料配布			
参考書	必要時、適宜紹介する。			
実務経験のある教員による授業	家族社会学に精通した講師が担当			

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
基礎分野	英語	3年次前期	1単位	30時間
科目責任者	Robert Allen Cousino			
担当教員	Robert Allen Cousino			
事前学習内容	高校までの英語を復習しておく事			
科目のねらい	グローバル社会において、国際語としての英語能力は欠くことのできないものである。国際社会で知識を共有するため、また外国人患者さんとコミュニケーションを取るためにも、これまで以上に英語で他者の考えや意思などを理解し、自らの意見を自分の言葉で他者に伝えることが必要とされる。本科目では、これらの能力を高めるために英会話を学習する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護・医療のトピックを取り扱い、リスニング・スピーキングを中心とした英語力を身につけ、英語による基礎的コミュニケーション能力を高める。(第1～14回) 2. 英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の立場や意見を交えて英会話ができるようにする。(第1～14回) 			
授業概要	基礎的な英語力・英会話能力をつけ、(外国人患者さんに対応できる)看護・医療場面で使われる会話ができるようにリスニング・スピーキングを中心として英語力を身につける。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1～14	テキストをもとに文章読解および英会話	講義・演習		
15	まとめ			
評価方法	筆記試験100%(100点)			
テキスト	American Headway Starter (3rd edition)			
参考書	必要時、適時紹介する。			
実務経験のある教員による授業	英語に精通したネイティブの講師が担当			

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	解剖生理学 I	1 年次前期	1 単位	1 5 時間
科目責任者	加藤 好光			
担当教員	加藤 好光			
事前学習内容	高校の生物や化学、物理の内容を復習しておく。該当のワークブックを実施しておく。			
科目のねらい	専門教育を学習するために必要となる、基礎的な正常人体の構造と機能およびその学術用語を学ぶ。 解剖生理学 I では、解剖生理学を学ぶ基本と、細胞、組織、器官について学び、筋骨格系の構造と機能、皮膚・粘膜を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学、生理学とは何かを説明できる。(第 1 回) 2. 人体を構成する細胞の構造、それらの集合体である組織や器官の特徴とその構造を説明できる。(第 2 回) 3. 骨格系、筋肉系の構造と機能を説明できる。(第 3～6 回) 4. 運動における神経系と筋の役割・収縮機構を説明できる。(第 3～4 回) 5. 皮膚と粘膜の構造と機能を説明できる。(第 7 回) 			
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトのからだの構造と機能を知り体系的に理解するため、人体構造を細胞・組織・器官・システムレベルで学習する。 2. さらに生体のしくみとその働きについて学習する。 3. また生命現象を理解するための基本的な考え方と学術用語を習得する。 			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 人体の構造と機能について <ol style="list-style-type: none"> 1. 形からみた人体 (体表からみた人体の部位、人体の構造と区分、人体の部位と器官、腹膜、方向と位置を示す用語) 2. 器官系 II. 体液とホメオスタシス	講義		
2	III. 細胞・組織 <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞 (細胞小器官・細胞骨格・化学成分) 2. 細胞膜の構造と機能 3. 細胞の増殖と染色体 4. 組織 (上皮組織・筋組織・結合組織・神経組織) 	講義		
3	IV. 身体の支持と運動 (骨格系、筋系、神経系の一部) <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨格 (総論) 2. 関節 3. 筋 (総論) 4. 神経 (総論の一部、運動神経、反射) 	講義		
4	<ol style="list-style-type: none"> 5. 運動のメカニズム 6. 骨格と筋 (各論: 体幹の骨格と筋) 	講義		
5	<ol style="list-style-type: none"> 7. 骨格と筋 (各論: 上肢の骨格と筋) 	講義		

6	8. 骨格と筋（各論：下肢の骨格と筋） 9. 骨格と筋（各論：頭頸部の骨格と筋）	講義
7	V. 皮膚・粘膜	講義
8	まとめ	
評価方法	筆記試験 100%（100点）	
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学	
参考書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学	
実務経験のある 教員による授業	臨床検査技師の実務経験があり、解剖生理学に精通した講師が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	解剖生理学Ⅱ	1年次前期	1単位	30時間
科目責任者	加藤 好光			
担当教員	加藤 好光			
事前学習内容	高校の生物や化学、物理の内容を復習しておく。 解剖生理学Ⅰの内容も理解しておく。該当のワークブックを実施しておく。			
科目のねらい	専門教育を学習するために必要となる、基礎的な正常人体の構造と機能およびその学術用語を学ぶ。 解剖生理学Ⅱでは、消化器系、泌尿器系、生殖器系の構造と機能を学ぶ。			
到達目標	1. 消化器系の構造と機能を説明できる。(第1～6回) 2. 泌尿器系の構造と機能を説明できる。(第7～9回) 3. 生殖器系の構造と機能を説明できる。(第10～14回)			
授業概要	1. 消化・吸収に関わる消化管と消化腺の構造・機能を学習する。 2. 尿の生成と排出に関わる泌尿器系の構造・機能と体液の調節について学習する。 3. 男女の生殖器の構造・機能、および妊娠と出産、胎児の成長を学習する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 消化・吸収 1. 消化器系の構造と機能(口腔、食道、胃、小腸、大腸、唾液腺、肝臓、膵臓)	講義		
2	2. 消化管(口～口腔、歯、食道)	講義		
3	3. 消化管(胃、小腸、大腸、肛門)	講義		
4	4. 消化腺(唾液腺、肝臓・胆嚢、膵臓)	講義		
5	5. 消化液の分泌と機能(唾液腺、胃液、腸液、膵液、胆汁) 6. 栄養摂取の機能(炭水化物、タンパク質、脂質、水・電解質・ビタミン)	講義		
6	7. 消化機能(咀嚼、嚥下、食道の運動、胃の運動、胃酸の分泌作用、ペプシンの分泌機序、ペプシンの消化作用、小腸の運動、腸液、腸液の分泌機序、膵液の成分、膵液の分泌機序、胆汁、大腸の機能)	講義		
7	II. 排泄 1. 泌尿器系の構造(腎臓、尿管、膀胱、尿道)	講義		
8	2. 腎臓の機能(腎小体の機能、尿細管、GFR、クリアランス、水の再吸収、レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系、排尿の神経機構、排泄の機能)	講義		
9	3. 体液の調節(水の出納、脱水、電解質の異常、酸塩基平衡)	講義		
10	III. 生殖器系 1. 女性生殖器の構造と機能(子宮、卵巣、卵管、膣、外陰部)	講義		

11	2. 女性生殖器の構造と機能 (性周期)	講義
12	3. 男性生殖器の構造と機能	講義
13	4. 妊娠と出産	講義
14	5. 胎児	講義
15	まとめ	
評価方法	筆記試験 100% (100点)	
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学	
参考書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学	
実務経験のある 教員による授業	臨床検査技師の実務経験があり、解剖生理学に精通した講師が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	解剖生理学Ⅲ	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	加藤 好光			
担当教員	加藤 好光			
事前学習内容	高校の生物や化学、物理の内容を復習しておく。解剖生理学Ⅰ・Ⅱの内容も理解しておく。該当のワークブックを実施しておく。			
科目のねらい	専門教育を学習するために必要となる、基礎的な正常人体の構造と機能およびその学術用語を学ぶ。 解剖生理学Ⅲでは、呼吸器系と循環器系の構造と機能を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系の構造と機能を説明できる。(第1回) 2. 呼吸によるガス交換と酸塩基の調節を説明できる。(第2～4回) 3. 循環器系の構造と機能を説明できる。(第5～8回) 4. 血圧について説明できる。(第9回) 5. 血液について説明できる。(第10回) 6. 生体防御について説明できる。(第11～12回) 7. 体温調整について説明できる。(第13～14回) 			
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系の構造と機能およびその調節メカニズムとホメオスタシスの関係を学習する。 2. 循環器系の構造と機能およびその調節メカニズムと血圧との関係を学習する。 3. 血液について学習する。 4. 免疫系について学習する。 5. 代謝と体温調節について学習する。 			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 呼吸器系と呼吸 1. 呼吸器系の構造 (鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺)	講義		
2	2. 呼吸 (呼吸運動、呼吸筋、肺気量分画、努力呼気曲線、酸素の取り込み、血液中のガス組成)	講義		
3	3. 呼吸 (呼吸中枢、呼吸反射、末梢性化学受容体、中枢性化学受容体、病的呼吸)	講義		
4	4. 呼吸 (呼吸気のガス組成、肺におけるガス交換、生体の酸塩基平衡)	講義		
5	II. 循環器系と血液 1. 循環器系の構造 (動脈と静脈、心臓、リンパ性器官)	講義		
6	2. 心臓と血液循環 (心臓の構造、心臓と循環の経路、刺激伝導系)	講義		
7	3. 心臓と血液循環 (心電図、心周期および圧変化と弁の開閉)	講義		
8	4. 心臓と血液循環 (血管、血圧、心機能の調節、心臓の神経支配)	講義		

9	5. 血圧、血圧・血流量の調節 6. 微小循環 7. 循環器系の病態（チアノーゼ、高血圧、心不全、浮腫）	講義
10	8. 血液（血液の組成、血液細胞、血漿たんぱく質、凝固時間、血液型）	講義
11	Ⅲ. 生体防御 1. リンパとリンパ管	講義
12	2. リンパ組織と免疫	講義
13	Ⅳ. 代謝と運動 1. 代謝と運動	講義
14	2. 体温とその調節	講義
15	まとめ	
評価方法	筆記試験 100%（100点）	
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学	
参考書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学	
実務経験のある 教員による授業	臨床検査技師の実務経験があり、解剖生理学に精通した講師が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	解剖生理学Ⅳ	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	加藤 好光			
担当教員	加藤 好光			
事前学習内容	高校の生物の内容を復習しておく。 解剖生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容も理解しておく。該当のワークブックを実施しておく。			
科目のねらい	専門教育を学習するために必要となる、基礎的な正常人体の構造と機能およびその学術用語を学ぶ。 解剖生理学Ⅳでは、内分泌系と神経系、感覚器系、皮膚の構造と機能を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌系の構造と機能を説明できる。(第1～2回) 2. ホルモンによるホメオスタシスの調整を説明できる。(第3～4回) 3. 神経系の構造と機能を説明できる。(第5～11回) 4. 感覚器系の構造と機能を説明できる。(第12～14回) 5. 皮膚の構造と機能を説明できる。(第13回) 			
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌系の構造と機能では、全身の内分泌器官とホルモン、およびそのホルモンによる生体の調節機能を学ぶ。 2. 神経系の構造と機能では、神経の基本的な機能、中枢神経系(脳と脊髄)、末梢神経(脳神経と脊髄神経)、運動制御、自律神経系などを学ぶ。 3. 感覚器系では、視覚器、聴覚・平衡覚器、味覚器、嗅覚器の構造と機能を学ぶ。 4. 皮膚の構造と機能、体性感覚を学ぶ。 			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 内分泌系 1. 内分泌系の構造と機能(下垂体、甲状腺)	講義		
2	2. 内分泌系の構造と機能(上皮小体、副腎、膵臓ランゲルハンス島)	講義		
3	3. 液性調節(ホルモンによる調節)	講義		
4	4. ホルモン分泌調節	講義		
5	II. 脳・神経系 1. 神経系の構造と機能(髄膜と脳室、大脳皮質、間脳、中脳、橋、延髄、小脳、脊髄)	講義		
6	2. 神経系の構造と機能(脳神経と脊髄神経)	講義		
7	3. 神経系の構造と機能(自律神経系)	講義		
8	4. 神経とシナプス(静止膜電位、活動電位、Kイオン、Naイオン、ニューロン、シナプス、興奮性シナプス電位、抑制性シナプス電位)	講義		

9	5. 筋の機能と神経による運動制御（骨格筋の微細構造、筋原線維、神経筋単位、神経筋接合部、アセチルコリン、終板電位、興奮収縮連関、単収縮と強縮、筋電図、脊髄反射、延髄の機能、大脳基底核の機能、小脳の機能）	講義
10	6. 大脳機能と自律神経系（大脳皮質の機能局在、脳波、レム睡眠、ノンレム睡眠、自律神経系）	講義
11	7. 伝導路（運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路）	講義
12	Ⅲ. 感覚器系・皮膚 1. 感覚器系の構造と機能（眼球と視覚、耳と聴覚・平衡覚、味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚）	講義
13	2. 皮膚の構造と機能	講義
14	3. 感覚（感覚の分類、体性感覚の分類と受容器、皮膚感覚、皮膚節、痛覚、体性感覚の伝導路、Brown-Sequard 症候群、体性感覚野、聴覚、網膜、視覚の伝導路、前庭感覚と平衡）	講義
15	まとめ	
評価方法	筆記試験 100%（100点）	
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学	
参考書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学	
実務経験のある 教員による授業	臨床検査技師の実務経験があり、解剖生理学に精通した講師が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	臨床生化学	1年次前期	1単位	30時間
科目責任者	大橋 鉦二			
担当教員	大橋 鉦二			
事前学習内容	高校の生物や化学、物理の内容を復習しておく。			
科目のねらい	生化学は生物を化学の視点から理解することを目指す学問である。医療の現場には、生化学によって説明される多くの現象が存在する。どのようにして医薬品が効くのか、どのようにして病気になるのか、どのようにして生命活動が維持されるのか、これらを理解するためには、生化学の知識を欠かすことはできない。ここでは、医療従事者（専門職業人）として必要な生命活動に対する基礎的な理解と適切な感覚を得ることを目指す。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の成り立ちと最小基本単位である細胞の構造や役割について理解する。（第1回） 2. 身体の中で代謝の流れをつくる酵素の働きを理解する。（第2回） 3. 生体で起きている代謝機能について理解する。（第2～9回） 4. 遺伝情報の保存、発現について、病気と遺伝子との関係について学ぶ。（第10～14回） 			
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 化学の基礎知識を復習し、代謝について学ぶ。 2. 細胞の構造と機能を化学的側面より学ぶ。 3. 生体構成成分の構造と性質、それらの代謝を学び、病気との関係を学ぶ。 4. 遺伝の発現と病気と遺伝子との関係を学ぶ。 			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 生体を構成する物質とその代謝 1. 生化学を学ぶための基礎知識	講義		
2	2. 代謝の基礎と酵素・補酵素	講義		
3	3. 糖質の構造と機能	講義		
4	4. 糖質代謝	講義		
5	5. 脂質の構造と機能	講義		
6	6. 脂質代謝	講義		
7	7. タンパク質の構造と機能	講義		
8	8. タンパク質代謝	講義		
9	9. ポルフィリン代謝と異物代謝	講義		
10	II. 遺伝情報とその発現 1. 遺伝子と核酸	講義		
11	2. 遺伝子の複製・修復・組換え	講義		

12	3. 転写	講義
13	4. 翻訳と翻訳後修飾	講義
14	Ⅲ. 細胞のシグナル伝達とがん 1. シグナル伝達 2. がん	講義
15	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 生化学	
参考書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学	
実務経験のある 教員による授業	臨床検査技師の実務経験があり、生化学に精通した講師が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	臨床微生物学	1年次前期	1単位	30時間
科目責任者	須垣 佳子 佐藤 文明 松井 直明			
担当教員	須垣 佳子 佐藤 文明 松井 直明			
事前学習内容	高校で学習した生物の内容を復習しておく。			
科目のねらい	感染症の原因となる病原微生物（細菌、ウイルス）、寄生虫に関する十分な知識を身につけ、看護実践における感染症の予防と治療に関して指導的な役割を担えるようになる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床微生物・医動物の種類と特徴を説明できる。（第1回） 2. 常在微生物の健康への関わりを説明できる。（第1回） 3. 感染症の主な分類を説明できる。（第2回） 4. 感染予防の基本を説明できる（第3回） 5. 感染に対する抵抗力（感染防御能）とは何かを理解できる。（第2回） 6. 体液性免疫と細胞性免疫を説明できる。（第2回） 7. 細菌やウイルスに対する感染防御機構を、体液性免疫と細胞性免疫に分けて説明できる。（第2回） 8. 臓器・組織別に一般的にみられる感染症の原因となる病原体、臨床症状、治療法、予防法を説明できる。（第3～8回） 9. 宿主を取り巻く因子（環境・年齢・感染抵抗力）がその発症に大きく関わる感染症の原因となる病原体、臨床症状、治療法、予防法を説明できる。（第9～12回） 10. 感染予防法（洗浄、滅菌、消毒）および身体の感染抵抗力（免疫のしくみ）を活用したワクチン接種による発症予防法について理解できる。（第13回） 11. 感染症の行政対応について説明できる。（第13回） 12. 感染症の検査法・治療法について理解できる。（第14回） 			
授業概要	感染症とその原因となる病原体について学ぶ。病原体とは、身体に感染（寄生）して増殖し、結果として疾病を引き起こすものをいう。病原体には、ウイルス、細菌、真菌、寄生虫、節足動物などがあり、大きさも生物学的特徴も多種多様である。それらを包括して「臨床微生物・医動物」と呼んでいるが、臨床微生物・医動物がどのような感染症を引き起こすかについて、感染源、感染経路を含めて概説する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 微生物・医動物とは 1. 臨床微生物・医動物の特徴 2. 身の回りの微生物	講義		
2	II. 感染症の分類と感染防御機構 1. 感染症と臨床微生物・医動物 2. 感染防御機構の基礎	講義		
3	III. 宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体 1. 呼吸器感染症 2. 結核	講義		

4	3. 消化器系感染症	講義
5	4. 肝炎	講義
6	5. 尿路感染症 6. 性感染症	講義
7	7. 皮膚・粘膜の感染症 8. 皮膚に発疹が出現するウイルス感染症とリケッチア感染症	講義
8	9. 脳・神経系感染症	講義
9	IV. 宿主の因子が影響する感染症と病原体 1. 人獣共通感染症 2. 寄生虫感染症	講義
10	3. 小児の感染症 4. 母子感染	講義
11	5. 高齢者の感染症 6. 日和見感染症 7. 移植患者と感染症	講義
12	8. 手術創・外傷と感染症 9. 血管内カテーテル関連血流感染症 10. 薬剤耐性菌	講義
13	V. 感染・発症予防と行政の対応	講義
14	VI. 感染症の検査・治療	講義
15	まとめ	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の臨床検査技師が講師となり、実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	病理学	1 年次前期	1 単位	1 5 時間
科目責任者	加藤 拓樹 岩瀬 三紀 和出 弘章 佐原 晴人 島 寛太			
担当教員	加藤 拓樹 岩瀬 三紀 和出 弘章 佐原 晴人 島 寛太			
事前学習内容	解剖生理学、臨床生化学などで学んだ人体の正常状態に関する知識を整理しておく。 また、臨床微生物の知識を整理しておく。			
科目のねらい	病理学は、解剖生理学、臨床生化学などの人体の正常状態に関する知識をもとに、臨床微生物の知識を加え、人体におこった異常（＝疾患）を調べ、その異常の生じたメカニズムを明らかにする学問である。本講義では、その基本的な考え方といくつかの疾患について解説する。 病理学は疾患理解の基礎であると同時に、診断そのものであり、時に治療方針を決定する基準となる学問である。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気の原因（病因）を説明できる。（第 1～7 回） 2. 細胞や組織の障害と修復について、その種類と変化を説明できる。（第 1 回） 3. 先天異常と遺伝子異常について説明できる。（第 2 回） 4. 老化と死について説明できる。（第 3 回） 5. 変性・壊死とは何かを説明できる。（第 3 回） 6. アポトーシスとは何かを説明できる。（第 3 回） 7. 萎縮とは何かを説明できる。（第 3 回） 8. がん細胞と正常細胞の違いを説明できる。（第 3 回） 9. 良性腫瘍と悪性腫瘍、癌腫と肉腫とは何かを説明できる。（第 3 回） 10. T N M 分類とは何か説明できる。（第 3 回） 11. がん治療の種類とその選択方法について説明できる。（第 3 回） 12. 炎症とは何かを説明できる。（第 4 回） 13. 炎症の原因を分類できる。（第 4 回） 14. 炎症と修復の経過を病理学的に説明できる。（第 4 回） 15. 免疫の役割とは何かを説明できる。（第 4 回） 16. 免疫の働きと調節を説明できる。（第 4 回） 17. 感染の成立とその修復機転について理解できる。（第 5 回） 18. 循環障害とは何かを説明できる。（第 6 回） 19. 循環障害の原因を分類できる。（第 6 回） 20. 血栓症と塞栓症の違いを説明できる。（第 6 回） 21. 梗塞とは何かを説明できる。（第 6 回） 22. 側副循環（副行循環）とは何か、例を挙げて説明できる。（第 6 回） 23. 体液異常とは何かを説明できる。（第 6 回） 24. 代謝異常を説明できる。（第 7 回） 			
授業概要	病理学の総論として、病因、先天性異常、退行性変化、細胞・組織障害、代謝異常、炎症、免疫異常、腫瘍など、疾患の基礎病変の概念について学ぶ。			

授業展開		
回	学習内容	方法
1	人間の身体における本来の構造・機能とその乱れ 1. 身体の基本単位 2. 身体の働きと乱れ 3. 人間の死	講義
2	I. 遺伝子異常	講義
3	II. 細胞傷害・変性と細胞死 III. 腫瘍	講義
4	IV. 炎症と修復 V. 免疫異常	講義
5	VI. 感染	講義
6	VII. 循環障害 VIII. 体液異常	講義
7	IX. 代謝異常	講義
8	まとめ	
評価方法	筆記試験 100% (100点)	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち① 病態生理学	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の医師・臨床検査技師が講師となり、複数で担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	病態治療論 I	1 年次前期	1 単位	30 時間
科目責任者	太田 尚寿 春木 伸裕 加藤 美奈 高橋 宏和			
担当教員	トヨタ記念病院関連医療従事者			
事前学習内容	既習の解剖生理学を復習しておくこと			
科目のねらい	疾病の診断、治療の概要について学ぶ。			
到達目標	各診断・治療に必要な基礎的知識を習得する。(第 1 ~ 15 回) 1. 放射線療法 (6 時間) 2. 手術療法 (10 時間) 3. 臨床検査 (8 時間) 4. 理学療法 (6 時間)			
授業概要	院内講師による専門性の高い講師陣が講義を展開。既習の内容と関連し、最新の診断治療について、画像を交えて、細かく解説する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 放射線療法 1. 放射線医学の意義	講義		
2	2. 画像診断 (X線診断・CT・MRI・超音波検査・核医学検査・血管造影)	講義		
3	3. 放射線治療 4. 放射線障害	講義		
4	II. 手術療法 1. 手術適応の決定要因 2. 外科的診断法 3. 手術侵襲と生体の反応	講義		
5	4. 麻酔法 5. 酸素療法と機械的人工換気	講義		
6	6. 体液、酸塩基平衡と輸液 7. 創傷の治癒過程	講義		
7	8. 静脈血栓症 9. 移植	講義		
8	10. ショック 11. 出血	講義		
9	III. 臨床検査 1. 臨床検査とその役割 2. 一般検査	講義		
10	3. 血液学的検査 4. 化学検査 5. 免疫・血清学的検査	講義		

11	6. 内分泌学的検査 7. 微生物学的検査 8. 病理学的検査	講義
12	9. 生体検査（生理機能検査、画像検査）	講義
13	IV. リハビリテーション 1. リハビリテーションの基礎（ICF、経過別リハビリテーション）	講義
14	2. 運動機能に関するリハビリテーション（MMT・歩行介助・杖歩行含む） 3. コミュニケーションに関するリハビリテーション（高次脳機能障害）	講義
15	4. 呼吸に関するリハビリテーション 5. 循環に関するリハビリテーション（心臓リハビリテーション）	講義
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	1. 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 2. 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 3. 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 4. 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の医師・臨床検査技師・理学療法士が講師となり、複数で担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	病態治療論Ⅱ	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	鈴木 貴久 永井 真吾 松下 宏 春木 伸裕 他			
担当教員	トヨタ記念病院関連医療従事者			
事前学習内容	既習の解剖生理学を復習しておくこと			
科目のねらい	疾病の病態・診断・治療について学ぶ。			
到達目標	各疾病の概要を理解する。(第1～15回) 1. 消化器疾患(10時間) 2. 筋骨格疾患(8時間) 3. 泌尿器疾患(6時間) 4. 女性生殖器疾患(4時間) 5. 外科系疾患(2時間)			
授業概要	院内講師による専門性の高い講師陣が講義を展開。既習の内容と関連し、最新の診断治療について、画像を交えて、細かく解説する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 消化器疾患 1. 上部消化管の疾患 (逆流性食道炎、胃炎、食道がん、胃がん、ヘリコクター・ピロリ感染症、胃十二指腸潰瘍)	講義		
2	2. 下部消化管の疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病、イレウス、大腸ポリープ、結腸がん、直腸がん、便秘、下痢) 3. 肝炎 4. 胆管炎 5. 膵炎	講義		
3	6. 肝硬変 7. 肝がん 8. 胆嚢がん 9. 胆管がん 10. 膵がん 11. 脂肪肝	講義		
4	12. アルコール性肝炎	講義		
5	13. 胆石症	講義		
6	II. 筋骨格疾患 1. 骨折、脱臼、捻挫 2. 骨粗鬆症	講義		

7	3. 腫瘍（骨肉腫） 4. 各種の骨折（肋骨骨折、上腕骨骨折、骨盤骨折、大腿骨頸部骨折、 脊椎骨折）	講義
8	5. 脊髄損傷・骨髄炎 6. 先天性股関節脱臼	講義
9	7. 変形性関節症 8. 腰痛症（椎間板ヘルニア） 9. 腰部脊柱管狭窄症	講義
10	Ⅲ. 泌尿器疾患 1. 前立腺肥大、前立腺がん	講義
11	2. 腎・尿路結石 3. 腎がん、膀胱がん、尿管がん	講義
12	4. 主な感染症	講義
13	Ⅳ. 女性生殖器疾患 1. 子宮内膜症 2. 子宮筋腫 3. 子宮がん 4. 卵巣腫瘍 5. 月経異常 6. 更年期障害	講義
14	7. 妊娠貧血 8. 主な感染症 9. 妊娠高血圧症候群 10. 常位胎盤早期剥離	講義
15	Ⅴ. 外科系疾患 1. 乳がん 2. 鼠径ヘルニア 3. 痔瘻 4. 虫垂炎 5. 腹膜炎	講義
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護③ 消化器 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑦ 運動器 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 37巻 母性看護学② 母性看護の実践	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の医師が講師となり、複数で担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	病態治療論Ⅲ	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	渥美 宗久 山本 義浩 木村 元宏 大橋 春彦 加藤 拓樹			
担当教員	トヨタ記念病院関連医療従事者			
事前学習内容	既習の解剖生理学を復習しておくこと			
科目のねらい	疾病の病態・診断・治療について理解する。			
到達目標	各疾病の概要を理解する。(第1～15回) 1. 腎疾患 (7時間) 2. 自己免疫疾患 (3時間) 3. アレルギー疾患 (1時間) 4. 呼吸器疾患 (10時間) 5. 造血器疾患 (8時間) 6. 感染性疾患 (1時間)			
授業概要	院内講師による専門性の高い講師陣が講義を展開。既習の内容と関連し、最新の診断治療について、画像を交えて、細かく解説する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 腎疾患 【7H】 1. 腎不全と慢性腎臓病 (透析療法含む)	講義		
3・4	2. 腎炎 3. ネフローゼ症候群	講義		
5・6	II. 自己免疫疾患 【3H】 1. 強皮症 2. 関節リウマチ 3. 全身性エリマトーデス 4. シェーグレン症候群 III. アレルギー疾患 【1H】 1. アレルギーの仕組み 2. 花粉症 3. 蕁麻疹 4. 食物アレルギー	講義		
7	IV. 呼吸器疾患 【10H】 1. 肺炎 2. 肺水腫	講義		
8	3. 肺腫瘍	講義		
9	4. 中皮腫 5. 間質性肺炎 6. 胸膜炎 7. 気管支喘息	講義		

10	8. 肺循環障害（肺梗塞、肺塞栓） 9. 呼吸不全 10. 気胸	講義
11	11. 慢性閉塞性肺疾患 12. 横隔膜ヘルニア 13. 吃逆 14. 肺結核	講義
12	V. 造血器疾患【8H】 1. 貧血 2. 白血球減少症	講義
13	3. 播種性血管内凝固症候群	講義
14	4. 出血性疾患（TTP、ITP、DIC）	講義
15	5. 造血器の腫瘍（白血病・悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）	講義
16	VI. 感染性疾患【1H】 1. 後天性免疫不全症候群 2. 敗血症	講義
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護④ 血液/エネルギー・膠原病/感染症 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護① 呼吸器	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の医師が講師となり、複数で担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	病態治療論Ⅳ	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	小林 光一 伊藤 泰広 大枝 基樹			
担当教員	トヨタ記念病院関連医療従事者			
事前学習内容	既習の解剖生理学を復習しておくこと			
科目のねらい	疾病の病態・診断・治療について理解する。			
到達目標	各疾病の概要を理解する。(第1～15回) 1. 循環器疾患(15時間) 2. 脳神経疾患(15時間)			
授業概要	院内講師による専門性の高い講師陣が講義を展開。既習の内容と関連し、最新の診断治療について、画像を交えて、細かく解説する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 循環器疾患 1. 心筋症	講義		
2	2. 心不全 3. 心タンポナーデ	講義		
3	4. 虚血性心疾患 5. 心内膜炎と心臓弁膜症	講義		
4	6. 不整脈	講義		
5	7. 高血圧症 8. 閉塞性動脈硬化症	講義		
6	9. 静脈血栓症	講義		
7	10. 大動脈解離 11. 挫滅症候群	講義		
8	II. 脳・神経疾患 (脳神経外科疾患) 1. 脳内出血 2. クモ膜下出血	講義		
9	3. 脳腫瘍 4. 頭部外傷 5. 頭蓋内圧亢進症状	講義		
10	6. 水頭症 7. 高次脳機能障害	講義		

11	8. 脳ヘルニア 9. もやもや病	講義
12	〈脳神経内科疾患〉 1. 脳梗塞 2. てんかん 3. 認知症	講義
13	4. パーキンソン病 5. 筋萎縮性側索硬化症	講義
14	6. 多発性硬化症 7. 重症筋無力症 8. 進行性筋ジストロフィー	講義
15	9. ギランバレー症候群 10. 主な感染症（髄膜炎・脳炎） 11. 顔面神経麻痺（ベル麻痺） 12. 自律神経失調症	講義
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護② 循環器 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑤ 脳・神経	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の医師が講師となり、複数で担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	病態治療論Ⅴ	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	半田 克成 平野 耕治 松井 宇宙輝 山田 尚人 町田 純一郎 平野 茂樹			
担当教員	トヨタ記念病院関連医療従事者			
事前学習内容	既習の解剖生理学を復習しておくこと			
科目のねらい	疾病の病態・診断・治療について理解する。			
到達目標	各疾病の概要を理解する。(第1～15回) 1. 内分泌・代謝疾患(10時間) 2. 感覚器疾患(10時間:眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科口腔外科) 3. 精神疾患(10時間)			
授業概要	院内講師による専門性の高い講師陣が講義を展開。既習の内容と関連し、最新の診断治療について、画像を交えて、細かく解説する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 内分泌・代謝疾患 1. 糖尿病 2. 脂質異常症	講義		
2	3. メタボリックシンドローム、肥満症	講義		
3	4. 高尿酸血症と痛風	講義		
4	5. 下垂体疾患 6. 甲状腺疾患	講義		
5	7. 上皮小体疾患 8. 副腎疾患	講義		
6	II. 感覚器疾患 〈眼科疾患〉 1. 白内障 2. 緑内障 3. 網膜剥離 4. 網膜症	講義		
7	〈耳鼻咽喉科疾患〉 1. 咽頭がん 2. メニエール病 3. アデノイド 4. 中耳炎 5. 難聴	講義		

8	〈皮膚科疾患〉 1. 皮膚がん 2. 湿疹 3. アトピー性皮膚炎 4. 帯状疱疹 5. 蜂窩織炎	講義
9	〈歯科口腔外科疾患〉 1. う歯 2. 舌腫瘍 3. 歯周病 4. 口蓋裂 5. 口唇裂	講義
10	Ⅲ. 精神疾患 1. 統合失調症	講義
11	2. 抑うつ障害と双極性障害 3. 不安障害	講義
12	4. 強迫性障害 5. ストレス因関連障害（適応障害） 6. 解離性障害 7. 摂食障害 8. 睡眠－覚醒障害（不眠障害、ナルコレプシー）	講義
13・14	9. 物質関連障害および嗜癖性障害群（アルコール、覚醒剤、大麻） 10. 神経認知障害（アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、せん妄） 11. パーソナリティ障害 12. 成人期の自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠陥・多動症（ADHD）	講義
15	13. 医学的検査と心理検査	講義
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑥ 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の医師が講師となり、複数で担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	病態治療論Ⅵ	2 年次前期	1 単位	1 5 時間
科目責任者	原 紳也 河野 好彦 山本 ひかる			
担当教員	原 紳也 河野 好彦 山本 ひかる			
事前学習内容	既習の解剖生理学を復習しておくこと。			
科目のねらい	疾病の病態・診断・治療について理解する。			
到達目標	各疾病の概要を理解する。(第 1 ～ 8 回) 1. 新生児疾患 (4 時間) 2. 小児疾患 (1 1 時間)			
授業概要	院内講師による専門性の高い講師陣が講義を展開。既習の内容と関連し、最新の診断治療について、画像を交えて、細かく解説する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 新生児疾患 (新生児期の異常) <ハイリスク新生児の特徴> 1. 早産児・低出生体重児 <分娩期のストレス> 1. 分娩外傷 2. 新生児仮死 3. 胎便吸引症候群 <呼吸の適応不全 (障害) > 1. 新生児一過性多呼吸 2. 呼吸窮迫症候群 3. 慢性肺疾患 <代謝の適応不全 (障害) > 1. 新生児黄疸 2. ビタミン K 欠乏症 3. 未熟児骨代謝疾患 <消化器系の異常> 1. 新生児壊死性腸炎 <血液疾患> 1. 新生児敗血症 2. 未熟児貧血 <脳・神経系疾患> 1. 脳室周囲白質軟化症 2. 脳室内出血 <先天性疾患> 1. 成熟異常 2. 先天異常 (単一遺伝子疾患) 3. 染色体異常 (21 トリソミー、18 トリソミー、13 トリソミー、ターナー症候群、クラインフェルター症候群)	講義		
3・4	II. 小児疾患 <代謝疾患> 【4H】 1. 1 型糖尿病	講義		

	<p><内分泌疾患></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成長ホルモン分泌不全性低身長症 2. 甲状腺機能低下症 3. バセドウ病 <p><アレルギー疾患></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食物アレルギー 2. 気管支喘息 <p><免疫・リウマチ性疾患></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 川崎病 2. Ig A血管炎 <p><循環器疾患></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心室中隔欠損症 2. 心房中隔欠損症 3. ファロー四徴症 	
5	<p><感染症> 【2H】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻疹 2. 風疹 3. 水痘 4. 流行性耳下腺炎 5. 百日咳 <p><腎疾患></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎炎 2. ネフローゼ症候群 	講義
6	<p><呼吸器疾患> 【2H】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クループ症候群 2. 急性気管支炎/急性細気管支炎 3. 肺炎 <p><消化器疾患></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先天性食道閉鎖症 2. 肥厚性幽門狭窄症 3. ヒルシュスプルング病 4. 腸重積症 5. ウイルス性・細菌性腸炎 6. 直腸肛門奇形 7. 胆道閉鎖症 <p><血液疾患></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白血病 2. 血友病 3. 特発性血小板減少性紫斑病 <p><腫瘍性疾患></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳腫瘍 	講義
7・8	<p><神経系疾患> 【3H】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 熱性けいれん 2. てんかん 3. 髄膜炎 4. 急性脳症/急性脳炎 5. 脳性麻痺 6. 水頭症 	講義
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の医師が講師となり、複数で担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	臨床栄養学	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	保古 則子			
担当教員	保古 則子 福元 聡史 矢須田 侑兵			
事前学習内容	テキストの該当頁を読み、概要を理解しておく。			
科目のねらい	生命における栄養の意義、健康生活に必要な栄養素の適用摂取について学ぶ。 食事療法の基礎と健康障害時の食事療法の実際を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各栄養素の体内における役割と臨床的意義を説明できる。(第1回) 2. 栄養アセスメントを行う判定方法と判定基準を説明できる。(第2回) 3. 食品成分表の見方と食品群の意味を説明できる。(第3回) 4. 不足しがちな栄養素と、それを補える食品を挙げることができる。(第3回) 5. 食事摂取基準の考え方とエネルギーの計算方法を説明できる。(第3回) 6. 食文化の形成過程について説明できる。(第4～7回) 7. 現在の日本における食生活の問題点について説明できる。(第4～7回) 8. スポーツ時における望ましい栄養補給について説明できる。(第4～7回) 9. 人生各期における食事摂取基準の特徴について説明できる。(第4～7回) 10. 人生各期における望ましい食生活について説明できる。(第4～7回) 11. 治療による回復を促すための食事と栄養管理について説明できる。(第8～10回) 12. 成分別栄養管理の利点について理解できる。(第8～10回) 13. 摂食嚥下障害のある人に対する、安全で栄養バランスのよい食事について説明できる。 (第8～10回) 14. 経口摂取できない患者のための栄養管理について説明できる。(第8～10回) 15. 疾患を治療するための栄養食事療法の方針と栄養基準の考え方について説明できる。 (第11～13回) 16. 健康増進のための望ましい食生活について説明できる。(第14回) 17. 健康教育の方法と留意点について説明できる。(第14回) 18. 食習慣改善のための患者教育の方法について説明できる。(第14回) 			
授業概要	実験や地域の調査によって得られた栄養学の基礎的なデータを、実際に人を対象として用い、食物を通して人の健康に直接寄与する学問が臨床栄養学である。人は、栄養なくして生きていくことはできない。また、食は生きる楽しみや文化や社会、経済状態にも影響を与える。看護師は、生活する人として対象者をとらえ、多角的に栄養に関するアセスメントを行い、援助できなくてはならない。そのために必要な知識を学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 臨床栄養学の基礎知識 1. 栄養とは	講義		
2・3	2. 栄養アセスメント	講義		

4	Ⅱ. 食品成分と食事摂取基準 1. 食品成分とエネルギー 2. 日本人の食事摂取基準	講義
5～7	Ⅲ. 日常生活と栄養 1. 食文化 2. 運動と栄養 3. 人生各期における健康生活と栄養	講義
8～10	Ⅳ. 療養生活と栄養 1. 治療による回復を促すための食事と栄養管理 2. 栄養成分別のコントロール食 3. 嚥下障害のある人のための食事 4. 経口摂取できない患者のための栄養管理	講義
11～13	Ⅴ. 疾患別の栄養食事療法 1. 消化器系疾患 2. 内分泌・代謝疾患 3. 循環器系疾患 4. 腎疾患	講義
14	Ⅵ. 食事療法の実際 1. 健康増進のための栄養食事指導 2. 食習慣改善のための栄養食事指導	講義
15	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進④ 臨床栄養学	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の管理栄養士が講師となり、実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	臨床薬理学	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	山室 栄一			
担当教員	山室 栄一			
事前学習内容	テキストの該当頁を読み、概要を理解しておく。			
科目のねらい	薬物の薬理作用および人体への影響と薬物の管理について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の分類と関連する法律を理解する。(第1回) 2. 医薬品が作用する原理と作用に影響を与える要因を理解する。(第1回) 3. 医薬品を適正かつ安全に使用するための注意事項を理解する。(第1回) 4. 感染症に使用する薬について理解する。(第2回) 5. 抗アレルギー薬の特徴を理解する。(第3回) 6. 関節リウマチ、全身性エリテマトーデスに使用する薬と痛みの治療について理解する。 (第3回) 7. がんの種類と抗がん薬の効果について理解する。(第4・5回) 8. 急性骨髄性白血病と乳癌に使用する抗がん薬の作用機序を理解する。(第4・5回) 9. 抗がん薬の有害作用とその対策を理解する。(第4・5回) 10. 「WHO方式がん疼痛治療法」の原則を理解する。(第4・5回) 11. オピオイド鎮痛薬の特徴を理解する。(第4・5回) 12. ステロイドの使用法と重要な薬物有害反応について理解する。(第4・5回) 13. 中枢神経系の機能と神経伝達物質について理解する。(第6・7回) 14. てんかんの病態と薬物療法を理解する。(第6・7回) 15. パーキンソン病の病態生理・症状発現のメカニズムと薬物療法を理解する。(第6・7回) 16. アルツハイマー型認知症の薬物療法を理解する。(第6・7回) 17. 向精神薬の種類と薬理作用を理解する。(第6・7回) 18. 主な生活習慣病に使用する薬の治療手順および使用する薬剤の機序を理解する。 (第8・9回) 19. インスリン自己注射の患者教育について説明できる。(第8・9回) 20. 各薬剤の服薬指導(服薬方法、服用上の注意点の説明など)を理解する。(第8・9回) 21. 気管支喘息の発作時と管理期では使用する薬が違うことを理解する。(第10回) 22. 気管支喘息に使用する薬の作用機序を理解する。(第10回) 23. 吸入薬の使用法を理解する。(第10回) 24. 鎮咳薬、去痰薬の特徴を理解する。(第10回) 25. 消化性潰瘍薬の作用機序と使用法を理解する。(第10回) 26. 多様な原因で起こる嘔吐のしくみとそれに使用する制吐薬を理解する。(第10回) 27. 瀉下薬の作用機序を理解し、患者にあった瀉下薬が選択できる。(第10回) 28. 救命救急時に使用する薬について理解する。(第11・12回) 29. 臨床でよく遭遇する疾患に使用する薬剤の機序を理解する。(第13・14回) 30. 各薬剤に対する効果と有害作用の観察事項を理解する。(第13・14回) 31. 輸液製剤の分類とそれぞれの特徴、用途について理解する。(第13・14回) 			
授業概要	本科目は、薬の作用についてただ覚えるだけでなく、薬が疾患の治療に用いられる理由を理解し、投与前の準備から投与後の経過観察までの一連のプロセスにおける薬の適正使用に関する考え方を学ぶ。			

授業展開		
回	学習内容	方法
1	I. 医薬品総論 1. 医薬品とは 2. 医薬品の作用原理とその影響 3. 薬物動態学 4. 医薬品の適正な使用に向けて	講義
2・3	II. 感染症に使用する薬 1. 感染症 2. 抗微生物薬（抗菌薬・抗ウイルス薬・抗真菌薬） III. 免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬 1. 免疫のしくみ 2. 自己免疫疾患の治療薬 1) 関節リウマチ治療薬 2) 全身性エリテマトーデス治療薬 3. 炎症（痛み・発熱）の治療薬 4. アレルギーの治療薬	講義
4・5	IV. がんに使用する薬 1. がんとは 2. がんの薬物療法 3. 細胞障害性抗がん薬・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬の有害作用とその対策 4. がん性疼痛に使用する薬	講義
6・7	V. 末梢神経に作用する薬 1. 神経概論 2. 交感神経に作用する薬 3. 副交感神経に作用する薬 VI. 脳・中枢神経系疾患で使用する薬 1. 中枢神経系の働きと薬 2. 中枢神経疾患の治療薬（抗てんかん薬） 3. パーキンソン病治療薬 4. 認知症（アルツハイマー型認知症）の治療薬 5. 精神疾患に用いる薬	講義
8・9	VII. 循環器疾患に使用する薬 1. 循環器と循環器疾患 2. 高血圧 3. 低血圧 4. 不整脈 5. 狭心症 6. 心不全 7. 筋梗塞 8. 動脈硬化 9. 脳卒中 10. 肺高血圧症 VIII. 代謝/内分泌疾患に使用する薬 1. 代謝/内分泌疾患 1) 代謝 2) 内分泌	講義

	<ul style="list-style-type: none"> 3) 糖尿病治療薬 4) 脂質異常症治療薬 5) 痛風治療薬 6) 甲状腺疾患治療薬 7) 副腎疾患治療薬 	講義
10	<ul style="list-style-type: none"> IX. 呼吸器疾患に使用する薬 <ul style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器 2. 気管支治療薬 3. 鎮咳薬 4. 去痰薬 X. 消化器疾患に使用する薬 <ul style="list-style-type: none"> 1. 消化器系の構造と機能 2. 消化器系疾患に使用する薬の分類と特徴 <ul style="list-style-type: none"> 1) 消化性潰瘍治療薬 2) 健胃消化薬 3) 制吐薬、鎮吐薬 4) 胃腸機能調整薬 5) 瀉下薬（下剤） 6) 止瀉薬 7) 腸疾患治療薬 8) 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患に使用する薬 	講義
11・12	<ul style="list-style-type: none"> XI. 周術期・救命救急時に使用する薬 <ul style="list-style-type: none"> 1. 周術期・救命救急時に使用する薬の特徴 2. 医薬品投与による緊急事態（アナフィラキシー） 3. ショックに対して使用する薬 4. 薬物中毒の治療に使用する薬 5. 救急カートに必要な薬 6. 輸液製剤 7. 麻酔時に使用する薬 8. 輸血療法 	講義
13・14	<ul style="list-style-type: none"> XII. 血液・造血器疾患に使用する薬 X III. 泌尿器・生殖器疾患に使用する薬 X IV. 感覚器に使用する薬 	講義
15	まとめ	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の薬剤師が講師となり、実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	基礎セミナーⅡ	1年次後期	1単位	15時間
科目責任者	金澤 寛明			
担当教員	金澤 寛明			
事前学習内容	これまでに「解剖生理学」、「臨床生化学」、「臨床微生物学」、「病理学」、「病態治療論」、「臨床栄養学」、「臨床薬理学」、「基礎看護学」などで学んだ事を理解しておくこと。			
科目のねらい	専門基礎分野と専門分野の知識を統合する考え方を習得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査や画像などのデータの臨床的意味を医学的に理解できる。 2. 臨床で得られる情報（検査データなど）を看護者の視点から分析し看護実践に反映させることができる。 			
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の訴えから疾患の診断までの思考過程を確立するために、患者情報、患者観察、身体診察、検査項目の選択と結果の解釈、診断の過程を検証する。 2. 症例理解に資するための画像検査の原理から診断までを概説し、後半ではその知識とこれまでの学習内容を総合して、提示された症例の検討を行う。 3. 症例検討は、疾患の診断、治療、ケアに関する模擬患者症例を、グループによる学習により、読み、理解し、まとめた結果をプレゼンテーションし、その結果を、教員やクラスメートとのディスカッションを通じて深める。 4. 課題症例について、医学情報を理解・整理し、看護への適応ができるよう展開する。 			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	模擬患者症例1提示（症例の把握、検査データの検討）	講義・演習 （グループワーク）		
2	画像診断 模擬患者症例1展開（アセスメント、看護上の問題の抽出）	講義・演習 （グループワーク）		
3	模擬患者症例1展開（看護計画立案）	演習 （グループワーク）		
4	模擬患者症例1の発表、まとめ	演習・講義		
5	模擬患者症例2展開（症例の把握、検査データの検討、アセスメント、看護上の問題の抽出）	演習 （グループワーク）		
6	模擬患者症例2展開（看護計画立案）	演習 （グループワーク）		
7	模擬患者症例2の発表、まとめ	演習・講義		
8	まとめ			
評価方法	演習参加（20%）20点 レポート（60%）60点 筆記試験（20%）20点			

テキスト	講師による資料
参考書	「解剖生理学」、「臨床生化学」、「臨床微生物学」、「病理学」、「病態治療論」、「臨床栄養学」、「臨床薬理学」、「基礎看護学」などで使用した教科書など
実務経験のある 教員による授業	医師、看護教育の実務経験がある専任教員が担当

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	医療概論	1年次前期	1単位	15時間
科目責任者	金澤 寛明			
担当教員	金澤 寛明			
事前学習内容	保健・医療・介護に関する新聞記事などを探してみる。その上で、何が問題になっているかを考えてみる。			
科目のねらい	医療の発展や、現代医療のシステム、現代医療を取り巻く諸問題について理解する。			
到達目標	1. 医療の歩みや医療の変遷を説明できる。(第1～5回) 2. 医療の発展や諸問題を学び、生命の価値や生きることの意義、医の倫理について説明できる。(第6～7回)			
授業概要	1. 医療の歴史から健康の概念、現代医療の確立、問題点を学ぶ。 2. 現代医療の問題点から、これからの医療のあるべき姿を探る。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 生きることと死ぬこと 1. 健康とは 2. QOL 3. 社会と健康、終末期	講義		
2	II. 医学と医療 1. 医学の歴史 2. 臨床疫学とEBM	講義		
3	III. 保健・医療・介護 1. 社会環境の変化 2. 社会保障制度 3. 公衆衛生と保健	講義		
4	4. わが国の医療システム 5. 救急医療・集中治療 6. がん治療 7. 周産期医療	講義		
5	8. 放射線診断 9. チーム医療 10. リハビリテーション 11. 介護	講義		
6	IV. 医療と社会 1. 医の倫理 2. 医療安全 3. 医薬品 4. 最先端医療、 5. 医療情報	講義		
7	V. 医療経済学と医療政策 1. 医療経済 2. 医療政策	講義		

8	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [1] 医療概論	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	医師、看護教育の実務経験がある専任教員が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	公衆衛生学	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	森田 一三			
担当教員	森田 一三			
事前学習内容	新聞やニュースなどで関連した情報を得ておく。			
科目のねらい	衛生統計から保健問題を学び、健康保持、疾病予防活動の実際を学ぶ。			
到達目標	1. 公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題を知る。(第1～2回) 2. 保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康課題を理解する。(第3～7回) 3. 公衆衛生において看護職の担う役割を考える。(第3～7回)			
授業概要	看護に必要な保健統計の基礎と動向を学ぶ。また、人口動態・静態の推移、健康状態と受療状態など、最新の知識を知る。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 公衆衛生の歴史と理念 II. 公衆衛生の概念とシステム	講義		
3・4	III. 公衆衛生のものさし IV. 公衆衛生活動のプロセス	講義		
5・6	V. 親子保健 VI. 生活習慣病とがん対策	講義		
7・8	VII. 高齢者保健医療福祉 VIII. 歯科保健 IX. 難病対策 X. 精神保健福祉	講義		
9・10	XI. 障害者保健福祉 XII. 災害対策 XIII. 感染症対策	講義		
11・12	XIV. 食品保健 XV. 環境保健	講義		
13・14	XVI. 学校保健 XVII. 産業保健 XVIII. 国際保健	講義		
15	まとめ			
評価方法	筆記試験100% (100点)			
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 厚生統計協会 国民衛生の動向			
参考書	必要時、適時配布する。			
実務経験のある教員による授業	公衆衛生学に精通した講師が担当			

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	社会福祉 I	1 年次後期	1 単位	1 5 時間
科目責任者	土屋 友香理			
担当教員	土屋 友香理			
事前学習内容	新聞やニュースなどで関連のある記事を読んでおく。			
科目のねらい	社会保障制度および社会福祉の動向をとらえ、社会保障制度について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉と社会保障（社会サービス）との違いを述べることができる。（第 1 回） 2. 現代社会における社会福祉の役割を述べることができる。（第 1 回） 3. 社会保障の定義、その範囲や法体系、予算や規模などについて述べることができる。（第 2 回） 4. 社会保障制度がどのようにつくられ、現在の姿になっているのか、社会福祉や社会保険の動向も含め、日本の社会保障制度の歴史について述べることができる。（第 3 回） 5. 先進国における社会保障制度の発展と歴史を概説できる。（第 3 回） 6. 社会福祉に関わる機関とその機能について基本的な事項を理解し説明できる。（第 4 回） 7. 社会福祉施設や在宅サービスの概要について述べることができる。（第 4 回） 8. 社会福祉の実践分野と資格制度について述べることができる。（第 4 回） 9. 社会福祉と看護との連携・支援について述べることができる（第 5 回） 10. 社会資源を利用する意義について述べることができる。（第 5 回） 11. 社会資源の活用・調整・開発について説明できる。（第 5 回） 12. 社会福祉実践の目的と概念について述べることができる。（第 6 回） 13. 地域福祉の定義と理念について述べることができる。（第 7 回） 14. 地域福祉推進の必要性を説明できる。（第 7 回） 			
授業概要	<p>今世紀は、少子高齢社会となり、それぞれの課題の解決に向けて、介護保険制度に始まり、高齢者医療制度や年金制度の改正、少子化対策、医療保険制度改正など、さまざまな取り組みが行われている。社会福祉や社会保障が変革期にある今、そこに至る歴史を学び、現在何が行われ、今後どこを目指しているのかを理解し、看護に役立つ知識を学んでいく。</p>			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 現代社会と社会福祉	講義		
2	II. 社会保障の動向 1. 社会保障とは	講義		
3	2. 社会保障の歴史 3. 社会福祉をめぐる新たな課題	講義		
4	III. 社会福祉のしくみ 1. 社会福祉サービスの体系と提供組織 2. 社会福祉の担い手と役割	講義		
5	3. 社会福祉と看護の連携 4. 社会資源の活用方法	講義		

6	5. 社会福祉実践	講義
7	IV. 地域福祉の推進	講義
8	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	メディカ出版 ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の社会福祉士が講師となり担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	社会福祉Ⅱ	2年次前期	1単位	15時間
科目責任者	土屋 友香理			
担当教員	土屋 友香理			
事前学習内容	社会福祉Ⅰで学んだことを復習しておく。 新聞やニュースなどで関連のある記事を読んでおく。			
科目のねらい	社会福祉各分野における法と施策、援助方法について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援・少子化対策、児童虐待、母子保健および子どもの貧困に関する施策の背景と内容について述べることができる。(第1回) 2. 障害者福祉の法律と施策の内容を説明できる。(第2回) 3. 高齢者保健福祉に関する制度やサービスの理念と内容を説明できる。(第3回) 4. 生活保護における生活保障のしくみと内容について述べるができる(第4回) 5. 年金制度の体系としくみについて説明できる(第5回) 6. 医療保険制度の体系としくみについて説明できる(第5回) 7. 介護保険制度のしくみを理解し、主なサービス内容について説明できる(第6回) 8. 雇用保険制度のしくみと給付について説明できる(第6回) 9. 労災保険制度の概要と給付について説明できる。(第6回) 10. 地域における福祉と保健・医療の連携の重要性について理解できる。(第7回) 11. 家族をめぐる身近な出来事と社会福祉、社会保障の関係を理解できる。(第7回) 			
授業概要	社会福祉Ⅰで学んだことを基盤とし、本科目では、「各論」として、子ども、障害者、高齢者など対象別にみた諸制度、生活保護、社会保障制度について学ぶ。最終講の「生活と福祉」では、障害をもちながら地域で生活するとはどういうことなのか、また、自分や家族に起こる身近な出来事が社会福祉や社会保障とどのようにつながっているのかについて学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 対象別にみた社会福祉 1. 子ども・家庭の福祉	講義		
2	2. 障害児・者の福祉	講義		
3	3. 高齢者の福祉	講義		
4	II. 貧困に対する支援	講義		
5	III. 社会保険 1. 年金制度 2. 医療保険制度	講義		
6	3. 介護保険制度 4. 雇用保険制度 5. 労災保険制度	講義		
7	IV. 生活と福祉	講義		

8	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	メディカ出版 ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の社会福祉士が講師となり担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	関係法規 I	1 年次後期	1 単位	1 5 時間
科目責任者	松澤 良人			
担当教員	松澤 良人			
事前学習内容	法に関連する新聞記事やニュースなどに関心を持つ			
科目のねらい	法の存在意義や基礎的内容を学び、従来なじみの薄かった「法」について理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法のお概念および法規を学ぶ必要性について理解することができる。(第 1 回) 2. 日常生活における基本的な法的知識を理解することができる。(第 2 回) 3. 常識と法の関係について理解することができる。(第 3 回) 4. 法の種類について理解することができる。(第 4 回) 5. 日本国憲法に規定された基本的人権の内容について理解することができる。(第 5～7 回) 6. 基本的人権が確立された歴史的背景について理解することができる。(第 5～7 回) 7. 基本的人権の種類について理解することができる。(第 5～7 回) 			
授業概要	本科目は、看護職に必要な法的知識を学習する前段階として、法の基礎的知識を学習し、社会人として必要不可欠な人権意識を高め、一人ひとりの生活と密接に関わっていることへの理解を深める。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法とは何か <ol style="list-style-type: none"> 1) 「べき論」と法 2) 法と道徳～法と道徳の区別 3) 法の特徴 4) 法の機能 	講義		
2	<ol style="list-style-type: none"> 2. 法と日常生活 <ol style="list-style-type: none"> 1) 法と日常生活 2) 六法の基本知識 3) 六法以外の日常生活において役立つ知識 	講義		
3	<ol style="list-style-type: none"> 3. 法と常識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 常識について 2) 常識と法の関係 	講義		
4	<ol style="list-style-type: none"> 4. 法の体系 <ol style="list-style-type: none"> 1) 法の種類 2) 公法と私法 3) 実体法と手続法 4) 刑事法と民事法 5) 国内法と国際法 	講義		
5～7	<ol style="list-style-type: none"> 5. 基本的人権と法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 憲法と基本的人権 2) 基本的人権の確立 3) 基本的人権の種類 4) 人権保障と「公共の福祉」による制約 5) 人権侵害例～「人権侵犯事件例集 (財)人権擁護協力会」参照～ 	講義		

8	まとめ	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	なし（講師が準備した資料、事前に資料提示予定）	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の弁護士が講師となり、実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門基礎分野	関係法規Ⅱ	2年次前期	1単位	15時間
科目責任者	土面 尋志			
担当教員	土面 尋志			
事前学習内容	関係法規Ⅰの内容を復習しておく。メディア等で医療法規に関する情報があれば興味関心をもって読んでみよう。			
科目のねらい	保健・医療・福祉に関する法令を学び、看護者としての法的責任を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の中で、多職種の法的な枠組みを理解することができる。(第1回) 2. 医療提供の理念と医療安全に関する規定について理解することができる。(第1回) 3. あらゆる生活場面で必要とされる看護に関連した法を理解することができる。(第2～6回) 4. 医療従事者として労働政策・女性政策・環境政策に関する基本的事項を理解することができる。(第7回) 			
授業概要	医療の世界は、人間の生命に直接関係することから、それに携わる人々の資格や業務、責任が法律で厳格に定められている。看護職が国民の健康を守り、その職責を全うするためには、看護関係法令をはじめ、医療関係法規や社会保険関係法規、また労働関係法規についての知識が求められる。関係法規Ⅰで学んだ内容をもとに、看護職に必要な法律を学習する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 保健医療福祉と法の関わりかた <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療と法の構造 2. 医療提供の理念と医療安全：医療法での扱い II. 看護をめぐる法 <ol style="list-style-type: none"> 3. 人に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療専門職 <ol style="list-style-type: none"> ①保健師助産師看護師法 ②看護師等の人材確保の促進に関する法律 ③医師法 ④歯科医師法 ⑤薬剤師法 ⑥診療放射線技師法 ⑦臨床検査技師等に関する法律 ⑧理学療法士及び作業療法士法 ⑨臨床工学技士法 ⑩救急救命士法 ⑪言語聴覚士法 2) 福祉専門職 <ol style="list-style-type: none"> ①精神保健福祉士法 ②社会福祉士及び介護福祉士法 	講義		
2～5	4. 物・場所等に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 1) 物に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> ①麻薬及び向精神薬取締法 ②臓器の移植に関する法律 	講義		

	<p>2) 場所に関する法律</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療法 ②感染症法 ③予防接種法 ④健康増進法 ⑤学校保健安全法 <p>5. 支えるシステムに関する法律</p> <p>1) お金によって支えるシステムに関する法律</p> <ul style="list-style-type: none"> ①健康保険法 ②国民健康保険法 ③高齢者医療確保法 ④介護保険法 <p>2) 特別な配慮を必要とする人に関する法律</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生活保護法 ②母体保護法 ③母子保健法 ④精神保健福祉法 ⑤障害者基本法 ⑥障害者総合支援法 ⑦身体障害者福祉法 ⑧知的障害者福祉法 ⑨発達障害者支援法 ⑩障害者雇用促進法 ⑪障害者虐待防止法 ⑫児童福祉法 ⑬児童虐待防止法 ⑭DV防止法 ⑮老人福祉法 ⑯高齢者虐待防止法 ⑰難病医療法 	
6	<p>6. 政策にかかわる基本法等の関連法令</p> <p>1) 医療政策に関する法律</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域保健法 ②がん対策基本法 <p>2) 福祉政策に関する法律</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自殺対策基本法 ②障害者基本法 <p>3) 災害政策に関する法律</p> <ul style="list-style-type: none"> ①災害対策基本法 ②災害救助法 <p>4) 情報政策に関する法律・個人情報保護法</p> <p>5) 食品安全政策に関する法律</p> <p>6) 人口政策に関する法律</p> <p>7) 社会的弱者政策に関する法律</p>	講義
7	<p>8) 労働政策に関する法律</p> <ul style="list-style-type: none"> ①労働基準法 ②労働安全衛生法 ③労働者災害補償保険法 ④男女雇用機会均等法 ⑤育児・介護休業法 ⑥雇用保険法 	講義

	9) 女性政策に関する法律 10) 環境政策に関する法律	
8	まとめ	
評価方法	筆記試験 100% (100点)	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	現役の弁護士が講師となり、実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 対象の理解・看護の目的 I	1 年次前期	1 単位	30 時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	野村 絵美			
事前学習内容	所定様式にて、自分の思いを描く。 「あなたはなぜ看護師になろうと思ったのですか」「看護とはどのようなものだと思いますか」「どんな看護師になりたいですか」「看護学生としての今の思いを自由に書き出しましょう」			
科目のねらい	看護全般の主要概念を捉えて、総合保健医療の中での看護の位置付け、専門性を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とはどのようなものか、社会的イメージや語義の意味から概略を知る。(第 1 回) 2. 看護の発展経緯と日本の看護概念の変遷を知る。(第 2・3 回) 3. 統合体としての看護の対象を理解できる。(第 4 回) 4. 主な看護理論家のテーマと看護に対する考え方を知る。(第 5 回) 5. 看護の四大概念について意見交換し、概念枠組みの関連性を考える。(第 6・7 回) 6. 健康に対するさまざまな考えを知り、健康上の問題を理解できる。(第 8 回) 7. 成長発達理論を学び、各ステージの特徴を知る。(第 9 回) 8. 看護ケアにおける看護師の役割について理解できる。(第 9 回) 9. 法の下での看護とは何かを考え、法的規定を理解できる。(第 10 回) 10. 看護職に求められる倫理とは何かについて考え、患者が持つ権利と看護者の責任について理解できる。(第 11・12 回) 11. 多職種連携・協働(チーム)における看護について理解できる。(第 13 回) 12. さまざまな看護の提供の場について理解する。(第 14・15 回) 			
授業概要	本授業は、入学後初めて看護について触れる授業である。これから学ぶ各看護学の全容を網羅している。看護の対象を基本的な視点で学び、看護の機能と役割を理解する。また、看護倫理の重要性を知り、看護職としての責務を理解し、看護専門職として良質なケアを提供できる基礎を学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 看護への導入 1. 看護に対する思い 2. 看護とは	講義		
2・3	II. 看護の歴史 【5H】 1. 看護の変遷 2. 現代社会における看護のあり方	講義・演習		
4	III. 看護の対象とその理解 1. 統合体としての人間 2. 社会的・文化的存在としての人間 3. 健康障害をもつケアの対象の理解 4. ストレスとコーピング	講義		
5	IV. 看護実践のための理論的根拠 1. 看護理論の分類 2. さまざまな看護理論 3. さまざまな看護(理論家の紹介)	講義・演習		

6・7	V. 看護の四大概念を考える 【5H】 「人間・環境・健康・看護」	演習 (グループワーク)
8	VI. 健康と病気におけるウェルネスの促進 1. 健康・病気のとらえ方 2. 健康の諸相 3. 人々の生活と健康 4. 健康に影響する要因 5. 健康増進に向けた看護の役割	講義
9	VII. ライフサイクルと健康 1. 成長・発達の概念 2. 小児期から成人期の概念 3. 老年期の概念 VIII. 看護ケアの基本的役割 1. コミュニケーター 2. 支援者・代弁者 3. 学習支援者およびカウンセラー 4. ケア提供者	講義
10	IX. 看護における法的側面 1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義
11・12	X. 看護における倫理と価値 1. 看護倫理とは 2. 看護職者の基本的責任 3. 人権の変遷	講義・演習
13	XI. 保健・医療・福祉システム 1. 保健・医療・福祉の概念 2. 保健・医療・福祉サービスの提供の場 3. 保健・医療・福祉チーム 4. 多職種で取り組む地域包括ケアシステム 5. 保健・医療・福祉における看護サービスの経済的評価 6. 看護サービスによる評価	講義
14・15	XII. 看護の展開と継続性 1. 看護継続性と継続看護 2. 多職種連携・協働における看護 XIII. 看護の統合 1. 看護ケアのマネジメント 2. 看護のマネジメントプロセス（看護方式） 3. 医療安全 4. 災害看護	講義
16	まとめ	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 2. 現代社 看護覚え書 3. 日本看護協会出版会 看護職の基本的責務	
参考書	適時、講義の中で紹介する	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 対象の理解・看護の目的Ⅱ	1年次前期	1単位	30時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	村崎 加奈子			
事前学習内容	教科書の指定章を読み、概要を理解しておく。			
科目のねらい	看護技術の基本的考え方や病院での看護師の役割と機能を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践の構成要素には、知識・技術・態度があることを理解できる。(第1回) 2. 看護技術について、アート(art)とサイエンス(science)の側面から考えることができる。(第1回) 3. 看護技術を通して人間の尊厳、患者の尊厳について考えることができる。(第2・3回) 4. 看護技術を習得するために必要な要素を関連して述べることができる。(第3回) 5. 当校における看護技術の習得方法が理解できる。(第4回) 6. 病院見学、病棟演習の概要を理解することができる。(第5・8回) 7. 病院の構造と役割を理解できる。(第6・7回) 8. 病棟の構造が理解できる。(第9～16回) 9. 病棟の看護体制の実際が理解できる。(第9～16回) 10. 入院患者の一日の生活の流れを知り、自宅での日常生活との違いや入院による規制について自己の考えを深めることができる。(第9～16回) 11. 尊厳やプライバシーを守るための配慮について理解を深めることができる。(第9～16回) 12. 対象の言動から、どのような思いを抱かれているのかを想像することができる。(第9～16回) 13. 実際の看護場面を通して、看護の機能と役割について考えを深めることができる。(第9～16回) 			
授業概要	看護技術とは何かを明確にした上で、さまざまな看護活動に共通して必要となる基本技術を学ぶ上での「技術の考え方」を学習する。また、病棟演習では看護師と一緒に行動し看護場面の実際を学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 看護技術とは何か 【テキスト1】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の根底にあるもの 2. 看護技術のもつ特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護実践の構成要素 2) サイエンスとアートからなる技術 3) これから学んでいく看護技術 	講義		
2	3. 看護と人間尊重 【テキスト1・2】 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の尊厳 	講義・演習		
3	<ol style="list-style-type: none"> 2) 患者の尊厳 3) インフォームドコンセント 4) ADLとQOL II. 看護技術の考え方 【テキスト1～4】 <ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルシンキング 2. EBN 3. ケアリング 	講義		

4	4. 当校における看護技術演習の進め方（豊田ゆかさん事例配布）	講義
5	Ⅲ. 病院の構造と役割 【1H】 1. 病院見学オリエンテーション	講義
6	2. 病院見学の実際 【1H】	演習
7	3. 学びの共有	演習 (グループワーク)
8	Ⅳ. 病棟における看護師の役割 1. 病棟演習オリエンテーション	講義
9~12	2. 病棟演習の実際 【7H】 1) 病棟の看護体制の概要 2) 病棟構造の特徴 3) 対象の療養環境の実際 4) 看護援助の見学	演習
13・14	3. 病棟演習まとめ 1) グループでの意見交換 2) 発表準備	演習 (グループワーク)
15.16	3) 発表 【4H】	演習
17	まとめ	
評価方法	筆記試験 60% (60点) 病院見学レポート 10% (10点) 病棟演習レポート・演習参加態度 30% (30点)	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 看護研究 4. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論	
参考書	授業の中で紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 人間関係技術	1年次前期	1単位	15時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	佐藤 由加			
事前学習内容	自己のコミュニケーションの特徴について振り返りしておく。			
科目のねらい	よい人間関係を築くために必要な基礎知識を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係づくりの基盤となるコミュニケーションの意義について理解できる。(第1・2回) 2. コミュニケーションの種類・構成要素とコミュニケーション過程について理解できる。(第1・2回) 3. コミュニケーションに影響する因子について理解できる。(第1・2回) 4. 看護における観察の意義および観察方法を理解することができる。(第3回) 5. 看護における記録の意義・重要性を理解できる。(第4回) 6. 看護記録の原則と注意すべき事柄を理解できる。(第4回) 7. 看護における報告の意義・重要性を理解できる。(第5回) 8. 看護における教育的意義を知り、教育・指導の方法を理解することができる。(第7・8回) 			
授業概要	<p>本科目では、人間関係づくりの基盤となるコミュニケーションの意義や対人関係の振り返りの手段、自己の特性を知る方法を理解し、コミュニケーションにおける基礎的な知識を学ぶ。『観察・記録・報告』、『教育的関わりの技術』では、演習を通して意義・必要性を理解し、看護実践に活かすための知識を学ぶ。</p>			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	<p>I. 人間関係を成立・発展させるための技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの概念 2) 看護学でコミュニケーションを学ぶ意義 3) コミュニケーションの構成要素 4) コミュニケーションの成立過程 2. コミュニケーションの種類と概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会的コミュニケーションと専門的コミュニケーション 2) コミュニケーションに必要な能力 3) コミュニケーションに必要な態度 4) コミュニケーションを妨げるもの 3. コミュニケーションと距離 <ol style="list-style-type: none"> 1) パーソナルスペース 2) 位置関係と心の距離 4. 看護場面での効果的なコミュニケーション技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションに必要な能力 2) コミュニケーションを妨げるもの 5. 対人関係の振り返り <ol style="list-style-type: none"> 1) プロセスレコード 2) ロールプレイング 3) リフレクション 	講義・演習		

3	II. 観察の意義と方法 1. 観察とは 2. 看護における観察 1) 観察の目的・方法（種類） 2) 観察の進め方 3) 観察の着眼点 4) 観察のスキル 3. 観察の視点と内容	講義
4	III. 記録の意義と方法 1. 記録の重要性 1) 記録の必要性 2) 記録の目的と条件 2. 医療における記録とその内容 1) 診療記録 2) 看護記録 3) 看護記録の保存 4) カルテ開示 3. 記録をするにあたっての原則と注意事項 4. 看護記録の方法 ・SOAP	講義
5	IV. 報告の意義 1. 報告の意義 2. 良い報告の条件	講義
6・7	V. 教育的関わりの技術 1. 看護における教育的支援 2. 看護における指導技術 3. 効果的な教育プロセス 1) 目的 2) 対象者と場面 3) 方法 4) 計画 5) 実施・評価 4. 教育・指導の方法 ・指導計画書の作成、指導の実際 <発表>	講義・演習 (グループワーク)
8	まとめ	
評価方法	筆記試験 100% (100点)	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I	
参考書	必要時、適宜紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 療養環境調整技術	1年次前期	1単位	15時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	小林 羽麻			
事前学習内容	対象の理解・看護の目的 I で学習した「人と環境」について復習しておく。 入学オリエンテーションで説明した「実習室使用の心得」を読み直し準備しておく。 各講義前には動画を含めてテキストを熟読し、学習内容をイメージして参加する。			
科目のねらい	療養環境を整えるための知識・技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な療養環境を整えるための知識と援助方法を理解できる。(第1回) 2. 看護援助における環境のとらえ方の視点を理解できる。(第1回) 3. 入院患者の生活環境の実際を知ることができる。(第2・4回) 4. 病床を整える援助の実際を理解できる。(第3・5回) 5. 臥床患者のリネン交換ができる。(第6～8回) 6. 患者にとって安全で快適な環境を考え整えることができる。(第7・8回) 			
授業概要	私たちが日々何気なく生活している環境に着目し、環境が生活に与える影響について考える。また、入院患者にとって快適な環境を考え整えることができる技術を習得する。環境調整では、対象の理解・看護の目的 II で実施した病棟演習を想起し、実際の患者の生活環境を基に援助計画を立案する。本科目は入学後、初めて実習室での演習や自主練習を行う科目である。技術の習得とともに自主練習の重要性、実習室のルール、身だしなみなど基本的な態度も養う。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 環境の意義 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理的な意味 2. 心理的な意味 3. 社会的な意味 II. 環境を整える技術 <ol style="list-style-type: none"> 1. 快適さを保つ構造 2. 病室の環境と病床の整備 3. 病床を整える援助 	講義		
2	III. 療養環境のアセスメント IV. 療養環境を整えるための援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟における療養環境の実際〈事前準備〉 <ol style="list-style-type: none"> 1) 環境の観察の視点と根拠 病棟における生活環境の実際の演習は、対象の理解・看護の目的 II で実施する 	演習 (グループワーク)		
3	2. リネン交換 <ol style="list-style-type: none"> 1) リネンの種類と取り扱い 2) リネン交換の方法の検討 (ベッドメイキング含む) 	講義・演習 (グループワーク)		

4	3. 病棟における療養環境の実際(発表) 1) 病棟別グループ発表 2) 質疑応答	演習
5	4. 下シーツのベッドメイキング 5. 環境調整 1) 転倒・転落・外傷予防を含む安全な療養環境整備 2) 消毒薬の濃度計算(消毒液の作成含む)	講義・演習
6	6. 臥床患者のリネン交換 1) 清潔・不潔を区別したリネンの取り扱い 2) 一連のリネン交換を実施	演習
7・8	7. 臥床患者の環境調整(援助計画立案) 1) 横シーツの交換、下シーツ・枕カバーの入れ直し 2) 一連の環境調整を実施	演習
9	まとめ	
評価方法	筆記試験85%(85点) 病棟における生活環境の実際演習参加態度、レポート15%(15点)	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 2. 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 3. 学研 医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力	
参考書	現代社 看護覚え書	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 活動・休息援助技術	1年次前期	1単位	15時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	勝野 さおり			
事前学習内容	看護物理学で学習した「力のモーメント」「看護ボディメカニクスの原理」の理解をしておく。 解剖生理学Ⅰで学習した「身体の支持と運動」の理解をしておく。			
科目のねらい	活動、休息を守るための知識・技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安楽な体位とはどのような体位か理解できる。各体位が生体に与える影響を理解できる。 (第1・2回) 2. 安楽な体位を保持する重要性とその方法を理解できる。(第1・2回) 3. 身体の構造から見たボディメカニクスについて理解できる。(第1・2回) 4. 日常生活における活動の意義を理解できる。(第3回) 5. 活動・運動機能をアセスメントする方法、不足部分への対応方法を理解できる。(第3回) 6. ボディメカニクスを活用した安全・安楽な体位変換の方法を理解し、習得できる。 (第4・5回) 7. 安楽な体位を保持する方法を習得できる。(第5回) 8. ボディメカニクスを活用した安全・安楽なストレッチャー移乗を理解できる。 ストレッチャー移送、歩行介助の方法を習得できる。(第6回) 9. ボディメカニクスを活用した安全・安楽な車椅子移乗・移送の援助を理解できる。(第6回) 10. ボディメカニクスを活用した安全・安楽な車椅子移乗・移送の援助を習得できる。 (第7・9回) 11. 日常生活における休息・睡眠の意義を理解できる。(第8回) 12. 休息・睡眠の障害の原因と休息・睡眠を促す援助を理解できる。(第8回) 			
授業概要	「活動」と「休息」それぞれの意義とそのバランスの重要性を、健康障害や個別性の視点もふまえて学習する。知識を基に「体位変換」「安楽な体位保持」「移乗・移送」の各援助技術についてボディメカニクスを活用し、自らも患者役を体験しながら、安全・安楽に実践する方法を考え習得できるように学習する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 安楽かつ快適さを確保する技術「安楽な体位」 患者の安全・医療従事者の安全を守る技術「ボディメカニクス」 1. 安楽な体位 2. ボディメカニクス	講義		
3	II. 活動・運動を支援する技術 1. 活動・運動の意義 2. 活動・運動の生理学的メカニズム 3. 活動・運動のニーズのアセスメント 4. 活動・運動を支援する援助の実際	講義		
4	5. 体位変換(デモンストレーション)	演習		

5	6. 体位変換・安楽な体位の保持「技術チェック」	演習
6	7. ストレッチャー移乗・移送（移乗はデモンストレーションのみ） 8. 歩行介助 9. 車椅子移乗・移送（デモンストレーション） （援助計画立案）	演習
7	10. 車椅子移乗・移送	演習
8	Ⅲ. 休息・睡眠を促す技術 1. 休息・睡眠の意義 2. 休息・睡眠の生理学的メカニズム 3. 休息・睡眠のニーズのアセスメント 4. 休息・睡眠の障害 5. 休息・睡眠を促す援助の実際 1) 休息の援助技術 （1）消極的休息 （2）積極的休息 （3）栄養補給 （4）療養生活におけるレクリエーション 2) 睡眠の援助技術	講義
9	Ⅳ. 技術試験 「病室のベッドからレントゲン室への車椅子移乗」	演習
10	まとめ	
評価方法	筆記試験 90%（90点） 技術試験 10%（10点）	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 2. 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 3. メディックメディア 看護が見える vol. 4 看護過程の展開	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 清潔・衣生活援助技術	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	村崎 加奈子 小室 聖子			
事前学習内容	解剖生理学Ⅰ（皮膚・粘膜）の復習をしておく。活動・休息援助技術で学習した「安楽な姿勢・体位の保持」について復習し、技術演習の際に活用できるようにしておく。授業前には、講義のテーマに該当する箇所を読み、概要を理解する。			
科目のねらい	皮膚・粘膜の保護および清潔保持に関する知識・技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々が健康な生活を送るための清潔の意義について理解できる。（第1回） 2. 清潔行為とその影響（身体的影響、心理・社会的影響）を理解することができる。（第1回） 3. 清潔のニーズをアセスメントし、適切な援助方法を選択できる。（第2・4・9・12・15回） 4. 原理原則に基づいた清潔に関する援助方法を理解することができる。（第2・4・9・12回） 5. 安全と安楽に配慮した効果的・効率的なケア（洗髪、足浴、爪切り、陰部洗浄、全身清拭、寝衣交換）の習得ができる。（第3・5～8・10・11・13・14・16～18回） 6. 実施したケアの評価ができる。（第5・6・18回） 			
授業概要	本科目では、清潔・衣生活を整える技術について学ぶ。対象の状況に応じて援助内容・方法を選択し、留意点について理解した上で具体的な実施方法について学習する。授業時間の大半は演習である。手技のみならず、援助の必要性や行動の根拠をふまえて援助できることを目指している。科目の特性上、患者の立場を体験することで気持ち良さを実感することも大切である。また、お互いの感想や意見をもとに援助を振り返り、安全・安楽な技術の習得となるように日々練習が必要である。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 清潔の意義 <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の清潔を保つケアが身体に及ぼす影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生理的な意義 2) 心理・社会的な意義 2. 看護者にとっての清潔ケアの意義 II. 皮膚・粘膜のメカニズム III. 清潔行為とその影響 <ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔にする行為の身体的影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 温熱作用 2) 静水圧作用 3) 浮力作用 4) マッサージ効果 2. 洗浄剤とスキンケアの基本 3. 清潔にする援助と心理・社会的影響 IV. 清潔のニーズ V. 清潔のセルフケアに影響を与える要因	講義		

2	VI. 身体各部のアセスメント VII. 清潔の援助方法 1. 援助方法の選択 2. 整容（整髪、爪切り、ひげ剃り、眼・耳・鼻の清潔） 3. 口腔ケア、義歯の取り扱い 1) 口腔ケアを行うためのアセスメント 2) 口腔ケアの目標・期待されること 3) 援助方法、留意点・根拠 4) 義歯の取り扱い 口腔ケアの演習は、栄養・代謝／排泄援助技術で実施する 義歯の取り扱いの演習は、高齢者の生活を支える看護で実施する 4. 寝衣交換 1) 寝衣交換を行うためのアセスメント 2) 寝衣交換の目標・期待されること 3) 援助方法、留意点・根拠	講義
3	4) 寝衣交換の実際（臥床患者のパジャマ交換）	演習
4	5. 洗髪 1) 洗髪を行うためのアセスメント 2) 洗髪目標・期待されること 3) 援助方法、留意点・根拠 (1) ケリーパッド (2) 洗髪台 (3) 洗髪車 (4) ドライシャンプー 6. 部分浴（手浴・足浴） 1) 部分浴（手浴・足浴）を行うためのアセスメント 2) 部分浴（手浴・足浴）の目標・期待されること 3) 援助方法、留意点・根拠	講義
5・6	7. 臥床患者の洗髪（ケリーパッド）の実際 1) 援助の必要性 2) 援助計画に沿って原理原則に基づき実施 3) SOAPによる評価 4) 援助計画の追加/修正	演習
7・8	8. 部分浴（足浴）、整容（爪切り）、マッサージの実際 1) 援助の必要性 2) 援助計画に沿って原理原則に基づき実施 3) 援助計画の追加/修正	演習
9	9. 陰部洗浄 1) 陰部洗浄を行うためのアセスメント 2) 陰部洗浄の目標・期待されること 3) 援助方法、留意点・根拠	講義
10・11	4) 陰部洗浄の実際 (1) 援助の必要性 (2) 援助計画に沿って原理原則に基づき実施 (3) 援助計画の追加/修正	演習

12	<p>10. 入浴・シャワー浴の介助</p> <p>1) 入浴・シャワー浴の介助を行うためのアセスメント</p> <p>2) 入浴・シャワー浴の介助の目標・期待されること</p> <p>3) 援助方法、留意点・根拠</p> <p>11. 全身清拭</p> <p>1) 全身清拭を行うためのアセスメント</p> <p>2) 全身清拭の目標・期待されること</p> <p>3) 援助方法、留意点・根拠</p>	講義
13・14	<p>4) 全身清拭の実際<基本動作の習得></p> <p>(1) 援助計画に沿って原理原則に基づき実施</p> <p>(2) 援助計画の追加/修正</p>	演習
15	<p>5) 2人で実施する方法</p> <p>6) 端座位で実施する方法</p>	講義
16・17	<p>7) 臥床患者の全身清拭(寝衣交換を含む)<一連の流れ></p> <p>(1) 援助の必要性</p> <p>(2) 援助計画に沿って原理原則に基づき実施</p> <p>(3) 報告</p> <p>(4) 援助計画の追加/修正</p>	演習
18	<p>VIII. 技術試験</p> <p>臥床患者の全身清拭(寝衣交換を含む)</p>	演習
19	まとめ	
評価方法	<p>筆記試験 90% (90点)</p> <p>技術試験 10% (10点)</p>	
テキスト	<p>1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ</p> <p>2. 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術</p>	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 食事・栄養／排泄援助技術	1 年次後期	1 単位	30 時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	橋本 礼美 佐藤 由加 小室 聖子			
事前学習内容	解剖生理学Ⅱ、解剖生理学Ⅳ（内分泌・代謝）、生化学（代謝）、栄養学の内容についてそれぞれ理解しておく。食事・栄養の演習では、清潔・衣生活援助技術で学習した歯ブラシでの口腔ケアを実施するため、援助の目的や方法について理解しておく。テキストの関連動画は事前に視聴しておくこと。			
科目のねらい	食事・栄養／排泄を整えるための知識・技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての栄養補給と食事の意義を学習し、食事に関する生理的メカニズムについて理解できる。(第 1 回) 2. 健康な生活のための適切な食事や栄養状態をアセスメントすることを理解できる。(第 2 回) 3. 健康状態に応じた食事の援助方法、栄養に関する健康障害時の看護を学習し、食事行動がとれていない人に対する食事援助技術が習得できる。(第 3～7 回) 4. 排泄の意義と重要性を学習し、排尿・排便の生理学的メカニズムが理解できる。(第 8 回) 5. 排尿・排便状況のアセスメントについて学習し、排泄のニーズが理解できる。(第 8 回) 6. 排泄機能の障害の種類とその要因について理解できる。(第 9 回) 7. 対象の排泄に応じ、安全・安楽・自立を考慮した排泄の援助方法が理解できる。(第 10～14 回) 8. 排泄機能に障害をきたしている場合の看護について理解でき、オムツ交換・導尿・浣腸の技術を習得できる。(第 10～14 回) 			
授業概要	本授業では、人間が生きるために必要な栄養・代謝・排泄についてのメカニズムとその看護について学習する。栄養・代謝では講義での内容をふまえて、食事介助・口腔ケアの演習を通して看護技術を習得していく。排泄では栄養摂取したものがどう排泄につながるのか学習し、排泄の援助について演習にて看護技術を習得する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	<ol style="list-style-type: none"> I. 食事・栄養の意義 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理的な意義 2. 心理的な意義 3. 社会的な意義 II. 食事に関する生理学的メカニズム <ol style="list-style-type: none"> 1. 食欲 2. 消化・吸収 3. 各臓器における消化・吸収 4. 食事を阻害する要因 III. 食事と栄養に関する基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素 2. 食事摂取基準 3. 病院における食事 	講義		

	<p>IV. 栄養状態のアセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養アセスメント 2. 水分・電解質バランスのアセスメント 3. 食事介助前の評価 	
3～8	<p>V. 食事・栄養に関する援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 援助方法の選択 2. 経口栄養の援助 3. 嚥下障害のない対象への食事介助 4. 歯ブラシでの口腔ケア 口腔ケアの講義は、清潔・衣生活援助技術で実施する 5. 経管栄養の援助 6. 経管栄養の援助の実際 	講義・演習
9	<p>VI. 栄養に関する健康障害時の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食欲不振時の看護 2. 悪心・嘔吐時の看護 	講義
10	<p>VII. 排尿・排便の意義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理的な意味 2. 心理・社会的な意味 <p>VIII. 排尿・排便の生理学的メカニズム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 尿の生成と排尿のメカニズム 2. 便の生成と排便のメカニズム <p>IX. 排尿・排便のニーズのアセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排尿・排便状況のアセスメント 2. 排泄のニーズ 	講義
11	<p>X. 排尿・排便障害の種類</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄行動を阻害する活動・運動上の要因 2. 自然排尿を阻害する要因 3. 自然排便を阻害する要因 	講義
12～17	<p>XI. 排尿・排便の援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 床上での排尿・排便の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 尿器を用いた床上での排尿の援助 2) 便器の種類と適応 3) 便器を用いた床上での排尿・排便の援助 2. 尿失禁・便失禁のある患者のオムツを用いた援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) オムツの種類 2) オムツを使用する場合の留意点 3. ポータブルトイレ、トイレでの援助 ポータブルトイレの手技・講義・演習は、在宅療養生活を支える技術で実施 4. 自然排尿・排便を促す方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自然排尿を促す方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 脊髄部の刺激 (2) 腹圧をかけやすい体位の工夫 2) 自然排便を促す方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 腰背部の温罨法 (2) 腹部マッサージ 5. 摘便 摘便の手技・講義・演習は、在宅療養生活を支える技術で実施 	講義・演習

	6. 導尿 1) 導尿の適応 2) 導尿の留意点 3) 導尿の実際 7. 浣腸 1) 浣腸の適応と種類 2) 浣腸の留意点 3) グリセリン浣腸の実際	
18	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 2. 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 3. 照林社 アセスメント・看護計画がわかる症状別看護過程 4. メディックメディア 看護が見える vol. 4 看護過程の展開	
参考書	必要時、適時紹介していく。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	ヘルスアセスメント	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	木村 雅子			
事前学習内容	解剖生理学 I～IVの履修内容を復習しておく。 授業前にはテキストの講義テーマの該当する箇所を読み概要を理解しておく。			
科目のねらい	生活する人の身体的、心理的、社会的側面から健康をアセスメントするために必要な知識・技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントを学習する意義が理解できる。(第1回) 2. フィジカルアセスメントの必要物品とアセスメントのテクニックが理解できる。(第1回) 3. 一般状態とバイタルサインの関連を学び、バイタルサインの正確な測定方法を理解し、実施できる。(第2・4～9・16・17回) 4. 系統別それぞれの構造と機能について理解できる。(第3～14回) 5. 系統別それぞれのアセスメントが的確に実施できる。(第3～14回) 6. 事例を通して「肺炎」についてのヘルスアセスメントが理解できる。(第15回) 7. 知識を活用しながら、呼吸・脈拍・血圧・体温測定 of 技術を習得できる。(第16・17回) 			
授業概要	フィジカルアセスメントのために必要な身体の基本的構造と機能を理解する。そのうえで、看護師にとって基盤となる技術であるフィジカルアセスメントの知識と技術を講義・演習を通して習得する。また、心理・社会的側面のアセスメントは事例を通して理解を深める。バイタルサイン測定については演習や技術確認を通して技術の習得を目指す。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. ヘルスアセスメントと看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体を理解とそれに基づく判断力の重要性 2. ヘルスアセスメントとは何か 3. フィジカルアセスメントとは何か 4. フィジカルアセスメントの展開 5. 身体を理解と判断力の日常的鍛錬 II. フィジカルアセスメントの必要物品、アセスメントのテクニック <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントに挑む姿勢 2. フィジカルアセスメントの必要物品 3. 問診 4. 視診、触診、打診、聴診 	講義		
2	III-a. バイタルサインの測定 <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般状態とバイタルサイン 2. バイタルサインの測定 (体温) <ol style="list-style-type: none"> 1) 体温の測定方法 2) 体温のアセスメント 	講義		
3	IV. 系統別アセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントの視点を身に付ける 2. 皮膚・爪・髪のアセスメント 3. リンパ系のアセスメント 4. 頭部・顔面・頸部のアセスメント 	講義・演習		

4～6	<p>5. 胸部（呼吸器系）のアセスメント</p> <p>1) 肺・心臓の位置確認とボディペインティング</p> <p>2) 肺の問診および視診、触診、打診、聴診</p> <p>III-b. バイタルサインの測定</p> <p>2. バイタルサインの測定（呼吸）</p> <p>1) 呼吸の測定方法</p> <p>2) 経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）の測定</p> <p>3) 呼吸のアセスメント</p>	講義・演習
7～9	<p>6. 乳房・腋窩のアセスメント</p> <p>7. 心臓・血管系のアセスメント</p> <p>1) 心臓・血管系の構造と機能</p> <p>2) 心臓・血管系の問診および視診、触診、打診、聴診</p> <p>III-c. バイタルサインの測定</p> <p>2. バイタルサインの測定（脈拍・血圧）</p> <p>1) 脈拍の測定方法</p> <p>2) 脈拍のアセスメント</p> <p>3) 血圧の測定方法</p> <p>4) 血圧のアセスメント</p>	講義・演習
10・11	<p>8. 腹部（消化器系）のアセスメント</p> <p>1) 腹部（消化器系）の構造と機能</p> <p>2) 腹部（消化器系）の問診および視診、聴診、打診、触診</p>	講義・演習
12・13	<p>9. 筋・骨格系のアセスメント</p> <p>1) 筋・骨格系の構造と機能</p> <p>2) 筋・骨格系の問診および視診、触診</p>	講義・演習
14	<p>10. 神経系のアセスメント</p> <p>11. 眼（視覚）・鼻・耳・口腔/咽頭のアセスメント</p>	講義
15	V. 事例によるまとめ 心理・社会的側面のアセスメント 「肺炎」	演習 (グループワーク)
16・17	<p>VI. バイタルサイン測定の実際</p> <p>1. 体温</p> <p>2. 呼吸</p> <p>3. 脈拍</p> <p>4. 血圧</p>	演習
18	VII. 技術確認 「事例を用いたバイタルサイン測定の実際」	演習
19	まとめ	
評価方法	<p>筆記試験 90% (90点)</p> <p>技術試験 10% (10点)</p>	
テキスト	<p>1. メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I</p> <p>2. メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 II</p> <p>3. 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術</p>	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 安全・感染予防・生命活動を 支える看護技術	1 年次後期	1 単位	30 時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	橋本 礼美 江見 たか江 小室 聖子			
事前学習内容	<p>予習においては、テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読する。また、関連動画がある場合は視聴する。対象の理解・看護の目的 I（マズローの人間の基本的欲求）、臨床微生物学（病原体と感染経路、感染症）について理解しておく。</p> <p>解剖生理学Ⅲ（呼吸器系・循環器系）、病態治療論Ⅲ（呼吸器疾患）での既習内容や、ヘルスアセスメントでの、呼吸・循環・体温のメカニズムと測定方法について理解しておく。</p>			
科目のねらい	<p>看護活動に必要な技術の概念と方法を学ぶ。</p> <p>生命活動を支える知識・技術（酸素吸入・吸引・電法）を学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における患者の安全について理解できる。（第 1 回） 2. 医療を安全に提供するために必要な安全管理の知識が理解できる。（第 1 回） 3. 医療事故・医療過誤の意味を理解し、その方策について理解できる。（第 2 回） 4. 主な医療事故対策について理解できる。（第 2 回） 5. 感染予防の意義、感染症発生の要因が理解できる。（第 3 回） 6. 感染防御に必要な基礎知識が理解できる。（第 3～7 回） 7. 清潔と汚染、消毒と滅菌のちがいと方法が理解できる。（第 4～7 回） 8. さまざまな感染予防行動について原理・原則を理解できる。（第 3～7 回） 9. 感染防御の技術の基本が習得できる。（第 6～13 回） 10. 吸入の原理・目的・生体への影響を理解できる。（第 8 回） 11. 吸入の種類及びその効果と方法を理解できる。（第 8 回） 12. 酸素吸入ができる。（第 9～11 回） 13. 酸素ボンベの取り扱いができる。（第 9～11 回） 14. 吸引の原理・目的・安全に行うための技術と留意点を種類別に理解できる。 (第 12・13 回) 15. モデル人形を用いて、口腔・鼻腔内吸引の技術を習得できる。（第 13 回） 16. 電法の原理・目的を理解できる。（第 14 回） 17. 寒冷・温熱刺激が生体に及ぼす影響を理解できる。（第 14 回） 18. 電法の効果と種類・方法を理解できる。（第 14 回） 19. 発熱時の看護を理解できる。（第 15 回） 			
授業概要	<p>看護者が提供する「安全」については、根拠及び倫理的・法的側面の知識を深めるとともに、患者に提供される「安全」が、健康の回復・増進を目的とする科学的根拠及び理論的枠組みに基づくことを理解し、基本的な知識を深める。</p> <p>「感染予防の技術」については、科学的根拠及び理論的枠組みを踏まえて基礎的な知識を深めるとともに、その基本的知識を踏まえた援助を実施することで、援助の技術を習得する。</p> <p>患者の異常な状態を正常に導くために必要な看護を学習し、基本的知識を踏まえたうえで技術を習得する。</p>			

授業展開		
回	学習内容	方法
1	<p>【安全を守る技術】</p> <p>I. 医療安全の意義と確保</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の概念 2. 安全を脅かす要因 3. 安全管理対策 	講義
2	<p>II. 患者の安全：主な医療事故とその予防策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故と医療過誤 2. 転倒・転落の予防策 3. 外傷、チューブ・ライントラブルの予防策 4. 患者誤認の予防策 <p>III. 医療従事者の安全</p>	講義
3	<p>【感染予防を推進する技術】</p> <p>I. 感染予防の意義</p> <p>II. 感染症に関する法律</p> <p>III. 感染症を成立させる要素と成立過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染源 2. 病原体保有者 3. 人体における微生物の出口 4. 感染経路 5. 侵入門戸 6. 宿主 <p>IV. 感染症を予防するための援助方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スタンダードプリコーション 2. 感染経路別予防対策 	講義
4	<p>V. 感染症を予防するための技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手指衛生 2. 個人防護具の選択・着脱手順<デモンストレーション> 3. 無菌操作 4. 滅菌物の取り扱い 	講義
5	<ol style="list-style-type: none"> 5. 洗浄・消毒・滅菌 6. 医療廃棄物の取り扱い <p>VI. 感染予防に関するアセスメント</p> <p>VII. 感染症を予防のための組織と役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院（医療施設）における感染対策組織 2. 感染症発症時の対応 3. 医療事故の予防と事故後の対応 	講義
6	<p>VIII. 中央材料室見学</p> <p>IX. 校内演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 衛生的手洗い 2. 空気感染防止対策（防護用具の着脱） 3. 無菌操作（滅菌手袋の装着） 	演習
7	<ol style="list-style-type: none"> 4. 滅菌物の取り扱い 5. 使用済み器材の適切な廃棄処理 6. 感染性廃棄物の取り扱い 	演習

8	<p>【生命活動を支える技術】</p> <p>I. 呼吸を楽にする技術</p> <p>1. 効率的な呼吸方法</p> <p>2. 痰を喀出させる方法 体位ドレナージの演習は、慢性疾患をもつ成人を支える看護で実施</p> <p>3. 吸入療法 <デモンストレーション></p> <p>1) 加温療法</p> <p>2) エアゾル吸入療法 (1) ジェットネブライザー (2) 超音波ネブライザー</p>	講義
9・10	<p>4. 酸素療法</p> <p>1) 酸素療法の適応</p> <p>2) 低流量での酸素吸入</p> <p>3) 高流量での酸素吸入</p> <p>4) 酸素供給源</p> <p>5) リザーバーシステムでの酸素吸入</p> <p>6) 高流量鼻カニューラ酸素療法</p> <p>7) 酸素療法の実施</p> <p>8) 酸素ボンベの残量の確認</p> <p>9) 酸素流量計の取扱い</p>	講義
11	<p>5. 酸素吸入の技術</p> <p>1) 中央配管方式</p> <p>2) 酸素ボンベの取扱い</p>	演習
12	<p>6. 吸引 <デモンストレーション></p> <p>1) 一時的吸引法 (1) 口腔・鼻腔内吸引 (2) 気管吸引</p> <p>2) 胸腔内持続吸引</p>	講義
13	7. 口腔・鼻腔内吸引の実際	演習
14	<p>II. 体温を調節する技術</p> <p>1. 電法</p> <p>2. 電法の実際</p> <p>1) 温電法</p> <p>2) 冷電法</p>	講義
15	3. 発熱時の看護	講義
16	まとめ	
評価方法	筆記試験 100% (100点)	
テキスト	<p>1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ</p> <p>2. 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術</p> <p>3. 学研 看護学テキスト ベーシック&プラクティス統合と実践「医療安全」</p> <p>4. 照林社 アセスメント・看護計画がわかる 症状別看護過程</p>	
参考書	必要時、講義の中で紹介する	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 検査・治療における看護技術	2年次前期	1単位	30時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	未定			
事前学習内容	解剖生理学 I（皮膚の構造と機能・身体の支持と筋）、病態治療論 I（臨床検査）、看護物理学（点滴静脈内注射の物理）、以上の既習内容を含め、テキストの該当頁、関連書籍を読んで準備する。また、関連動画がある場合は視聴する。			
科目のねらい	検査・治療が安全・安楽に受けられる知識・技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査・治療の意義および検査・治療における看護師の役割を述べるができる。(第1回) 2. 検査・治療の種類と実施時の注意点を理解できる。(第1～3回) 3. 検査・治療実施時の介助方法および検体の採取方法を理解できる。(第1～3回) 4. モデル人形を用いて静脈血採血を実施できる。(第3回) 5. 与薬（薬物療法）について、その目的・用途・方法を理解できる。(第4～5回) 6. 与薬のための法的根拠を述べるができる。(第4～5回) 7. モデル人形を用いて直腸内与薬の投与が実施できる(第6回) 8. 与薬に関わる安全管理のあり方について述べるができる。(第7回) 9. 注射剤の準備が安全にできる(第8・9回) 10. 各注射法の目的、方法、留意点が理解できる(第10～12回) 11. 皮下注射、筋肉内注射の注射部位の選定ができる(第13回) 12. モデル人形を用いて皮下注射が実施できる。(第14回) 13. モデル人形を用いて筋肉内注射が実施できる。(第15回) 14. モデル人形を用いて点滴静脈内注射が実施できる。(第16回) 			
授業概要	<p>本科目では、対象が治療や診療を受ける際に必要とする看護援助のうち、汎用性の高い看護技術について学習する。その際、治療・診療および看護援助の目的と対象の身体・生活に与える影響を理解するとともに、これらのリスクを最小限にとどめ安全・安楽に治療・援助を受ける事が出来るための観察・援助の考え方と方法について理解する。</p> <p>注射の技術においては、危険物を取り扱うため安全への配慮を十分に行いながら、実施はモデル装具を用いて学習する。</p>			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 検査・治療を安全かつ正確に行う技術 <ol style="list-style-type: none"> 1. 検査とは 2. 身体計測 3. 検査の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) X線単純撮影検査 2) 超音波検査 3) CT検査 4) MRI検査 5) 内視鏡検査 6) 心電図検査 7) 尿・便・喀痰検査 8) 血液検査 	講義		

	<ul style="list-style-type: none"> 9) 穿刺法 10) 核医学検査 11) 基礎代謝検査 12) 呼吸機能検査 	
2	<p>4. 静脈血採血 <デモンストレーション></p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 目的 2) 検査の種類 3) 検体採取のために必要な器具の準備 4) 手順と留意点 5) 採取後の保存方法や検査室までの搬送の取り扱い 	講義
3	<p>5. 真空採血管を用いた静脈血採血の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 患者説明 2) 準備 3) 部位の決定 4) 実施 5) 後片付け 	演習
4・5	<p>II. 与薬を安全かつ正確に行う技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 与薬とは 2. 与薬における法的根拠 3. 与薬のための基礎知識 4. 与薬のための援助技術 <ul style="list-style-type: none"> 1) 安全で確実な与薬のための知識・技術・態度 2) 与薬法（経口的与薬法、口腔内与薬法、直腸内与薬法、点眼法、点鼻法、点耳法、吸入法、塗布法、貼付法、注射法） 	講義
6	<p>5. 直腸内与薬法の実際</p>	演習
7	<p>6. 注射のための援助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 注射法で使用する物品（滅菌材料） 2) 注射の準備 3) 6Rの確認 4) シリンジと針の接続 <p>7. 与薬における安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 感染予防（医療廃棄物の取り扱い） 2) 薬剤投与における安全対策 	講義
8・9	<p>8. 注射剤の準備の実際 <デモンストレーション></p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 6Rの確認 2) シリンジと針の接続 3) アンプルカット 4) 薬剤の吸い上げ 	演習
10~12	<p>9. 各注射法</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 皮下注射 <デモンストレーション> <ul style="list-style-type: none"> (1) 皮下注射に適した部位 (2) 皮下注射で選択される部位 (3) 刺入角度 (4) 実施方法と留意点（患者説明、準備、注射部位の決定、実施、注射後の観察） 2) 筋肉内注射 <デモンストレーション> <ul style="list-style-type: none"> (1) 筋肉内注射に適した部位 (2) 筋肉内注射で選択される部位 	講義

	<ul style="list-style-type: none"> (3) 刺入角度 (4) 実施方法と留意点 (患者説明、準備、注射部位の決定、実施、注射後の観察) 3) 皮内注射 <ul style="list-style-type: none"> (1) 皮内注射に適した部位 (2) 刺入角度 (3) 実施方法と留意点 4) 点滴静脈内注射 <デモンストレーション> <ul style="list-style-type: none"> (1) 輸液療法の目的 (2) 輸液療法で選択される部位 (3) 輸液療法に用いられる主な薬剤 (4) 輸液量の決定 (5) 輸液滴下量の決定 (6) 輸液準備における留意点 (7) 輸液実施中の看護 (8) 三方活栓の使い方 	
13	10. 注射部位の選定 <ul style="list-style-type: none"> 1) 皮下注射 (上腕三頭筋) 2) 筋肉内注射 <ul style="list-style-type: none"> ①三角筋 ②中殿筋 (クラークの点、ホッホシュテッターの部位、四分三分法) 	演習
14	11. 皮下注射の実際 <ul style="list-style-type: none"> (1) 患者説明 (2) 準備 (3) 部位の決定 (4) 実施 (5) 後片付け 	演習
15	12. 筋肉注射の実際 (三角筋) <ul style="list-style-type: none"> (1) 患者説明 (2) 準備 (3) 部位の決定 (4) 実施 (5) 後片付け 	演習
16	13. 静脈内注射の実際 <ul style="list-style-type: none"> (1) 患者説明 (2) 準備 (3) 部位の決定 (4) 実施 (5) 後片付け 	演習
17	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術 2. 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 3. メディックメディア 看護が見える vol. 4 看護過程の展開	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 臨床判断	2年次前期	1単位	30時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	未定			
事前学習内容	解剖生理学、臨床薬理学、病理学、病態治療論、基礎セミナーⅡ、ヘルスアセスメント、人間関係技術、カウンセリング論で学んだ知識・技術を復習しておく。			
科目のねらい	臨床判断プロセスを基盤とした思考過程を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マイコプラズマ肺炎の看護を既習の知識と関連させながら理解できる。(第1～7回) 2. 臨床判断の基礎的能力を習得する必要性を理解できる。(第8回) 3. 看護師の臨床判断プロセスを理解できる。(第8回) 4. 既習の知識を統合し、対象の状態の変化に気づくことができる。(第9・10回) 5. 情報の意味を批判的に思考できる。(第9～14回) 6. 状態に応じた看護実践を考えることができる。(第9・10回) 7. コミュニケーション、フィジカルアセスメントを用いて意図的に情報収集ができる。 (第11～14回) 8. 基礎看護技術を複合させて行動できる。(第11～14回) 9. 対象の反応の事実をありのままにとらえることができる。(第11～14回) 10. 事実に基づいて看護行為を意味づけできる。(第11～14回) 11. 主体的・対話的学びをととして、学習成果を深めることができる。(第9～16回) 			
授業概要	本科目は、看護師のように考えて行動できるようになることをめざし、看護師が臨床で「気づき」「解釈」し、実践につなげていく思考過程を学習する。気づきからの援助の判断と実践にはシミュレーション学習を取り入れ、リアリティーのある環境で学ぶ。シミュレーション後には、その経験を振り返り、事実に基づいて看護行為を意味づけする。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1～7	I. マイコプラズマ肺炎（解剖生理学～看護まで） <ol style="list-style-type: none"> 1. 病態生理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 肺・気管支の解剖生理 2) 炎症とは 3) 肺炎の定義 4) 肺炎の病態 5) 肺炎の誘因・原因 6) マイコプラズマ肺炎の病態 7) 肺炎の経過 2. 診断 肺炎を決定づける証拠（結果を含む） <ol style="list-style-type: none"> 1) レントゲン検査 2) 血液検査 3) 痰培養 4) 身体症状 3. 治療 一般的な治療法 <ol style="list-style-type: none"> 1) なぜ、その治療が行われるのか 2) 治療をすることで得られる効果 	演習 (グループワーク)		

	4. 症状 1) 発熱 2) 全身倦怠感 3) 咳嗽・喀痰 4) 呼吸困難 5. 看護 1) 発熱時の看護 2) 全身倦怠感の看護 3) 咳嗽・喀痰の看護 4) 呼吸困難の看護	
8	II. 臨床判断の基礎知識 1. 臨床判断とは 2. 臨床判断のプロセス	講義・演習
9・10	III. 気づきのトレーニング〔気づき～解釈まで〕 1. 排泄の援助場面	演習
11・12	IV. 事例を用いた臨床判断（シミュレーション）〔気づき～省察まで〕 1. 発熱	演習
13・14	2. 咳嗽	演習
15・16	V. シミュレーション学習を通しての学びの共有	演習 (グループワーク)
評価方法	協同学習：40点（事前学習・グループワーク・プレゼンテーション・成果物） レポート：50点 ピア評価：10点（プレゼンテーション、成果物）	
テキスト	1. メディックメディア 看護が見える vol.4 看護過程の展開 【DVD・動画】 1. 臨床判断 気づきトレーニング 第1巻 基礎看護学実習編 三浦友里子他監修 東京サウンド・プロダクション 2. キラリ！看護のシゴト 看護のスペシャリスト 糖尿病看護認定看護師 日本看護協会	
参考書	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 3. 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 4. 照林社 症状別看護過程 “アセスメント・看護計画がわかる！”	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 看護過程	2年次前期	1単位	30時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	未定			
事前学習内容	事例(豊田ゆか)に基づいたマイコプラズマ肺炎の病態と治療・看護を学習しておく。 教科書の指定章を読み、概要を理解しておく。			
科目のねらい	看護活動の基礎となる看護過程を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を行う上で看護過程の意味を理解できる。(第1回) 2. 看護過程と問題解決方法の関係を理解できる。(第1回) 3. 看護過程を展開するために、看護理論・看護の枠組みの活用の必要性を理解できる。 (第1回) 4. 身体・精神・社会面に看護上の問題まで加えた全体関連図を描くことで、情報の関連性が分かり、対象の全体像を理解できる。(第2～12回) 5. データベースを用いて患者情報の概要を理解できる。(第2・3回) 6. ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて、系統的な情報整理の方法を理解できる。 (第4～12回) 7. 情報の整理に基づき、アセスメントができる。(第4～12回) 8. 優先順位を決定する方法を説明することができる。(第13回) 9. 目標の設定ができ、それらの意味を理解できる。(第14回) 10. 具体的で実践可能な計画立案の必要性を理解できる。(第14回) 11. 評価の必要性について理解できる。(第15回) 12. 既習科目の知識の統合と文献活用の方法について理解できる。(第1～15回) 13. 看護診断の概要を理解できる。(第16回) 			
授業概要	看護を科学的・論理的に実践する方法論としての看護過程について、その意義や目的、看護過程の構成要素について講義する。演習においては事例を通して個人ワークを進めるため、講義前に指示された範囲の予習が不可欠である。看護過程は基礎看護学Ⅱ期実習の基盤となる科目であり、ルールに基づいた記述の仕方及び文献を活用した思考過程を学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 看護過程 1. 看護過程とは 2. 看護過程の構成要素	講義		
2・3	II. 関連図、データベース 1. 関連図とは、関連図の描き方 2. 事例に基づいた関連図、データベースの作成	講義・演習		
4	III. アセスメントの実際(事例展開) 1. 情報収集 2. 情報の解釈と分析	講義		

5～12	<p>3. 各パターンのアセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康知覚－健康管理パターン 2) 栄養－代謝パターン 3) 排泄パターン 4) 活動－運動パターン 5) 睡眠－休息パターン 6) 認知－知覚パターン 7) 自己知覚－自己概念パターン 8) 役割－関係パターン 9) セクシュアリティ－生殖パターン 10) コーピング－ストレス耐性パターン 11) 価値－信念パターン <p>4. アセスメントまとめ</p>	講義・演習
13	IV. 優先順位の決定	講義
14	<p>V. 計画立案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 期待される結果 2. 具体策 	講義
15	<p>VI. 実施・記録、評価・修正、サマリー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実施・記録 2. 成果の評価 3. 計画の修正 4. サマリー 	講義
16	<p>VII. 看護診断とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護診断とは 2. 看護診断の種類 3. 照合とは 4. 優先順位について 	講義
17	まとめ	
評価方法	<p>筆記試験 55% (55点)</p> <p>レポート (看護過程の展開) 45% (45点)</p>	
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. メディックメディア 看護が見える vol. 4 看護過程の展開 2. 照林社 症状別看護過程 “アセスメント・看護計画がわかる！” 3. 中央法規 エビデンスに基づく 疾患別看護ケア関連図 4. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I 	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	基礎看護学 看護理論・看護研究	3年次後期	1単位	15時間
科目責任者	村崎 加奈子			
担当教員	未定			
事前学習内容	1年次既習のナイチンゲール看護論の復習をする。2年次で参加した教科外活動「学会参加」の集録集を準備する。今までの実習の中で、心に残る実習場面や事例を振り返り、エピソードを思い起こしておく。			
科目のねらい	今後の看護活動を発展させるための看護の方法を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践の枠組みとなる看護理論の概念を知る。(第1回) 2. ナイチンゲール看護論を基盤に理論が発展してきたことを理解することができる。(第2回) 3. V.ヘンダーソンの看護理論を通して看護理論の読み方を知る。(第3回) 4. 看護研究に必要な基礎知識を学び、倫理的配慮の重要性を理解することができる。(第4・5回) 5. 自己の看護体験を整理・分析し、理論に関連づけて看護観を記述することができる。(第6・7回) 			
授業概要	基礎看護学で、今までの学びの集大成である。実習での看護活動とおし、対象との人間関係確立をもとに、よりよい看護を模索してきたことを振り返り、自己の看護観を表現する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1～3	I. 看護理論 1. 看護の本質と看護理論 2. ナイチンゲールの看護の考え方 3. V.ヘンダーソンの基本的看護の構成要素	講義・演習 (グループワーク)		
4・5	II. 看護研究 1. 看護研究とは 2. 研究課題(テーマ)の選定 3. 研究における倫理 4. 量的研究の基礎 5. 質的研究の基礎 6. 研究計画書の作成 7. 研究成果のまとめと公表 8. 研究論文を読んでみよう/書いてみよう	講義		
6・7	III. 看護観を書く	講義・演習		
8	まとめ			
評価方法	筆記試験70%(70点) レポート30%(30点)			
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 看護研究 2. 日本看護協会出版会 V.ヘンダーソン 看護の基本となるもの 3. 日本看護協会出版会 看護者の基本的責務 			

参考書	必要時、適時紹介する。
実務経験のある 教員による授業	医師、看護教育の実務経験がある専任教員が担当

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	地域・在宅看護論 地域社会と看護	1年次後期	1単位	15時間
科目責任者	橋本 礼美			
担当教員	橋本 礼美 小鹿 由紀子			
事前学習内容	予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は、視聴する。			
科目のねらい	人々の地域での生活と看護の関係性を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域や生活をとらえる必要性を理解する。(第1回) 2. 生活のとらえ方が理解できる。(第1回) 3. 生活をするために地域社会が重要であるとされる社会的背景を理解する。(第2回) 4. 地域包括ケアシステムが理解できる。(第2・3回) 6. 地域共生とコミュニティの関係性を理解する。(第2・3回) 7. 地域アセスメントの必要性とその方法について理解する。(第4～6回) 8. 地域、生活、健康の関係性について理解できる。(第7・8回) 9. 実践例から、健康づくりにおける集団へのアプローチを学ぶ。(第9回) 			
授業概要	本科目は、人が人々と暮らす家族や集団、社会の一員として暮らすときに所属する地域を理解し、地域社会の基本を理解すると共に人の暮らしと社会との関わりを考える。また、さまざまな状況にある人が日常生活を過ごすための地域包括ケアシステムについて考え、地域における健康へのニーズと健康問題に対する看護について理解する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 地域と生活と健康 1. 地域と生活と健康 2. 健康と暮らし	講義 グループワーク		
2・3	II. 地域における健康 1. 地域社会に対する期待とその社会的背景 2. 地域包括ケアシステムと共生社会 3. 地域社会の変容とコミュニティ	講義		
4～6	III. 地域アセスメント 1. 地域アセスメントとその意義 2. 地域アセスメントの活用 3. 地域アセスメントの方法	講義 グループワーク		
7・8	IV. 地域、生活と健康の関係性 1. 地域での健康づくりと場 ・まちの保健室 (講師：小鹿由紀子)	講義 グループワーク		
9	まとめ			
評価方法	筆記試験 80% (80点) グループワーク 20% (20点)			

テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障① 健康と社会・生活
参考書	必要時、適宜紹介する。
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および、現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア	2年次後期	1単位	30時間
科目責任者	橋本 礼美			
担当教員	橋本 礼美 予定教員			
事前学習内容	予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は、視聴する。社会福祉Ⅰ・Ⅱで学習した制度を理解しておく。			
科目のねらい	地域・在宅看護の対象とその家族および活動の場を理解し、地域・在宅看護の機能と役割を学ぶ。また生活の場で出会う対象と家族に対し、望ましい援助関係を築くための基本を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本の在宅看護の変遷と地域・在宅看護が推進される社会的背景を説明できる。(第1～4回) 地域・在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる。(第1～4回) 地域・在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。(第5～7回) 在宅ケアを支える制度や社会資源を説明できる。(第8～10回) 現在の訪問看護制度の基本を理解できる。(第11・12回) 地域・在宅看護における危機管理の原則と基本を理解できる。(第13・14回) 療養者・家族への災害準備期の支援を理解できる。(第13・14回) 訪問看護の基本を理解できる。(第15回) 地域・在宅看護に関わる問題と社会背景について理解できる。(第16回) 			
授業概要	本科目は、社会動向を理解した上で、地域で生活する療養者や家族・介護者について、また療養生活を支える保健医療福祉制度や社会資源について、関連職種と連携する中での看護の役割について学ぶものである。基礎看護学における基礎的知識・技術を土台とし、すでにある対象の暮らしを踏まえながら、人々の生活を整えるという基本理念を大切に、施設内看護との違いや地域・在宅看護の特性、療養者が支援を受けるための制度や社会の仕組みについて学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1～4	I. 地域看護 <ol style="list-style-type: none"> 地域看護と在宅看護 地域・在宅看護の背景 地域看護の実践 II. 在宅看護 <ol style="list-style-type: none"> 在宅看護の基盤 地域療養を支える在宅看護の役割・機能（急性症状含む） 地域・在宅看護における倫理 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 	講義		
5～7	II. 在宅療養者と家族の支援 <ol style="list-style-type: none"> 地域・在宅看護の対象者 地域・在宅看護の対象者と在宅療養の成立条件 在宅療養の場における家族のとらえ方 在宅療養者の家族への看護 	講義		

8~10	Ⅲ. 地域療養を支える制度 1. 社会資源の活用 2. 医療保険制度 3. 後期高齢者医療制度 4. 介護保険制度 5. 高齢者施策 6. 障害者総合支援法 7. 生活保護制度	講義
11・12	IV. 在宅療養を支える訪問看護（講師：予定教員） 1. 訪問看護の特徴 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3. 訪問看護サービスの展開 4. 訪問看護の記録	講義
13.14	VI. 在宅療養を支える健康危機・災害対策 1. 在宅療養における健康危機・災害対策 2. 地域包括ケアシステムにおける健康危機・災害対策 3. 訪問看護師による健康危機・災害時対応 1) 感染症の防止 ・在宅における感染防止の基本 ・援助の実際 ・感染予防指導 ・感染症発生時の対応 4. 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	講義
15	VII. 訪問看護サービスの実際（講師：予定教員）	講義・演習
16	VIII. 地域・在宅看護の動向と今後の発展	グループワーク
17	まとめ	
評価方法	筆記試験 90%（90点） レポート 10%（10点）	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア 2. メチカルフレンド社 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 3. 国民衛生の動向	
参考書	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 社会支援と社会保障② 公衆衛生 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 社会支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害	
実務経験のある教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および、現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	地域・在宅看護論 在宅療養生活を支える技術	2年次後期	1単位	15時間
科目責任者	橋本 礼美			
担当教員	橋本 礼美 予定教員			
事前学習内容	基礎看護学の各方法論で学習した日常生活行動について、理解をしておく。			
科目のねらい	在宅療養をしている人々への日常生活の援助技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅におけるコミュニケーションの特徴・方法を理解できる。(第1回) 2. 在宅ケアにおけるヘルスアセスメントの必要性とその特徴を理解できる。(第1回) 3. 療養者の身体状況と生活環境の多様性・問題点を理解し、住環境の整備の方法を理解できる。(第2回) 4. 在宅における活動・休息のもつ意味と援助の方法を理解できる。(第2回) 5. 在宅における栄養管理と食生活の援助を理解できる。(第3回) 6. 在宅における排泄に関する問題と、排泄援助を理解できる。(第4回) 7. 在宅療養者の状態や家族の生活に合わせた清潔と衣生活に関する援助が理解できる。(第5回) 8. 家庭にある物品を利用した援助を体験する。(第6・7回) 			
授業概要	本科目は、さまざまな社会背景から在宅で療養する人に対する日常生活を中心とした地域・在宅看護援助の基本について学ぶものである。基礎看護学における基礎的知識・技術を土台とし、施設内看護との違いや地域・在宅看護の特性を考えながら、すでにある療養者とその家族の暮らしを踏まえ、生活を整えるために必要な生活の場で提供する看護を学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 在宅療養生活を支える基本的な技術 1. コミュニケーション 2. ヘルスアセスメント 3. 生活ケアと医療的ケア	講義		
2	II. 住まい・生活環境 1. 住まい・生活環境のとらえ方 2. 在宅療養を支える住まい・生活環境の整備 3. 住まい・生活環境の改善と制度の利用 III. 活動と休息 1. 在宅療養者の活動における看護技術の特徴 2. 活動への援助に関するアセスメント 3. 活動への援助にあたっての留意事項 4. 生活リハビリテーション 5. 在宅療養者の休息における看護技術の特徴	講義		
3	IV. 食事 1. 在宅療養者の食事における看護技術の特徴 2. 在宅療養者への食事支援と介護者への教育指導 3. 嚥下障害がある場合の食事介助のポイント	講義		

4	V. 排泄（講師：予定教員） 1. 在宅療養者の排泄における看護技術の特徴 2. 排泄用具の活用 3. 排泄援助の技術と実際	講義
5	VI. 清潔と衣生活（講師：予定教員） 1. 在宅での清潔と衣生活における看護技術の特徴 2. 在宅療養における清潔行為の考え方と援助方法 3. 在宅療養における衣生活の援助方法	講義
6・7	VII. 在宅における援助の実際（講師：予定教員） 1. 移動技術 2. 摘便 3. 清潔援助 4. 福祉用具	演習
8	まとめ	
評価方法	筆記試験 100%（100点）	
テキスト	1. メチカルフレンド社 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 2. 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
参考書	1. メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア 2. メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術	
実務経験のある教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および、現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	地域・在宅看護論 療養を支える医療ケア	2年次後期	1単位	30時間
科目責任者	橋本 礼美			
担当教員	橋本 礼美 予定教員			
事前学習内容	専門分野において学習した、医療管理について理解しておく。また、地域・在宅看護論で学習した諸制度について理解しておく。			
科目のねらい	医療依存度の高い人々が在宅で療養するための援助を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における医療的ケアの原理原則が理解できる。(第1回) 2. 在宅における医療管理(服薬管理、経腸栄養法、膀胱留置カテーテル、ストーマ、中心静脈栄養法、酸素療法、人工呼吸器療法、気管カニューレ、腹膜透析)の特徴と方法、看護について理解できる。(第2～13回) 3. 褥瘡とそのケアの基礎的知識と在宅での褥瘡ケアの特徴を理解し、在宅における褥瘡の予防とケアの支援を理解できる。(第7回) 			
授業概要	本科目は、さまざまな社会背景から在宅で療養する人に対する日常生活を中心とした在宅看護援助の基本について学ぶものである。基礎看護学における基礎的知識・技術を土台とし、施設内看護との違いや在宅看護の特性を考えながら、すでにある療養者とその家族の暮らしを踏まえ、医療依存度が高い療養者の生活を整えるために必要な生活の場で提供する看護を理解する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 医療ケアの原理原則 <ol style="list-style-type: none"> 1. 意義と目的 2. 観察とアセスメント 3. リスクマネジメント 4. 在宅療養者と家族のセルフマネジメント力の維持・向上のための支援 5. 多職種との連携 6. 資材の調達と管理 7. 社会資源の活用・調整 	講義		
2	II. 薬物療法と服薬管理 <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における薬物療法に伴う援助の特徴 2. 在宅での服薬管理の特徴 3. 薬物療法における薬剤の種類と特徴 4. 在宅における服薬管理への支援 5. 在宅での服薬支援 	講義		
3・4	III. 在宅経腸栄養法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅経腸栄養法の適応 2. 経腸栄養法の種類と特徴 3. 経腸栄養法に関する合併症と対処法 4. 在宅経腸栄養法の導入支援 	講義・演習		
5・6	IV. 膀胱留置カテーテルの管理 <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅での膀胱留置カテーテル管理の特徴 2. 膀胱留置カテーテルに起因する問題の予防と対応 <デモンストレーション> 3. 非侵襲的なカテーテルおよび清潔間欠導尿 	講義		

7	V. 褥瘡の予防とケア 1. 在宅療養における褥瘡ケアの特徴 2. 褥瘡の発生要因と分類 3. 褥瘡予防のリスクアセスメント 4. 褥瘡の予防的ケアと発生後のケア	講義
8・9	VI. 在宅中心静脈栄養法 <デモンストレーション> 1. 中心静脈栄養法の定義と適応 2. 中心静脈栄養法の種類と特徴 3. 中心静脈栄養法に関連する合併症 4. 在宅中心静脈栄養法の支援	講義
10・11	VII. ストーマケア 1. 在宅におけるストーマケアの特徴 2. ストーマの種類と特徴 3. ストーマ用装具の種類と使用方法 4. 在宅におけるストーマケアへの支援	講義・演習
12～15	VIII. 在宅酸素療法 1. 在宅酸素療法における看護技術の特徴 2. 在宅酸素療法の適応 3. 在宅酸素療法を受ける対象の特徴 4. 在宅酸素療法の効果 5. 在宅酸素療法導入支援 6. 在宅酸素療法を受ける療養者への日常生活支援 IX. 在宅人工呼吸療法と気管カニューレ管理 <デモンストレーション> 1. 在宅人工呼吸療法における看護技術の特徴 2. 在宅人工呼吸療法の適応 3. 在宅人工呼吸療法を受ける対象の特徴 4. 在宅人工呼吸療法で用いる人工呼吸器の種類と特徴 5. 在宅における気管カニューレ管理の意義と目的 6. 気管カニューレ管理のアセスメント 7. 気管カニューレ管理における援助の実際 8. 吸引 9. 在宅人工呼吸療法導入支援	講義
16	X. 腹膜透析 1. 在宅における腹膜透析の特徴 2. PDの実施 3. 合併症 4. 在宅での看護のポイント	講義
17	まとめ	
評価方法	筆記試験 100% (100点)	
テキスト	1. メチカルフレンド社 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 2. 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
参考書	メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および、現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	地域・在宅看護論 療養者の状態理解と在宅看護	3年次前期	1単位	15時間
科目責任者	橋本 礼美			
担当教員	橋本 礼美 予定教員			
事前学習内容	既習の地域・在宅看護論科目について、復習し理解しておく。			
科目のねらい	地域で在宅療養する対象に必要な看護を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における生活を支える看護過程の考え方が理解できる。(第1回) 2. 日常生活動作の低下及び疾病の再発の予防が必要な療養者の療養生活を学び、看護について理解できる。(第2回) 3. 精神疾患をもつ療養者への看護師の態度と関係を活用した看護の提供方法を理解できる。(第3回) 4. 認知症療養者の療養生活を学び、看護について理解できる。(第3回) 5. 終末期にある療養者と家族の特徴について学び、在宅における看護を理解できる。(第4回) 6. 難病の療養者の特徴と家族の現状について学び、難病対策を基に在宅での看護について理解できる。(第5回) 7. 在宅で療養する子どもの特徴と長期在宅生活を継続する家族への看護を理解できる。(第6回) 			
授業概要	<p>本科目は、さまざまな社会背景や状況、疾患から在宅で療養する人に対する日常生活を中心とした地域・在宅看護援助について学ぶものである。基礎看護学における基礎的知識・技術を土台とし、各領域で学んできた状況の人々が在宅生活を送るために必要な地域・在宅看護の特性を考えながら、すでにある療養者とその家族の暮らしを踏まえ、生活を整えるために必要な生活の場で提供する看護を理解する。</p>			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 在宅看護過程の考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における看護過程の意義 2. 情報収集の視点 3. アセスメントの枠組み 4. 在宅看護の目標の設定と看護計画 5. 在宅看護の評価 	講義		
2	II. 日常生活動作の低下及び疾病の再発の予防が必要な療養者の地域・在宅看護 (講師：予定教員) <ol style="list-style-type: none"> 1. 年をとることで現れる変化とくらし 2. 予防的に暮らすことを支える 3. 看護者の役割 4. 療養期間の長期化に伴う支援 	講義		

3・4	<p>Ⅲ. 認知症を有する療養者の理解と地域・在宅看護 (講師：予定教員)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の療養者の特徴 2. 認知症を有する療養者への日常生活上の援助 3. コミュニケーション技術 4. 起こりやすい事故の予防と対策 5. 社会資源の活用と地域における看護職の役割 <p>Ⅳ. 精神疾患を有する人の理解と地域・在宅看護 (講師：予定教員)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患を有する人への訪問看護の動向 2. 訪問看護の対象となる主な精神疾患の特徴と治療 3. 精神疾患を有する人・家族が抱える問題 4. 精神疾患を有する人の地域・在宅看護のポイント 5. 社会資源の活用 6. 精神科訪問看護の機能と課題 	講義
5	<p>Ⅴ. 終末期にある療養者の地域・在宅看護 (講師：予定教員)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅での看取りの背景と考え方 2. 看取りのケアに関連する様々な用語 3. 病の軌跡 4. 意思決定支援 5. 在宅での看取りのケアの考え方 6. 在宅での看取りのケアにおいて求められる訪問看護師の技術 7. 在宅での看取りにおける症状緩和 8. 在宅での看取りにおけるトータルペイン及び援助 9. 訪問看護師が実施する「死の準備教育」 10. 終末期の時期別の訪問看護の目的と具体的内容 11. 在宅終末期におけるトライアングルケア 12. エンゼルケア 13. 在宅でのグリーフケア 	講義
6	<p>Ⅵ. 難病を患う療養者の理解と地域・在宅看護 (講師：予定教員)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 難病とは 2. 難病の患者に対する医療等に関する法律 3. 訪問看護の対象となる主な難病 4. 神経難病を患う療養者の特徴 5. 難病を患う療養者の在宅療養支援のポイント 	講義
7	<p>Ⅶ. 在宅療養児と家族の理解と地域・在宅看護 (講師：予定教員)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養児の動向 2. 在宅療養児の主な症状と状態 3. 家族への援助 4. 子どもの在宅療養を支える制度 5. 社会資源・関連機関とのサービス調整 6. 在宅で終末期を迎えている子どもと家族への看護 	講義
8	まとめ	
評価方法	筆記試験 100% (100点)	
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. メヂカルフレンド社 看護実践のための根拠がわかる地域・在宅看護技術 2. メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 	
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本看護協会出版会 在宅看護論Ⅰ 概論編 2. メディカ出版 在宅医療が必要な子どものためのケアテキスト Q&A 	
実務経験のある教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	地域・在宅看護論 療養の場の移行に伴う看護と 多職種連携	3年次前期	1単位	15時間
科目責任者	橋本 礼美			
担当教員	橋本 礼美 予定教員			
事前学習内容	既習の地域・在宅看護論科目について、復習し理解しておく。専門分野各領域で学んだ職種や連携について復習しておく。 認知症サポーター養成講座を受講しておく。			
科目のねらい	在宅療養生活を支援する社会資源と多職種・多機関との連携、看護の役割について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケアマネジメントの定義・概念と看護師が担う必要性を理解できる。(第1・2回) 2. サービス担当者会議、地域ケア会議の目的や要点を理解できる。(第1・2回) 3. 療養の場の再考の必要性とその支援・調整について理解できる。(第3～5回) 4. 多職種連携・地域連携の意味が理解できる。(第3～8回) 5. 地域包括ケアシステムを構成するネットワークとその必要性を理解できる。(第6～8回) 			
授業概要	本科目は、基礎看護学における基礎的知識・技術を土台とし、各領域で学んできた状況の人々が在宅生活を送るために必要な地域・在宅看護の特性を考えながら、すでにある療養者とその家族の暮らしを踏まえ、生活を整えるために必要な看護を理解する。 また、社会資源を活用し、関連職種と連携や協働する中での看護の役割を理解する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護が担うケースマネジメント/ケアマネジメント 2. 介護保険制度におけるケアマネジメント 3. ケースマネジメント/ケアマネジメントの過程 4. 地域包括ケアと地域ケア会議 	講義		
3～5	II. 療養の場の移行に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関における入退院時の連携 2. 医療施設や介護施設との連携 	講義 グループワーク		
6～8	III. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 <ol style="list-style-type: none"> 1. 公的機関との連携 2. 事業所との連携 3. 住民との連携と見守りネットワーク 4. 専門職以外の人々との連携と地域の目 	講義 グループワーク		
9	・認知症サポーター ステップアップ講座	講義		
10	まとめ			
評価方法	筆記試験 100% (100点)			
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. メチカルフレンド社 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 2. メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア 			
参考書	適宜、紹介する。			
実務経験のある教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当			

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	成人看護学 成人期にある人の特徴と看護	1年次後期	1単位	15時間
科目責任者	小林 羽麻			
担当教員	小林 羽麻			
事前学習内容	健康科学（健康の概念・健康の指標）、公衆衛生学（成人の健康づくり・各種統計）、基礎看護学対象の理解・看護の目的 I（健康と病気におけるウェルネスの促進）、領域横断（健康支援論）以上の既習内容を含め、テキストの該当頁、関連書籍を読んで準備する。また、関連動画がある場合は視聴する。 各自で万歩計を準備しておく。学内でも測定するためスマートフォンは適さない。常時装着できるものとする。			
科目のねらい	成人各期の成長発達、身体的・精神的・社会的特徴を理解し、健康の保持・増進のための看護の役割と機能を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会における「成人の定義」を理解できる。（第 1・2 回） 2. 成人各期の成長発達を理解できる。（第 1・2 回） 3. 医学的知識を応用した、部位別、臓器別、系統別、生活行動別の視点で身体機能を理解できる。（第 3 回） 4. 成人教育学の概念を理解し、学習者としての成人の特徴を理解できる。（第 4 回） 5. 成人期の生活習慣と健康障害の関連を理解できる。（第 5 回） 6. ワーク・ライフ・バランスと健康障害の関係が理解できる（第 5 回） 7. それぞれの理論が成人の理解と看護に有効であることを理解できる。（第 6・7 回） 			
授業概要	本科目では、成人期における健康の保持・増進のための看護の役割と機能を理解する。すでに病気を持っている人だけでなく、現在健康だと自覚している成人の保健行動についても理解していく。対象を理解するうえでは、学生自身や身の周りの成人期の人々を想起しながら学び、人生の半分を占める成人期を個別性のある生活者の視点で理解するためにグループワークを活用していく。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 成人であること II. 成長発達の特徴 1. 成人の成長発達 2. 成人の役割	講義・演習 (グループワーク)		
3	III. 身体機能の特徴と看護 1. 医学的知識を応用した身体的機能の理解に基づく看護 2. 身体機能の変化を分析する視点 3. 身体機能の変化に着目した看護	講義		
4	IV. 学習の特徴と看護 1. おとなの学びの特徴 2. 成人教育学の概念 3. おとなの学びの目標 4. 健康状態と学習方法の関係	講義		

5	V. 生活習慣に関連する健康障害 1. 生活習慣に関連する健康課題 2. 生活習慣の是正 VI. ワーク・ライフ・バランスと健康障害 1. ワーク・ライフ・バランスと健康障害の関連 2. 身体活動と健康障害	講義
6・7	VII. 成人への看護に有用な概念 1. 病みの軌跡 2. セルフケア 3. ストレス・コーピング 4. 危機理論 5. 適応理論	講義・演習 (グループワーク)
8	まとめ	講義
評価方法	筆記試験 80% (80点) グループワーク 10% (10点) レポート 10% (10点)	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論	
参考書	講義の中で紹介する	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	成人看護学 健康危機状況にある成人の看護	2年次前期	1単位	30時間
科目責任者	小林 羽麻			
担当教員	小林 羽麻 予定教員			
事前学習内容	解剖生理学Ⅰ（筋骨格）・解剖生理学Ⅱ（消化器、酸塩基平衡）・解剖生理学Ⅲ（循環器、呼吸器）・解剖生理学Ⅳ（脳神経）・病態治療論Ⅱ（消化器、筋骨格）・病態治療論Ⅲ（呼吸器）・病態治療論Ⅳ（脳神経、循環器）とそれらに関する臨床薬理学の既習知識を復習する。基礎看護学では「清潔・衣生活援助技術（寝衣交換）」・「食事・栄養/排泄援助技術（導尿）」・「ヘルスアセスメント」・「安全・感染予防・生命活動を支える看護技術（口腔・鼻腔内吸引）」の既習知識を復習しておくこと。			
科目のねらい	健康危機状況に陥りやすい代表的な症状・疾患を、病態から看護まで理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初療の重要性を理解できる。（第1～3回） 2. モデル人形を用いて、正しい手技で一次救命処置が実施できる。（第2・3回） 3. 一次救命処置と二次救命処置の連携が理解できる。（第2・3回） 4. 緊急入院した成人の心理的葛藤、看護者の葛藤を踏まえ、急性期看護を考えることができる。（第4・5回） 5. 突然の健康障害を負った患者、家族の心理的・精神的変化を理解できる。（第4・5回） 6. 各症状から緊急性の有無を理解できる。（第6～14回） 7. 救急対応が必要な疾患・症状への看護を理解できる。（第6～14回） 8. 輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点が理解できる。（第13回） 9. 静脈ラインのある患者の寝衣交換が習得できる。（第6～8回） 10. モデル人形を用いて気管内吸引が実施できる。（第15回） 11. 輸液ポンプの基本的な操作が実施できる。（第15回） 			
授業概要	成人期にある対象は社会的な役割を担い多忙な生活を送っていることが多い。その中で予期せぬ病気や事故に遭遇することで、生命の危機だけではなく本来の役割を果たせない状況に陥り、精神的ストレスも大きい。急性期看護では、救命だけでなく、対象の社会復帰を目指した関わりが必要となる。そこで本科目では、救命救急に必要な知識・技術や、救急対応が必要な症状や疾患についての看護を学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	Ⅰ. 健康危機状況にある成人の理解と看護 ・ 救命救急処置を必要とする状況 ・ 集中治療を必要とする状況	講義		
2・3	Ⅰ. 健康危機状況にある成人の理解と看護 ・ 救命救急処置を必要とする状況（一次救命処置） Ⅱ. 健康危機状況における看護方法の検討 ・ 身体機能悪化への対応（二次救命処置）	講義・演習		
4	Ⅰ. 健康危機状況にある成人の理解と看護 ・ 健康危機状況における看護者の苦悩と支え合い Ⅱ. 健康危機状況における看護方法の検討 ・ 苦痛の緩和	講義		

5	Ⅱ. 健康危機状況における看護方法の検討 ・生活行動変化への支援 ・心理的・精神的混乱への支援 ・家族または重要他者の不安や負担への対応	(講師：予定教員)	講義
6・7	Ⅲ. 救急対応が必要な症状、疾患、看護 ・脳神経	(講師：予定教員)	講義
8～10	Ⅲ. 救急対応が必要な症状、疾患、看護 ・循環器	(講師：予定教員)	講義
11	Ⅲ. 救急対応が必要な症状、疾患、看護 ・呼吸器		講義
12	Ⅲ. 救急対応が必要な症状、疾患、看護 ・消化器		講義
13	Ⅲ. 救急対応が必要な症状、疾患、看護 ・酸塩基平衡 ・筋骨格		講義
14	Ⅲ. 救急対応が必要な症状、疾患、看護 ・看護技術：気管内吸引、膀胱留置カテーテル（デモンストレーションのみ） ・看護技術：静脈ラインのある患者の寝衣交換		演習
15	Ⅲ. 救急対応が必要な症状、疾患、看護 ・看護技術：シリンジポンプ（デモンストレーションのみ） ・看護技術：気管内吸引/開放式、輸液ポンプ		演習
16	まとめ		
評価方法	筆記試験 100%		
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護① 呼吸器 4. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護② 循環器 5. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護③ 消化器 6. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護⑤ 脳・神経 7. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護⑦ 運動器 8. ナツメ社 これならわかる！ 救急・急変 看護の基本 9. 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術		
参考書	講義の中で紹介する。		
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当		

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	成人看護学 慢性疾患をもつ成人を支える看護	2年次前期	1単位	30時間
科目責任者	小林 羽麻			
担当教員	予定教員			
事前学習内容	教育学、心理学、人間関係論、人間関係技術、解剖生理学Ⅱ（肝臓の構造と機能・腎臓）、解剖生理学Ⅲ（呼吸器の構造・呼吸）、解剖生理学Ⅳ（内分泌系）、生化学（代謝）、病態治療論Ⅰ（呼吸に関するリハビリテーション）、病態治療論Ⅱ（肝炎・肝硬変）、病態治療論Ⅲ（慢性閉塞性肺疾患・腎不全と慢性腎臓病）、病態治療論Ⅴ（糖尿病）、薬理学（内分泌障害・腎機能障害・代謝機能障害）、基礎看護学方法論（清潔・衣生活）、成人看護学 成人期の生活を支える看護、以上の既習内容を含め、テキストの該当頁、関連書籍を読んで準備する。また、関連動画がある場合は視聴する。疾患の看護を学ぶ上で必要な解剖生理学・病態治療論等の既習知識は予め復習して講義を受ける。			
科目のねらい	慢性病を持つ対象が生活者として病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけてセルフマネジメントするために必要な看護を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期の特徴と看護を生活者の視点で理解できる（第1～14回） 2. セルフマネジメント支援が理解できる（第1回） 3. 慢性病をもつ患者を理解し、関わりの方角性が理解できる。（第1回） 4. 成人教育のモデルを理解し、成人教育に携わる者の役割が理解できる。（第2回） 5. セルフマネジメントを推進していく過程、看護者の役割が理解できる。（第2回） 6. リハビリテーションにおけるチームアプローチと看護の役割を理解できる（第3回） 7. 障害受容に関わる看護の必要性が理解できる（第3回） 8. 糖尿病患者の看護が理解できる（第4～10回） 9. 簡易血糖測定方法が理解できる（第4回） 10. 糖尿病患者に対する指導案の作成ができる。（第7～10回） 11. 慢性腎臓病患者の看護が理解できる（第11～14回） 12. 肝硬変患者の看護が理解できる（第11～14回） 13. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護が理解できる（第11～14回） 14. 慢性心不全患者の看護が理解できる（第11～14回） 15. 学生間で体位ドレナージを実施できる。（第15回） 16. 学生間で廃用症候群予防のための自動運動が実施できる。（第15回） 			
授業概要	本科目では慢性疾患を抱えた対象が自立した存在としてセルフマネジメントしていくための支援方法を学び、患者自身が身につけなければならないマネジメントを理解する。生涯にわたり治療を継続することの難しさを糖尿病看護認定看護師の講義を受けることにより、看護の実際を通して学びを深めていく。また、リハビリテーション技術は、理学療法士の講義を受けることにより根拠に基づいた技術を学んでいく。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 慢性病をもつ患者と看護の特徴 ・ 病みの軌跡 II. セルフマネジメントとは III. セルフマネジメントのための対象理解 ・ コンプライアンスとアドヒアランス、コンコーダンス	講義		

2	IV. 成人教育学 ・ 段階的行動変容モデル ・ エンパワメントモデル ・ 自己効力理論 V. セルフマネジメントを推進する看護方法	講義
3	VI. リハビリテーションにおけるチームアプローチと看護の役割 1. リハビリテーション関連職種によるチームアプローチ 2. 多職種によるチームアプローチモデル 3. チームアプローチのための情報共有 4. チームにおける看護師の役割 VII. 自己概念と障害受容	講義
4～10	VIII. 慢性病の看護の実際 1. 糖尿病 (講師：予定教員) ・ 簡易血糖測定 ・ 集団指導の指導案作成	講義・演習
11～14	2. 慢性腎臓病 3. 肝硬変 4. 慢性閉塞性肺疾患 5. 慢性心不全 (講師：予定教員)	講義
15	IX. 慢性病の対象に必要な看護技術 1. 体位ドレナージ 2. 自動運動	講義・演習
16	まとめ	
評価方法	筆記試験 80% (80点) 糖尿病の指導案 20% (20点)	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 4. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障①健康と社会・生活 5. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 6. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護⑧ 腎／泌尿器／内分泌・代謝 7. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護③ 消化器 8. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護① 呼吸器 9. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護② 循環器 10. 中央法規 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 11. 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 12. メディックメディア 看護が見える vol. 4 看護過程の展開	
参考書	講義の中で紹介する	
実務経験のある教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および、現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	成人看護学 検査・治療を受ける成人の看護	2年次後期	1単位	15時間
科目責任者	小林 羽麻			
担当教員	予定教員			
事前学習内容	心理学、人間関係論、人間関係技術、解剖生理学Ⅱ（消化・吸収、排泄）、解剖生理学Ⅲ（呼吸）、病態治療論Ⅱ（消化器疾患）、病態治療論Ⅲ（呼吸器疾患）、病理学（腫瘍と過形成）、臨床薬理学（がん・痛みに使用する薬）、基礎看護学対象の理解・看護の目的Ⅱ（看護と人間尊重）、成人期にある人の特徴と看護、領域横断（周術期看護、終末期看護）以上の既習内容を含め、テキストの該当頁、関連書籍を読んで準備する。また、関連動画がある場合は視聴する。疾患の看護を学ぶ上で必要な解剖生理学・病態治療論等の既習知識は予め復習して講義を受ける。			
科目のねらい	手術・治療・検査による身体への侵襲とその影響を知り、予測的な視点で看護を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の対象が手術を受けることによる影響と看護の必要性を考えることができる。 (第1～3回) 2. 胃切除術を受ける対象の看護を理解できる。(第1・2回) 3. 大腸切除術を受ける対象の看護を理解できる。(第3回) 4. 肺切除術を受ける対象の看護を理解できる。(第3回) 5. 成人期の対象ががん治療を受けることによる影響と看護の必要性を考えることができる。 (第4～6回) 6. 化学療法に伴う苦痛の緩和方法が理解できる(第4・5回) 7. 放射線療法に伴う苦痛の緩和方法が理解できる。(第6回) 8. 検査・処置における看護師の役割が理解できる。(第7回) 			
授業概要	本科目では、周術期における看護支援およびがん治療に伴う看護支援を学んでいく。領域横断の「周術期看護」「終末期看護」での学びと関連させながら、成人期の特徴を踏まえて理解していく。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1～3	I. 周術期における看護支援 1. 胃切除術を受ける対象の看護	講義・演習 (グループワーク)		
4	2. 大腸切除術を受ける対象の看護 3. 肺切除術を受ける対象の看護	講義		
5	II. がん治療における看護支援 1. がん治療の種類 2. がん患者の治療と看護 1) 化学療法 (講師：予定教員) ・ 悪性リンパ腫	講義		
6	2) 放射線療法 (講師：予定教員) ・ 肺がん	講義		

7	Ⅲ. 検査・処置における看護支援 1. 上部消化管内視鏡検査 2. 下部消化管内視鏡検査 3. 胸腔・腹腔穿刺 4. 肺生検（気管支鏡含む）	講義・演習 (グループワーク)
8	まとめ	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護③ 消化器 4. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ E X 疾患と看護① 呼吸器 5. 中央法規 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図	
参考書	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 臨床薬理学 2. 医学書院 別巻 臨床放射線医学 3. 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および、現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	老年看護学 高齢者の理解と看護の基本	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	勝野 さおり			
担当教員	勝野 さおり 内海 かおる			
事前学習内容	<p>高齢者の日常生活や高齢者に関するニュースに目を向け、高齢者に興味関心を持つとともにわが国の現状の概要を知る。</p> <p>解剖生理学Ⅰ～Ⅳ（各器官の働き）、基礎看護学対象の理解・看護の目的Ⅰ（諸理論、倫理）について復習しておく。</p> <p>各講義前には動画を含めてテキストを熟読し、学習内容をイメージして参加する。</p>			
科目のねらい	<p>老年期の発達課題、身体的・精神的・社会的特徴を学ぶ。</p> <p>わが国における高齢者保健・福祉施策の現状と看護の果たす役割を学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関する統計的特徴をこれまでの変遷と将来予測まで理解できる。（第1～2回） 2. 高齢者のQOLの要因やQOLを向上させる関わりについて理解できる。（第3回） 3. 高齢者に関する身体・精神・社会的な特徴について概要を理解できる。（第4～7回） 4. 加齢に伴う身体的変化が高齢者の生活に与える影響について理解できる。（第4～7回） 5. 要介護高齢者とその家族の生活について理解できる。（第8回） 6. 高齢者への社会支援について理解できる。（第9回） 7. 高齢者看護の倫理と自己決定の支援について理解できる。（第10回） 8. 高齢者や家族のもつ能力や強みから、それを支える看護を考えることができる。（第11回） 9. 高齢者の心身のアセスメント方法と特徴を理解できる。（第12回） 10. 高齢者のアセスメントのポイントを理解できる。（第12回） 11. 老化と加齢による変化に伴う疾患について理解できる。（第13回） 12. 高齢者特有のリスクとリスクマネジメントについて理解できる。（第14回） 			
授業概要	<p>核家族化などの影響により、現代の学生は高齢者に関わる機会が減少している。しかし保健・医療・福祉の対象者の多くは高齢者であるため、高齢者に対する正しい理解が必要である。</p> <p>高齢者といえば古いなどの否定的なイメージが先行しがちであるが、経験により培われるものも多いことを知ることで肯定的イメージへと変化する。老年看護において看護者の老年観は対象への関わり方に影響を及ぼし、高齢者自身の老年観は高齢者自身のQOLに大きく関与する。よって、老年看護学を学ぶ上では、自身の老年観とともに老年看護観を言語化し、他者とも意見交換することで、自身の考え深め、高齢者を人生の先輩として尊厳を持った関わりができるようにしていく。急速に超高齢社会となったわが国の歴史や今後の展望についても興味/関心をもち、高齢者を支える社会資源についての知識を含め老年看護学を学ぶ基盤を養う。</p>			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 高齢者の理解 1. 高齢者とは 2. 高齢者の特徴と理解	講義		
2	3. 高齢者にとっての健康	講義		
3	4. 高齢者とQOL	講義		
4～6	5. 加齢に伴う変化	演習		

7	6. 高齢者疑似体験 (講師：豊田市社会福祉協議会 職員)	演習
8	Ⅱ. 高齢者を取り巻く社会 1. 高齢者の生活と家族 (講師：内海かおる)	講義
9	2. 高齢者を支える社会資源 (地域包括ケア病棟・回復期リハビリ病棟含む) (講師：内海かおる)	講義
10	3. 高齢者看護における倫理 (講師：内海かおる)	講義
11	Ⅲ. 高齢者看護の基本 1. 高齢者看護の特性 2. 高齢者看護に関わる諸理論	講義
12	3. 高齢者に対するフィジカルアセスメント (講師：内海かおる)	講義
13	4. 高齢者に起こりやすい疾患	講義
14	5. 高齢者のリスクマネジメント (講師：内海かおる)	講義
15	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害	
参考書	1. 京都科学 目で見ると見る 老年看護学 高齢者の生理機能Ⅰ 感覚・運動・神経系 <DVD> 2. 京都科学 目で見ると見る 老年看護学 高齢者の生理機能Ⅱ 消化・腎・排泄系 <DVD> 3. 京都科学 目で見ると見る 老年看護学 高齢者の生理機能Ⅲ 循環・呼吸器系 <DVD>	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および、現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	老年看護学 高齢者の生活を支える看護	2年次前期	1単位	30時間
科目責任者	勝野 さおり			
担当教員	勝野 さおり 予定教員			
事前学習内容	基礎看護学（人間関係技術、療養環境調整技術、活動・休息援助技術、清潔・衣生活援助技術、食事・栄養/排泄援助技術）の講義を復習しておく。 各講義前には動画を含めてテキストを熟読し、学習内容をイメージして参加する。 病態治療論Ⅱ（筋骨格疾患）Ⅳ（脳神経疾患）で学習した骨折・脳卒中・パーキンソン病の基本的知識を復習しておく。			
科目のねらい	高齢者の生活を支えるために必要な看護技術を学ぶ。 健康障害をもつ高齢者の看護を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴（コミュニケーション、食生活、排泄、清潔・衣生活、活動と休息、歩行・移動）を理解し、アセスメントと支援方法を理解できる。（第1～10回） 2. 高齢者の摂食嚥下障害による生活への影響とアセスメント、支援方法を理解できる。（第2・3回） 3. 尿失禁や便秘、下痢、便失禁がある高齢者のアセスメントと支援方法を理解できる。（第4回） 4. 高齢者の特徴を踏まえた口腔ケア、義歯の取り扱い方法を理解できる。（第5・6回） 5. 高齢者の皮膚の特徴と痒痒の関係についてアセスメントと支援方法を理解できる。（第5・6回） 6. 高齢者の感染予防とリスクアセスメント、感染症の看護について理解できる。（第5・6回） 7. 高齢者の視覚障害・聴覚障害による生活への影響とアセスメント、支援方法について理解できる。（第7・8回） 8. 高齢者の特徴を踏まえた車椅子移乗の方法を理解できる。（第9～12回） 9. 骨粗鬆症の要因と高齢者に多い骨折について理解できる。（第9・10回） 10. 廃用症候群の要因と症状、アセスメント、予防の看護を理解できる。（第9・10回） 11. 脳卒中を発症した高齢者の看護とアセスメント、セルフケア向上に向けた支援方法を理解できる。（第11・12回） 12. パーキンソン病の病態と症状、アセスメント、支援方法について理解できる。（第13・14回） 13. 高齢者の生活場所と安全を考えた環境づくりについて理解できる。（第15回） 14. 社会的役割の変化による生活への影響について理解できる。（第15回） 			
授業概要	本科目は、加齢に伴う変化を踏まえ、高齢者の特徴を理解するとともに生活への影響について考え、セルフケア支援や看護介入の方法について学ぶ。1年次の基礎看護学で学習した知識を基盤に、高齢者の援助における留意点が理解できるようにする。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. コミュニケーション	講義		
2・3	II. 食生活 <摂食・嚥下間接訓練法> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事 2. 脱水 3. 摂食嚥下障害 4. 低栄養 	講義 (講師：予定教員)		

4	Ⅲ. 排泄 1. 排泄 2. 尿失禁 3. 排便障害（便秘・下痢・便失禁）	講義
5・6	Ⅳ. 清潔・衣生活 <スポンジブラシを使用した口腔ケア、義歯の取り扱い> 1. 清潔・衣生活 2. 癢痒 3. 感染症	演習
7・8	Ⅴ. 活動と休息 <点眼法> 1. 活動と休息 2. 視覚・聴覚の障害 3. 睡眠障害	演習
9・10	Ⅵ. 歩行・移送 <全介助での車椅子移乗・他動運動> 1. 歩行・移動 2. 骨粗鬆症 3. 骨折 4. 廃用症候群	講義
11・12	Ⅶ. 呼吸・循環機能障害<片麻痺患者の車椅子移乗・三角巾固定> ・脳卒中 (講師：予定教員)	講義
13・14	Ⅷ. その他高齢者に特徴的な疾患・症状 ・パーキンソン病	講義
15	Ⅸ. セクシュアリティ Ⅹ. 住まい Ⅺ. 社会参加	講義
16	まとめ	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 3. 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
参考書	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅰ 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 3. メディックメディア 看護が見える vol. 4 看護過程の展開	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および、現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	小児看護学 小児の発達と看護	2年次前期	1単位	15時間
科目責任者	江見 たか江			
担当教員	江見 たか江			
事前学習内容	解剖生理学（小児期の特徴）、心理学（発達）の理解しておく。			
科目のねらい	子どもの権利を理解し、子どもの最善の利益を目指した看護を学ぶ。 成長発達の原則、小児各期の特徴を理解し、その成長・発達を支援する看護を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象と看護の目標・役割について理解できる。（第1回） 2. 歴史の変遷から、「子どもの最善の利益を守る」意味を考えることができる。（第2回） 3. 小児看護を考える上で必要な理論を理解できる。（第3回） 4. 成長・発達の原則、影響を及ぼす要因を理解できる。（第4回） 5. 発育を評価する方法が理解できる。（第4回） 6. 乳児期の成長・発達過程を理解できる。（第5回） 7. 乳児期のセルフケアの発達を促す看護を理解できる。（第5回） 8. 幼児期の成長・発達の特徴と発達課題、遊びの意義を理解できる。（第6回） 9. 幼児期の食事・排泄・睡眠・清潔行動の確立に向けた援助を理解できる。（第6回） 10. 学童期、思春期の成長・発達過程を理解できる。（第7回） 			
授業概要	小児看護の歴史を踏まえ、子どもの権利条約の意義とその特徴について学ぶ。また、「子どもの最善の利益」を目指し、日常的な援助の中で子どもの権利を擁護する看護について考える。理論について学ぶ中では、小児看護の実践における活用方法に繋げて考える。成長・発達の原則に基づき、各期の身体的成長・機能的発達・心理社会的発達についての理解を深め、常に成長・発達を支援する視点で看護を考える必要性について学ぶ。そして、小児看護の対象である子どもを育む家族を支援する重要性についても学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 小児看護学で用いられる概念と理論 1. 小児看護とは 2. 小児看護の歴史と意義	講義		
2	3. 子どもの権利と看護	講義		
3	4. 小児看護で用いられる理論	講義		
4	II. 子どもの成長・発達と看護 1. 成長・発達の原則と影響要因 2. 発育の評価	講義		
5	3. 乳児期の子どもの成長・発達と看護 1) 形態的成長・発達の特徴 2) 機能的発達の特徴 3) 心理・社会的発達 4) セルフケアの発達と看護	講義		

6	<p>4. 幼児期の子どもの成長・発達と看護</p> <p>1) 形態的成長・発達の特徴</p> <p>2) 機能的発達の特徴</p> <p>3) 心理・社会的発達</p> <p>4) セルフケアの発達と看護</p>	講義
7	<p>5. 学童期の子どもの成長・発達と看護</p> <p>1) 特性と発達課題</p> <p>2) 身体的成長</p> <p>3) 機能的発達</p> <p>4) セルフケアの発達と看護</p> <p>6. 思春期の人々の成長・発達と看護</p> <p>1) 特性と発達課題</p> <p>2) 身体的成長、第二性徴</p> <p>3) 機能的発達</p> <p>4) セルフケアの発達と看護</p>	講義
8	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	<p>1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護</p> <p>2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術</p>	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	小児看護学 小児の健康障害と看護	2年次後期	1単位	30時間
科目責任者	江見 たか江			
担当教員	江見 たか江			
事前学習内容	病態治療論VI（小児疾患）の理解をしておく。			
科目のねらい	健康障害に応じた子どもと家族への看護を実践するための知識・技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの疾病・障害の理解について発達的特徴と関連させて理解できる。（第1・2回） 2. 子どもが治療等に主体的に取り組めるためのプレパレーションの重要性を理解できる。 (第1・2回) 3. 健康障害が子どもに与える影響、子どもの健康障害が家族に与える影響を理解できる。 (第1・2回) 4. 急性期にある子どもとその家族の心理を理解し、急性の症状を示す子どものアセスメントの視点と必要な援助を理解できる。（第3～6回） 5. 慢性期にある子どもと家族のエンパワメントを支援する上で必要な援助を理解できる。 (第7・8回) 6. 小児外来の特徴、看護師の役割を理解できる。（第9回） 7. 小児在宅ケアの現状、在宅療養を行う子どもと家族への援助を理解できる。（第10回） 8. 虐待を受けている、またその可能性のある子どもと家族への支援を理解できる。 (第11・12回) 9. 先天的な健康問題をもつ子どもと家族の特徴を理解できる。（第13回） 10. 心身障害のある子どもと家族の特徴を理解できる。（第14回） 11. 子どもの痛みの理解と表現を踏まえ、必要な援助を理解できる。（第15回） 			
授業概要	<p>発達に伴い子どもの病気の理解が変化することを踏まえ、健康障害による影響を本人だけではなく家族についても考えられるように子どもと家族の体験についてイメージし、その影響を最小限とするために必要な看護について学ぶ。また、健康障害や生活背景に応じた入院、外来、在宅それぞれの看護の場での援助についても学ぶ。虐待については、現状と関係する法律についても学習し、その影響について考え、支援の必要な子どもと家族を見極めることの重要性について学ぶ。</p>			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 健康障害や入院が子どもときょうだい・家族に及ぼす影響と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの病気の理解 2. 子どものプレパレーション 3. 健康障害に伴う子どものストレスと対処と支援 4. 子どもの健康障害に伴う家族のストレスと対処に対する援助 	講義		
3～6	II. 急性期にある子どもと家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性症状のある子どものアセスメントと看護（発熱、脱水、けいれん、呼吸困難、嘔吐・下痢） 2. 急性期にある子どもの家族への援助 3. 急性疾患をもつ子どもと家族の看護 	講義		

7・8	Ⅲ. 慢性期にある子どもと家族への看護 1. 慢性期の特徴 2. 慢性期にある子どもと家族 3. 慢性期にある子どもと家族のエンパワメントを支援する看護 4. 今後の課題 5. 成人への移行期にある健康障害のある子どもと家族への看護 6. 慢性疾患をもつ子どもと家族の看護	講義
9	Ⅳ. 外来における子どもと家族への看護 1. 外来看護の果たす役割 2. 小児外来の環境調整 3. 外来における子どもと家族への援助	講義
10	Ⅴ. 在宅における子どもと家族への看護 1. 小児在宅療養の意義 2. 小児在宅ケアの現状 3. 在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴 4. 在宅療養を行う子どもと家族への看護 5. 在宅療養の継続における看護	講義
11・12	Ⅵ. 被虐待児（虐待を受けている可能性のある子ども）と家族への看護 1. 虐待の定義 2. 虐待が子どもに与える影響 3. 虐待のサイン 4. 被虐待児および家族への看護	講義
13	Ⅶ. 先天的な健康問題をもつ子どもと家族への看護 1. 先天的な健康問題を持つ子どもと家族の特徴 2. 先天的な健康問題を持つ子どものセルフケア 3. ダウン症候群の子どもと家族の看護	講義
14	Ⅷ. 心身障害のある子どもと家族への看護 1. 障害のとらえ方と障害のある子どもとその動向 2. 心身障害のある子どもと家族の特徴 3. 心身障害のある子どもの看護の視点 4. 脳性麻痺のある子どもと家族の支援 5. 発達障害のある子どもと家族の支援	講義
15	Ⅸ. 痛みのある子どもと家族への看護 1. 子どもの痛みの特性 2. 子どもの痛みの理解と表現 3. 痛みのアセスメント 4. 痛みを緩和する技術 5. 家族への支援	講義
16	まとめ	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	小児看護学 小児の看護技術	2年次後期	1単位	30時間
科目責任者	江見 たか江			
担当教員	江見 たか江 予定教員			
事前学習内容	学習内容にある技術について、既習内容の復習をしておく。小児の発達と看護（子どもの成長・発達と看護）の理解をしておく。			
科目のねらい	成長・発達段階に応じた日常生活行動の獲得、治療、検査、処置に取り組む子どもと家族への看護を実践するための知識・技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達に応じた理解度に対する説明の工夫とその必要性を理解できる。（第1・2回） 2. 子どもの検査・処置における看護師の役割を理解し、適切な援助方法を理解できる。（第1・2回） 3. 子ども・家族との援助関係を形成する技術を理解できる。（第1・2回） 4. 子どもの入院生活に望ましい、事故防止・感染予防を含めた環境を理解できる。（第3・4回） 5. 子どもの成長・発達段階に応じた食事の援助方法と経管栄養法を理解できる。（第5回） 6. 子どもの成長・発達段階に応じた排泄の援助方法を理解できる。（第6回） 7. 子どもの成長・発達段階に応じた清潔・衣服の交換の援助方法を理解できる。（第7回） 8. 子どもへの酸素療法、吸引、吸入、体温の調節について目的・方法を理解できる。（第8回） 9. 子どもの薬物動態の特徴、発達段階に応じた安全な与薬の方法を理解できる。（第9回） 10. 子どもの身体の構造的・生理的特徴を考慮した救急蘇生法を理解できる。（第10・11回） 11. 発生頻度の高い事故に対する応急処置についての知識と技術を理解できる。（第10・11回） 12. 各発達段階に応じたバイタルサイン測定、身体計測の手技と注意事項を理解できる。（第12・13回） 13. 子どもの採血、尿採取、腰椎穿刺、骨髄穿刺についての知識と、検査を受ける子どもへの援助方法を理解できる。（第12・13回） 14. 検査・処置時、行動制限のある子どもへの遊びの活用の目的を理解できる。（第14回） 			
授業概要	既習の子どもの成長・発達の特徴を踏まえ、各期に合わせた日常生活援助の方法を学ぶ。また、既習の子どもの権利擁護に対する考えに基づき、治療、検査、処置を受ける子どもと家族に対し、安全・安楽に受けられる援助の方法を考える。子どもが主体となり取り組むことができること、家族と共に取り組むことにも重点を置き、実習での看護に繋がられるように学習する。			
授業展開				
回	学習内容			方法
1・2	I. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 1. 子どもへの説明と同意 2. 子どもの安全・安楽の援助 3. 子どもの力を引き出す援助 4. 検査や処置を受ける子どもと家族への援助 II. 援助関係を形成する技術			講義
3・4	III. 安心・安全な環境を調整する技術 1. 子どもの視点に立った病院の物理的環境づくり 2. 発達段階に応じた環境づくり			講義

	<ul style="list-style-type: none"> 3. 睡眠と休息に適した環境づくり 4. 事故を防止する環境づくり 5. 感染予防のための環境づくり 	
5	IV. 食事の援助技術 <ul style="list-style-type: none"> 1. 調乳 2. 授乳 3. 乳幼児の食事の援助技術（離乳食） 4. 経管栄養法 	講義
6・7	V. 排泄の援助技術 <ul style="list-style-type: none"> 1. おむつ交換 2. 排泄行動自立への援助 3. 浣腸 VI. 清潔・衣生活の援助技術 <ul style="list-style-type: none"> 1. 清拭 2. 衣服の交換 3. 臀部浴 	講義
8	VII. 呼吸・循環を整える技術 <ul style="list-style-type: none"> 1. 酸素療法 2. 吸引 3. 吸入 4. 体温の調節 	講義
9	VIII. 与薬の技術 <ul style="list-style-type: none"> 1. 経口薬 2. 坐薬 3. 注射（皮下注射・筋肉注射） 4. 輸液管理 	講義
10・11	IX. 救急救命の技術 （講師：予定教員） <ul style="list-style-type: none"> 1. 子どもにおける救急救命看護 2. 救急蘇生法の実際 3. その他の応急処置 	講義
12・13	X. 症状・生体機能の管理技術 <ul style="list-style-type: none"> 1. バイタルサイン測定 2. 検体の採取（採血、尿採取） 3. 検査（腰椎穿刺、骨髄穿刺） 4. 身体計測（体重、身長、頭囲、胸囲、腹囲） 	講義
14	XI. 安全・安楽を確保する技術 <ul style="list-style-type: none"> 1. 処置やケアへの遊びの活用 2. 安全・安楽を考慮した行動制限 	講義
15	まとめ	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	母性看護学 リプロダクティブヘルスと看護	2年次前期	1単位	15時間
科目責任者	木村 雅子			
担当教員	木村 雅子 予定教員			
事前学習内容	解剖生理学Ⅱ（生殖）、微生物学（性感染症）、健康科学（健康の指標）、病態治療論Ⅱ（女性生殖器疾患）、公衆衛生学についてそれぞれ理解しておく。テキストの関連動画を視聴しておく。			
科目のねらい	母性看護の基盤となる概念と母性の特徴を学ぶ。 リプロダクティブヘルス/ライツの概念を理解し、母性看護の役割と機能について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の基盤となる概念を理解し、母親となる過程に関する主な学説を理解できる。（第1回） リプロダクティブヘルス/ライツ、セクシュアリティの概念について理解できる。（第2回） 母子保健に関する指標と動向を理解できる。（第3回） 月経周期とホルモン調節の関わり、妊娠のメカニズムについて理解できる。（第4回） 看護における倫理原則を学び、生殖に関わる倫理的課題について理解できる。（第5回） 不妊という健康問題の特徴について学習し、不妊カップルへの支援について理解できる。（第6回） 女性・子どもへの暴力・虐待の現状および支援について理解できる。（第7回） 			
授業概要	本科目はリプロダクティブヘルス/ライツの概念を中心とした、母性看護学の基盤について学ぶものである。母性看護の基盤となる概念を踏まえ、セクシュアリティ、母性看護に関する統計、生命倫理、生殖に関する生理について理解を深める。近年、問題となっている不妊症や女性・子どもへの暴力・虐待の現状および支援についても理解を深める。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	Ⅰ. 母性看護の基盤となる概念 1. 母性看護の中心概念 2. 母性看護実践を支える概念	講義		
2	Ⅱ. セクシャル・リプロダクティブヘルスに関する概念 1. 母性看護の変遷 2. セクシャル・リプロダクティブヘルス/ライツ 3. セクシュアリティとジェンダー 4. 包括セクシュアリティ教育	講義		
3	Ⅲ. セクシャル・リプロダクティブヘルスに関する動向 1. わが国の人口動態統計 2. 出生に関する統計 3. 新生児・乳児・周産期死亡に関する統計 4. 妊産婦死亡に関する統計 5. 死産、流産、人工妊娠中絶に関する統計 6. 家族形成に関する統計	講義		

4	IV. 生殖に関する生理 1. 性周期とホルモン 2. 妊娠のメカニズム 3. 性欲、性反応	(講師：予定教員)	講義
5	V. リプロダクティブヘルスに関する倫理 1. 母性看護実践における倫理的・法的・社会的課題 2. 生殖に関わる倫理的課題	(講師：予定教員)	講義
6	VI. 不妊治療を受けているカップルへの支援	(講師：予定教員)	講義
7	VII. 虐待・性暴力を受けた子どもと女性の理解と看護		講義
8	まとめ		
評価方法	筆記試験100% (100点)		
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護		
参考書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践		
実務経験のある 教員による授業	助産師の実務経験がある専任教員および現役の助産師が実務経験を活かし授業を行う		

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	母性看護学 妊婦・産婦を支える看護	2年次前期	1単位	30時間
科目責任者	木村 雅子			
担当教員	木村 雅子 予定教員			
事前学習内容	解剖生理学Ⅱ（生殖）、病態治療論Ⅱ（女性生殖器疾患）、関係法規Ⅱ（母性に関する法律）についてそれぞれ理解しておく。 母性看護学「リプロダクティブヘルスと看護」の内容を理解しておく。 テキストの関連動画を視聴しておく。			
科目のねらい	妊婦及び産婦における生理的変化とその特性を理解し、母子・夫・家族に対して必要な看護を学ぶ。 妊娠・分娩期に必要な援助技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の成立と維持、妊娠経過と母体の変化や胎児の発育を関連して理解できる。（第1回） 2. 妊娠中に起こる不快症状とその看護について理解できる。（第2回） 3. 母子の正常な経過を学び、妊娠により変化する生活環境を踏まえて、妊娠期の看護の必要性を理解できる。（第3、4回） 4. 妊娠に伴う心理的・社会的の変化を妊娠経過と関連して理解できる。（第5回） 5. 健康を逸脱した妊婦に必要な看護と保健指導を理解できる。（第6～8回） 6. 分娩の定義、生理、経過について理解できる。（第9回） 7. 分娩各期の看護の実際について理解できる。（第10・11回） 8. 産婦のニーズ、家族の健康状態、心理・社会的変化について理解できる。（第12回） 9. 健康を逸脱した産婦に必要な看護を理解できる。（第13・14回） 10. 妊娠経過・分娩経過を観察する技術、出生直後の新生児の援助に必要な技術を理解できる。（第15回） 			
授業概要	本科目は母性看護の基盤となる概念を基に、妊娠期・分娩期の看護について学ぶ。妊娠期の看護では、妊娠の生理を踏まえて妊娠各期の看護について講義で学ぶ。また、分娩期の看護では臨床の事例を交えての講義により、臨床判断能力について理解を深める。妊娠期や分娩期に必要な看護技術について演習を通して技術を習得していく。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 妊婦の生理 1. 妊娠に関連する定義 2. 妊娠の成立 3. 胎児の成長 4. 妊娠の生理（妊娠に伴う母体の変化）	講義		
2	5. 妊娠期の生理的変化に伴う不快症状（マイナートラブル）	講義		
3・4	II. 妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント 1. 妊婦の健康診査における看護 2. 妊娠の変化に対応するためのセルフマネジメント 3. 妊婦の身体活動へのアプローチ 4. 不快症状を緩和するアプローチ 5. 妊婦の健康維持のための栄養管理とセルフケア	講義		

	6. 妊婦の社会活動とセルフケア 7. 妊娠・分娩を支援する法律・施策	
5	Ⅲ. 出産と育児の準備のための看護 1. 妊婦の心理・社会的変化と看護 2. 出産を控えた家族の心理・社会的変化と看護	講義
6～8	V. 妊娠期の異常 (講師：予定教員) 1. 妊娠期の異常と看護のポイント 2. 異所性妊娠 3. 妊娠維持期間の異常 4. 妊娠に伴う異常 5. 多胎 6. 合併症を有する妊娠 7. 妊娠期の感染症 8. 羊水量の異常 9. 胎児機能不全	講義
9	VI. 分娩の生理 (講師：予定教員) 1. 分娩に関する定義 2. 分娩の三要素 3. 分娩の経過	講義
10・11	VII. 産婦と胎児のアセスメント (講師：予定教員) 1. 分娩の進行と産婦の看護 (分娩第1期～4期) 2. 産婦と家族の心理 3. 胎児に及ぼす影響 4. 連続的胎児心拍数モニタリング 5. 新生児の計測	講義
12	VIII. 産婦のニーズと看護 (講師：予定教員) 1. 産婦の基本的ニーズへの看護 2. 産痛の緩和と分娩進行に対応した看護 3. 産婦と家族の心理 4. 安全を保障する管理 5. 出産体験の想起と自己評価	講義
13・14	IX. 分娩期の異常 (講師：予定教員) 1. 産道の異常 2. 娩出力の異常 3. 娩出物 (胎児) の異常 4. 産科処置	講義
15	X. 妊娠経過の観察技術・分娩経過の観察技術・新生児の観察技術 1. 子宮底・腹囲測定、レオポルド触診法 2. 妊婦の姿勢 3. 産痛緩和・補助動作 4. 乳房の観察 5. 胎盤の観察 6. 出生直後の新生児の観察技術	演習
16	まとめ	

評価方法	筆記試験100%（100点）
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術
参考書	必要時、随時紹介する。
実務経験のある 教員による授業	助産師の実務経験がある専任教員および現役の助産師が実務経験を活かし授業を行う

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	母性看護学 褥婦・新生児を支える看護	2年次後期	1単位	30時間
科目責任者	木村 雅子			
担当教員	木村 雅子 予定教員			
事前学習内容	2年次前期に学んだ妊娠・分娩の生理と看護について理解する。関係法規Ⅱの母性看護に関する法律について理解しておく。テキスト内の関連動画がある場合は視聴する。			
科目のねらい	褥婦・新生児における生理的变化とその特性を理解し、母子・夫・家族に対して必要な看護を学ぶ。 産褥期・新生児期に必要な援助技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 産褥期の身体的・心理社会的特徴と褥婦の正常な経過を学び、産褥期の看護の必要性を理解できる。また、健康から逸脱した対象の特性と病態と援助方法を理解できる。 (第1～3回) 進行性変化について学び、母乳育児の特性について理解できる。(第4・5回) 妊娠期からの継続支援に関連した施策、子育てに必要な法律や施策、支援を理解できる。 (第6回) 新生児期の生理的特徴と看護を理解できる。(第7～9回) 健康を逸脱した新生児の病態、胎児機能不全の病態と及ぼす影響とそれに伴う看護について理解できる。(第10・11回) 早産児・低出生体重児の特徴について学び、NICU・GCUでの看護について理解できる。 (第12・13回) 褥婦と新生児の援助に必要な技術を理解できる。(第9・14回) 			
授業概要	本科目は、妊娠・分娩期の看護の知識を踏まえて、産褥期の褥婦と新生児の看護を学ぶ。また、妊娠期からの継続看護の必要性、母性看護に関する法律や施策について講義を通して理解を深める。産褥期・新生児に必要な看護技術について演習を通して習得していく。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1～3	I. 褥婦の看護 (講師：予定教員) <ol style="list-style-type: none"> 産褥期の定義 産褥の生理 褥婦のアセスメントと看護 褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護 親になることへの看護 産褥期の異常 (出血・血栓症・感染症・下部尿路機能障害・産褥精神疾患) 	講義		
4・5	II. 母乳育児と看護 <ol style="list-style-type: none"> 母乳育児の世界的動向 母乳育児の特性 乳房の構造と機能・乳汁分泌メカニズム 新生児の生理機能と乳汁分泌メカニズムに基づいた母乳育児支援 母親・新生児・授乳の観察と評価 母親へのエモーショナルサポートとエンパワメント 乳頭・乳房のトラブル 	講義		

6	Ⅲ. セクシャル・リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援 1. 母子保健に関する法律 2. 就労に関する法律と課題 3. 子育て支援に関する法律・施策 4. 褥婦への社会支援と手続き 5. 周産期医療システムと母子保健施策	講義
7～9	IV. 新生児の看護 (講師：予定教員) 1. 新生児期における看護師の役割 2. 新生児の生理 3. 新生児のアセスメント 4. 新生児のケア 5. 新生児と医療事故、医療安全	講義 演習
10・11	V. 新生児期の異常 (講師：予定教員) 1. ハイリスク新生児の特徴 2. 新生児一過性多呼吸 3. 低血糖 4. 新生児高ビリルビン血症 5. 分娩期のストレス	講義
12・13	VI. 早産児・低出生体重児 (講師：予定教員) 1. 未熟性に起因する病態・疾患 2. 呼吸窮迫症候群 3. 新生児集中治療室 (NICU) の役割と早産児・低出生体重児の看護	講義
14	VII. 産褥経過・新生児の観察技術 1. 子宮復古の観察 2. 効果的な授乳姿勢 3. 新生児の観察	演習
15	まとめ	
評価方法	筆記試験 100% (100点)	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 4. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 5. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 6. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護	
実務経験のある教員による授業	助産師の実務経験がある専任教員および現役の助産師・看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	精神看護学 こころの健康と精神医療と看護	1年次後期	1単位	30時間
科目責任者	佐藤 由加			
担当教員	島田 善広 成瀬 智			
事前学習内容	領域横断 健康支援論で学んだライフサイクル、発達課題、心理学について復習する。			
科目のねらい	こころの健康と健康問題の発生プロセスについて学び、こころの健康の保持・増進及び疾病予防のために必要な基礎的知識を学ぶ。また、精神医療と看護の歴史の変遷と法制度について理解し、精神医療と看護における現代の課題と地域保健活動に関する知識を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の健康を、身体的・心理的・社会的な視点から捉えることができる。(第1回) 2. 人間のこころをみる視点をとらえることができる。(第2・3回) 3. こころの動きやストレスの影響とコーピングについて理解できる。(第2・3回) 4. こころの防衛機制とその種類について理解できる。(第2・3回) 5. 母子関係における相互交差的なコミュニケーションと青年体験のプロセスについて理解できる。(第4・5回) 6. フロイトの発奮論、バヴィガーストの発奮果題の概要を理解できる。(第4・5回) 7. 現代社会の変化によるこころの問題について理解できる。(第6・7回) 8. 現代社会における家族のあり方や精神障害者をもつ家族が置かれている状況を知り、必要な支援について理解できる。(第6・7回) 9. 精神障害が悩みや葛藤の延長線上にあり、人生のプロセスと切り離せないものであることを理解できる。 (第1～6回) 10. 欧米の精神医療の変遷について概観し、それぞれの時代における特色を理解できる。(第8・9回) 11. 日本の精神医療の変遷について概観し、それぞれの時代における特色を理解できる。(第8・9回) 12. 精神医療に関する法の変遷を理解し、現在の精神医療の問題点を考える(第10～13回) 13. 法の改正に伴う患者の処遇の変化と医療における患者の権利や精神障がい者の処遇をめぐる問題を理解できる。 (第10～13回) 14. 精神保健種別の概要を理解できる。(第10～13回) 15. 精神保健にかかわる専門職者の役割や各種の組織について理解できる。(第10～13回) 16. 地域生活における障害者の権利擁護について理解できる。(第10～13回) 17. 精神医療におけるリハビリテーションの意味を理解できる。(第14～17回) 18. 入院医療から地域社会での生活に向けた流れを理解できる。(第14～17回) 19. 地域生活を支える社会資源について理解し、その活用について考えることができる。(第14～17回) 20. 地域生活を支える支援方法と必要性を理解できる。(第14～17回) 21. 災害時の精神保健医療活動について理解できる。(第14～17回) 			
授業概要	本授業では、母子関係における愛着形成から発奮論を踏まえ、生活の場において生じるさまざまなストレスとこころの反応を自身の体験と照らし合わせ、精神の健康問題の発生プロセスを理解する。また、社会の変化とこころの問題を理解し、健康の保持・増進および疾病予防のために必要な基礎的知識とメンタルヘルスの必要性を学ぶ機会とする。精神障がい者が辿ってきた歴史的な背景とともに精神医療と看護の歴史の変遷を理解し、患者の処遇の変化と人権擁護の問題、地域精神保健活動についても理解する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 精神障害についての基本的な考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの健康とは 2. 障害のとらえ方 3. 精神障害が生じるきっかけとプロセス 4. 対象理解の難しさ 	講義		

2・3	<p>II. 人間の心と行動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人のこころのさまざまな理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳の構造から理解する 2) こころの働きから理解する 3) こころの構造に関する仮説から理解する <ol style="list-style-type: none"> (1)フロイトの精神力動論 4) こころをみる看護の視点 2. こころと環境 <ol style="list-style-type: none"> 1) 欲求 2) 心理的成熟 3) ストレスとコーピング 4) 適応と不適応 5) 不安とその対処法：コーピング 6) こころの防衛機制 7) こころの危機と危機介入 8) リカバリーとその支援 	講義
4・5	<p>III. 人格の発達と情緒体験</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対人関係論の立場から 2. 対象との出会い 3. 母子関係の発展 4. バヴィガーストの発達課題 	講義
6	<p>IV. 現代社会におけるこころと家族の支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の特徴 2. 社会の変化とメンタルヘルス 3. 現代社会における家族関係 家族の変遷 4. 家族をみる視点 5. 家族の課題 6. 精神疾患と家族 	講義
7・8	<p>V. 精神医療の歴史と看護 【3H】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代から中世までの精神医療 2. 鎖からの解放とモラルトリートメント 3. 近代の精神医療 4. 20世紀の精神医療 5. 日本の20世紀の精神医療 	講義
9～12	<p>VI. 精神保健医療福祉をめぐる法律 【7H】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健医療に関する法制度の変遷 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科医療の法的な始まり 2) 呉秀三による患者調査と精神病院法制定 3) 戦後の法律改正と精神科病院の大増設 4) ライシャワー事件と精神衛生法改正 5) 宇都宮病院事件と精神保健法の成立 6) 精神保健法から精神保健福祉法への改正 7) 精神科医療と福祉との合流 8) 「障害者自立支援法から「障害者総合支援法」へ 2. 精神保健福祉法の基本的な考え方 3. 精神保健福祉法による入院介護と入院患者の処遇 4. 看護の倫理と人権擁護 	講義

13~16	<p>Ⅶ. 地域で暮らすを支援する 【7H】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における精神障害者と精神病未の現状 2. 「入院医療から」地域社会での生活へ 3. 地域生活を支援する社会資源の活用 <ol style="list-style-type: none"> 1) ケアマネジメントとは 2) 自立支援計画と地域生活支援事業 3) 地域生活を支援する医療サービス 4) 地域生活を支援するサービス 5) 就労支援 6) 当事者・家族による相互支援（ピアサポート） 4. 地域生活（移行）支援の実際 5. 家族への支援 6. 災害時の精神保健活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害時精神保健医療活動 2) 災害派遣精神医療チーム<DPAT> 	講義
17	まとめ	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実際 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 	
参考書	必要時、適宜紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	精神看護の基本技術	2年次前期	1単位	15時間
科目責任者	佐藤 由加			
担当教員	佐藤 由加			
事前学習内容	基礎分野「人間関係論」、専門基礎分野「人間関係技術」について復習する。 精神看護学「こころの健康と精神医療と看護」について復習する。			
科目のねらい	精神に障がいを持った対象を理解し、精神看護実践に必要な基本的知識と技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科看護におけるケアについて理解できる（第1～3回） 2. 精神科看護における治療的かかわりが理解できる。（第1～3回） 3. 治療的コミュニケーション技術の活用方法が理解できる。（第3回） 4. プロセスレコード、看護場面の再構成の意義および重要性を理解することができる。（第4・5回） 5. プロセスレコードの記載方法が理解できる（第4・5回） 6. プロセスレコードカンファレンスの意義と具体的な方法が理解できる。（第5回） 7. オレムアンダーウッド理論について理解できる（第6回） 8. 精神看護学実習の意義とグループダイナミクスの必要性が理解できる（第7回） 9. 看護師の仕事とストレスの関連性について理解し、ストレスマネジメント方法について考えることができる（第8回） 10. 精神看護に関わる資格認定と役割について理解できる。（第8回） 			
授業概要	本授業では、精神障がいを抱えた対象の看護実践に必要な基本的な知識と日常生活行動を維持・向上するための援助について学ぶ。また、患者—看護師関係の発展のための諸理論を理解し、治療的コミュニケーションの技術と自己理解、他者理解の必要性を演習を通して学ぶ。また、看護職の仕事とストレスを関連させながら、看護師のストレスマネジメントの必要性についても理解を深める。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 精神科看護におけるケアとは 【3H】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院治療の意味 2. 治療的関係とは 3. 治療的かかわりの考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) リカバリー 2) ストレングスモデル 3) レジリエンス 	講義		
3	4. 治療的コミュニケーション技術と実際 【2H】	講義・演習		
4・5	5. かかわりの振り返り方法 【5H】 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護場面の再構成 2) プロセスレコードの活用 3) プロセスレコードの実際 	講義・演習 (グループワーク)		
6	II. オレムアンダーウッドのセルフケア理論 【2H】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 普遍的セルフケア要件とセルフケア不足の理論 2. 普遍的セルフケア要件のアセスメント 	講義		

7	Ⅲ. 臨地実習から学ぶ 【1H】 1. 精神科の看護実習とは 2. カンファレンスの意義	講義
8	Ⅳ. ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割 【1H】 1. 看護師のストレスマネジメント 2. 精神看護に関わる資格認定 1) 精神看護専門看護師 2) リエゾン精神看護専門看護師 3) 認定看護師	講義
9	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践	
参考書	必要時、適宜紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	精神看護学 精神障がいのある人の看護	2年次前期	1単位	15時間
科目責任者	佐藤 由加			
担当教員	未定			
事前学習内容	「こころの健康と精神医療と看護」「病態治療論Ⅴ（精神疾患）」の学習内容を復習する			
科目のねらい	精神科における治療と精神科病棟の治療的環境の特徴について学ぶ。また、精神疾患や精神症状についての基本的知識と看護の視点について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主な精神症状について理解できる。（第1回） 2. 精神科における治療とその看護について理解できる。（第2回） 3. 精神科における治療的環境の意義について理解できる。（第3回） 4. 精神科病棟入院患者の日常生活を知り、治療としての生活援助と家族への支援が理解できる。（第3回） 5. 各精神疾患の特徴と看護の実際が理解できる。（第4・5回） 6. 救急医療現場での精神科的対応と看護の留意点を理解できる。（第6・7回） 7. 精神科病院における災害時の安全管理について理解できる。（第6・7回） 8. 災害時のこころのケアについて理解できる。（第6・7回） 			
授業概要	本授業では、精神科における治療の特徴と精神科病棟における治療的環境について理解する。精神疾患や精神症状についての基本的な知識と代表的な精神疾患の症状について理解しながら看護の視点を学び、救急時、災害時の看護についても理解を深める。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I.精神疾患総論 <ol style="list-style-type: none"> 1. 主な精神症状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 意識の障害 2) 注意の障害 3) 知覚の障害 4) 記憶の障害 5) 知能（知的能力）の障害 6) 思考の障害 7) 感情の障害 8) 意志や意欲の障害 9) 自我意識の障害 10) 身体的訴えや行動に現れる精神症状 2. 精神疾患の診断 3. 精神疾患の好発年齢と性差 4. 精神疾患が身体疾患と異なる点 	講義		
2	II.精神科での治療と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科における治療の特徴 2. 薬物療法と服薬治療に関わる援助 3. 精神療法 4. 社会療法 5. 電気けいれん療法 	講義		

3	Ⅲ. 入院環境と治療的アプローチ 1. 治療の場としての精神科病棟 1) 入院する精神障害者がもつ特徴 2) 治療的環境と看護 2. 日常生活行動の援助	講義
4・5	IV. 事例に学ぶ看護の実際 1. 統合失調症（急性期）患者の看護の実際 2. 統合失調症（慢性期）患者の看護の実際 3. パーソナリティ障害患者の看護の実際 4. うつ病患者の看護の実際 5. パニック障害患者の看護の実際 6. 摂食障害患者の看護の実際 7. 解離性障害患者の看護の実際	講義
6・7	V. 救急医療現場における患者支援と精神的関わり 1. 自殺企図により救急搬送される患者 2. 急性薬物中毒で救急搬送される患者 VI. 災害時の支援 1. 精神科病院における災害時の安全管理 2. 災害時ストレスケアの始まり 3. 災害によるストレスの影響 4. 災害時のこころのケア 5. 悪化・再発を防ぐための支援 6. 災害支援者へのサポート	講義
8	まとめ	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本	
参考書	必要時 適宜紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

9・10	5. 成人期	講義
11・12	6. 老年期	講義
13・14	VI. 女性のライフサイクル各期の健康と看護 【3 H】 1. 女性のライフサイクルと健康 2. 思春期の健康と看護 3. 成熟期の健康と看護 4. 更年期の健康と看護 5. 老年期の健康と看護	講義
15・16	VII. 働く人の健康課題と支援（産業保健） 【3 H】 （講師：樋口直美） 1. 職業と健康障害 2. 産業看護職の活動	講義
17	まとめ 【1 H】	
評価方法	筆記試験100%（100点）	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康と社会・生活 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 公衆衛生 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 4. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 高齢者の健康と障害 5. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 6. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 概論・リプロダクティブヘルスと看護 7. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 情緒発達と精神看護の基本	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および現役の保健師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	領域横断 周術期看護	2年次後期	1単位 成人：0.6 老年、小児、母性、 精神：各0.1	30時間
科目責任者	小林 羽麻 勝野 さおり 江見 たか江 木村 雅子 佐藤 由加			
担当教員	未定			
事前学習内容	各専門領域の既習の内容に加え、テキストの該当頁および関連書籍の該当頁を熟読する。			
科目のねらい	手術によって身体への侵襲要因がどのような機序で心身に影響を及ぼすのかを理解し、各ライフステージにおける周術期の援助および回復を促進するための基本的知識・技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外科的侵襲によって起こりうる生体反応について理解する。(第1回) 2. 手術前に必要な意思決定のサポートについて理解できる。(第2・3回) 3. 手術前における不安やボディイメージの変化に対する不安について考えることができる。(第2・3回) 4. 手術前の全身状態のアセスメントについて理解できる。(第2・3回) 5. 手術前訓練と処置の必要性を理解することができる(第2・3回) 5. 手術を安全に行うための環境の管理(構造・設備)について理解できる。(第4・5回) 6. 術中における看護師の役割を理解できる。(第4・5回) 7. 術後に起こりやすい主な合併症の症状・なりゆきについて理解できる。(第6～8回) 8. 術後合併症予防のための援助、合併症出現時の援助について理解できる。(第6～8回) 9. 術後の全身状態の観察項目が理解できる(第9回) 10. 術後の創部、ドレーン、膀胱留置カテーテルの管理の留意点が理解できる(第9回) 11. 術後の全身状態の観察ができる(第10～12回) 12. 術後1日目の全身清拭の目的と留意点を理解し実践することができる。(第10～12回) 13. 術後の継続看護を理解できる。(第13回) 14. 手術を受ける高齢者と家族への看護について理解できる。(第14・15回) 15. 妊娠期・分娩期の異常と手術時の看護について理解できる。(第16・17回) 16. 手術を受ける子どもと家族への看護について理解できる。(第18・19回) 			
授業概要	本科目では、あらゆる発達段階における周術期看護の基本について学習する。外科的侵襲からの生体反応の観察や、積極的な回復に向けた早期離床、合併症予防などの看護介入について理解する。手術前、手術中、手術後のそれぞれの過程における基本的知識・技術を学ぶ。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 周術期に起こる生体の変化 【成人：1H】 1. 周術期とは 2. 外科的侵襲から回復期の生体反応 3. 外科的侵襲の種類	講義		
2・3	II. 手術過程に応じた看護支援 【成人：3H】 1. 術前の看護 1) 主体的な治療参加への支援 (1) 意思決定のサポート (2) インフォームドコンセントの支援 (3) ボディイメージの受容や心理的ストレスへの対処に向けた援助 2) リスクアセスメント	講義		

	<p>3) 術前の看護技術の実際</p> <p>(1) 手術前訓練</p> <p>(2) 手術前処置</p>	
4・5	<p>2. 術中の看護 【成人：4 H】</p> <p>1) 安全な環境の管理</p> <p>2) 手術時手洗い・ガウンテクニック</p> <p>3) 入室から麻酔導入までの支援 (患者確認、不安の緩和、麻酔導入時の介助)</p> <p>4) 手術体位の介助</p> <p>5) 術中の管理</p> <p>6) 麻酔覚醒時の支援</p> <p>7) 病棟への引き継ぎ</p>	講義
6～8	<p>3. 術後の看護 【成人：5 H】</p> <p>1) 術後合併症予防と発症時の援助</p> <p>(1) 呼吸器合併症</p> <p>(2) 循環器合併症</p> <p>(3) 術後腸閉塞(術後イレウス)</p> <p>(4) 術後感染</p> <p>(5) 縫合不全</p> <p>(6) 肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症</p> <p>(7) 術後せん妄</p> <p>(8) 術後疼痛</p> <p>(9) 内視鏡による合併症</p>	講義
9	<p>4. 術後の看護技術 【成人：2 H】</p> <p>1) 術直後の全身の観察</p> <p>2) ドレーン、膀胱留置カテーテルの管理</p> <p>3) 創保護(包帯法含む)</p> <p>*包帯法の演習は、看護の統合と実践「災害看護」で教授する</p>	講義・演習
10～12	<p>5. 術後の看護技術の実際 【成人：6 H】</p> <p>1) 術直後の全身の観察の実際</p> <p>2) 術後1日目の全身清拭援助の実際</p>	演習
13	<p>6. 術後の継続看護 【成人：2 H】</p> <p>1) 術後の継続看護の必要性</p> <p>(1) 形態機能の変化(術後障害)と継続治療</p> <p>(2) 形態機能の変化(術後障害)が生活・人生に及ぼす影響</p> <p>2) 術後の継続看護の実際</p> <p>(1) 社会生活への適応を促す支援</p> <p>(2) 家族への支援</p> <p>(3) 社会資源の活用</p> <p>3) 継続看護を支える看護師間・多職種間の連携</p>	講義
14・15	<p>Ⅲ. 手術を受ける高齢者と家族への看護 【老年：2 H】</p> <p>1. 高齢者の手術の適応</p> <p>2. 加齢と手術侵襲</p> <p>3. 術前オリエンテーション</p> <p>1) 高齢者へのインフォームドコンセント(心の準備)</p> <p>2) 身体の準備</p> <p>4. 高齢者の周術期の観察ポイント</p> <p>5. 手術を受ける高齢者の精神的ケア</p> <p>6. 手術を受ける高齢者の家族への影響と看護(緊急手術を含む)</p>	講義

16・17	IV. 妊娠期・分娩期の異常と手術 【母性：2H】 (講師：予定教員) 1. 帝王切開術を受ける産婦の看護	講義
18.19	V. 手術を受ける子どもと家族への看護 【小児：2H】 1. 手術を受ける子どもの特徴 2. 手術の時期と種類 3. 手術を受ける子どもの術前看護 4. 手術を受ける子どもの術後看護 (集中治療を受けている子どもと家族への看護) 5. 退院に向けての看護 6. 手術を受ける子どもの家族への看護	講義
20	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 2. 学研 よくわかる周手術期看護 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 4. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 5. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 6. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 7. 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術	
参考書	1. 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 2. 照林社 カラー版まんがで見る 術前・術後ケアのポイント その他は、授業で適時紹介する。	
実務経験のある教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および、現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	領域横断 終末期看護	2年次前期	1単位 (成人、老年、小児、 母性、精神 各0.2単位)	30時間
科目責任者	小林 羽麻 勝野 さおり 江見 たか江 木村 雅子 佐藤 由加			
担当教員	未定			
事前学習内容	テキストの該当頁を熟読するとともに、関連動画がある場合は視聴する。			
科目のねらい	あらゆる発達段階において終末期にある対象者の治療と苦痛を理解し、緩和に向けて支援する方法を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある対象者を理解する。(第1・2回) 2. がん患者が抱える全人的苦痛とQOLについて理解する。(第1・2回) 3. 緩和ケアにおける看護師の役割について理解する。(第1・2回) 4. 身体症状のマネジメントの基本的な考え方について理解する。(第3回) 5. がん疼痛のアセスメント、治療、看護について理解する。(第3～6回) 6. 主な身体症状とその治療・看護について理解する。(第3～6回) 7. 非がん疾患の終末期の特徴を理解し、がんの終末期との違いを述べることができる。 (第3～6回) 8. 死にゆく過程の心理変化、精神症状とその治療・看護について理解する。(第7回) 9. 社会的苦痛のアセスメントと支援の方法について理解する。(第8回) 10. スピリチュアルケア実践の基盤となる考え方について理解する。(第9・10回) 11. 緩和ケアにおける倫理的問題および、看護師としての道德規則と権利について理解する。 (第10回) 12. がん治療における患者・家族の意思決定の場面や時期、内容について理解する。 (第11回) 13. 患者の意思決定における看護師の役割を理解について理解する。(第11回) 14. 臨死期における一般的な経過や特徴的な症状について理解する。(第12回) 15. 看取りと死亡後のケア、家族への対応について理解する。(第12回) 16. 緩和ケアを受ける患者の家族が抱える問題のアセスメントと支援方法について理解する。 (第13・14回) 17. 遺族に対するグリーフケアについて理解する。(第13・14回) 18. 発達段階に応じた死の概念の違い、死の捉え方について理解できる。(第15～17回) 19. ペリネイタルロスを経験した母親や家族へのケアについて理解する。(第13～17回) 20. 自己の死生観について考えをまとめることができる。(第1～18回) 			
授業概要	<p>本科目は、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の5領域における領域横断科目である。終末期にある対象者の全人的苦痛と死の受容過程を理解し、緩和ケアの考え方を学ぶ。終末期にある対象者の意思を尊重し、その人らしく過ごせるように支援する方法について学び、QOLを高めることの意義を考える。さらに、これらの学習を通し、自己の死生観を深める。</p>			

授業展開		
回	学習内容	方法
1・2	I. 終末期にある対象者の理解 【3 H】 1. 生命を脅かす疾患を抱える患者の苦痛とQOL 2. 緩和ケアとは何か 3. 緩和ケアを患者・家族に提供する方法 4. 日本における緩和ケアの現状 5. 緩和ケアにおける看護師の役割 6. ホスピスケア 7. 小児における終末期の特徴 8. 成人期における終末期の特徴 9. 高齢者における終末期の特徴	講義
3～6	II. 緩和ケア 【8 H】 1. 身体症状とその治療・看護 1) 身体症状概論 2) 疼痛 3) 全身倦怠感 4) 消化器症状 (悪心嘔吐・食欲不振・嚥下困難、便秘・消化管閉塞・悪性腹水) 5) 呼吸困難 6) リンパ浮腫 7) 泌尿器症状の治療と看護 8) がん治療に伴う苦痛の緩和	講義・演習 (グループワーク)
7	III. 精神症状とその治療・看護 【1 H】 1. 精神症状概論 1) がんに対する心の反応 2) 死にゆく過程の心理変化 2. がん患者の精神症状 1) 不安 2) 抑うつ 3) せん妄 4) 不眠	講義
8	IV. 社会的ケア 【1 H】 1. 社会的苦痛とは 2. 社会的苦痛のアセスメント 3. ソーシャルサポート 4. 社会的存在を支えるための支援	講義
9・10	V. スピリチュアルケア 【2 H】 (講師：予定教員) 1. スピリチュアリティとは 2. スピリチュアルペインとは 3. スピリチュアルケアとは VI. 緩和ケアと生命倫理 【1 H】 (講師：予定教員) 1. 生命倫理とは 2. 生命倫理の4原則 3. がん医療における意思決定 4. 安楽死に関する倫理的問題	講義

11	<p>VII. 緩和ケアのコミュニケーション 【2H】 (講師：予定教員)</p> <p>1. 患者と医療者をつなぐコミュニケーション 2. がん医療における悪い知らせ 3. 難しいコミュニケーション</p>	講義
12	<p>VIII. 臨死期のケア 【2H】</p> <p>1. がん終末期の症状と全身状態 2. 臨死期のケア 3. 臨死期における輸液療法 4. 苦痛緩和のための鎮静 5. 臨終後のケア</p>	講義
13～15	<p>IX. 家族ケア 【3H】</p> <p>1. 看護の対象としての家族 2. 悲嘆と遺族ケア、グリーフケア 3. 流産・死産後の家族の看護</p>	講義
16・17	<p>X. 死の捉え方 【6H】</p> <p>1. 子どもと家族の死の捉え方 2. 成人期（青年期・壮年期）における死の捉え方 3. 高齢者の死の捉え方 4. 流産・死産後の女性と家族における死の捉え方</p>	講義・演習 (グループワーク)
18	<p>XI. 自己の死生観 まとめ 【1H】</p>	筆記試験
評価方法	<p>筆記試験 60% (60点) レポート評価 10% (10点) 協同学習 30% (30点)</p>	
テキスト	<p>1. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 4. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 5. 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術</p>	
参考書	<p>1. 学研メディカル秀潤社 絵でみるターミナルケア【DVD】 2. 医学映像教育センター 知っておきたい緩和ケア 3. 介護レベルアップシリーズ 終末期のケア 4. インターメディカ 臨終時のケア</p>	
実務経験のある 教員による授業	<p>看護師の実務経験がある専任教員および現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う</p>	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	領域横断 問題解決法 I	2 年次後期	1 単位 (成人 0.7 老年 0.3)	30 時間
科目責任者	小林 羽麻 勝野 さおり			
担当教員	小林 羽麻 勝野 さおり			
事前学習内容	基礎看護学臨床判断、基礎看護学看護過程、健康支援論、周術期看護、終末期看護、老年看護学で学んだ知識・技術を復習しておく。			
科目のねらい	成人期（終末期）におけるアセスメントの視点と看護について学ぶ。 老年期におけるアセスメントの視点と看護について学ぶ。 問題解決過程、クリティカルシンキング、リフレクションを活用しながら臨床判断の実際を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護（終末期看護）に必要なアセスメントの視点について理解できる。（第 1～9 回） 2. 終末期看護に必要な看護理論を理解できる。（第 1～9 回） 3. 各パターンのアセスメントについて老年看護における視点が理解できる。（第 1～9 回） 4. 高齢者の周術期（大腿骨頸部骨折）の看護が理解できる。（第 1～9 回） 5. ICF の概念モデルを用いて対象を包括的に捉える方法を理解できる。（第 10 回） 6. 状態の変化がなぜ起こっているのかを病態や治療と関連づけて考えることができる。 (第 11 回～16 回) 7. 状態の変化から今後起こりうることを予測することができる。（第 11 回～16 回） 8. 状態変化から緊急性を判断することができる。（第 11 回～16 回） 9. 状態の変化に対する介入方法を考え、状態が改善する援助を理解できる。 (第 11 回～16 回) 10. 実践した援助を学生間、ファシリテーターと共に振り返り、課題を共有化することができる。 (第 11 回～16 回) 			
授業概要	<p>本科目の前半では、ゴードンの機能的健康パターンに基づき、各領域の特徴を踏まえたアセスメントの視点を学ぶ。成人看護では、治癒が望めないがん疾患をもつ終末期患者とその家族の心理過程を理解し、死がどのような意味をもつか洞察して患者、家族のニーズについて考える。老年看護では、問題解決法Ⅲや実習に繋がるよう高齢者に多い大腿骨頸部骨折の看護について学ぶ。また、高齢者の長い生活歴を知ることで、高齢者の考え方・価値観などを把握するとともに、ICF の概念モデルを用いて対象を包括的に捉える方法を考える機会とする。後半は前半で既習した内容および、これまで積み上げてきた既習科目の内容を活用し、気づきのトレーニングを行う。クリティカルシンキングや行動を裏付ける知識、倫理観、看護観などもデブリーフィングで振り返る。</p>			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 看護過程(成人看護：終末期、老年看護：大腿骨頸部骨折) 1. アセスメントのポイント ① 健康知覚／健康管理パターン	講義		
2・3	② 栄養／代謝パターン	講義		
4	③ 排泄パターン	講義		
5・6	④ 活動／運動パターン	講義		

7	⑤ 睡眠／休息パターン ⑥ 認知／知覚パターン	講義
8	⑦ 自己知覚／自己概念パターン ⑧ 役割／関係パターン ⑨ セクシュアリティ／生殖パターン ⑩ コーピング／ストレス耐性パターン ⑪ 価値／信念パターン	講義
9	2. アセスメントのポイントのまとめ	講義
10	3. 高齢者看護の基本 1) ICF 2) 生活歴	講義
11～13	II. 臨床判断 1. 成人看護 終末期看護	演習
14～16	2. 老年看護 回復期看護	演習
17	まとめ	
評価方法	筆記試験 60 点 シミュレーション演習（ワークシート、グループワーク） 40 点	
テキスト	1. メディックメディア 看護が見える vol. 4 看護過程の展開 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 4. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 5. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 6. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I コミュニケーション/看護の展開/ヘルスアセスメント 7. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 看護実践のための援助技術	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	領域横断 問題解決法Ⅱ	2年次後期	1単位 〔 小児 0.4 母性 0.3 精神 0.3 〕	15時間
科目責任者	木村 雅子 佐藤 由加 江見 たか江			
担当教員	木村 雅子 佐藤 由加 江見 たか江			
事前学習内容	精神看護学では、精神看護の基本技術、精神障がいのある人の看護（統合失調症の症状、症状アセスメントと看護の実践）を復習しておく。 母性看護では、既習の母性看護学（概論・リプロダクティブヘルスと看護、妊娠期・分娩期、産褥期・新生児）を復習しておく。 小児看護では、既習の小児の成長発達について理論とともに復習しておく。			
科目のねらい	精神看護実践に必要なアセスメントの視点と看護について学ぶ。 産褥期・新生児期に必要なアセスメントの視点を学ぶ。 小児の特徴を踏まえたアセスメントの視点と看護について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症患者のアセスメントの視点について理解できる。（第1・2回） 2. 統合失調症患者の全体像を捉え、看護を考えることができる。（第2・3回） 3. 母性看護におけるデータベースとアセスメントの視点について理解できる。（第4回） 4. 産褥期のアセスメントの視点について理解できる。（第5回） 5. 新生児のアセスメントの視点について理解できる。（第6回） 6. 母子関係のアセスメントの視点について理解できる。（第6回） 7. 小児看護におけるアセスメントの視点について理解できる。（第7回） 8. 発達段階に応じて生じる危険な行動を予測し、適切な対応を理解することができる。（第8回） 			
授業概要	<p>本科目は、各領域の特徴をふまえたアセスメントの視点を学ぶ。</p> <p>精神看護では、統合失調症患者の事例を用いて、精神看護で必要なアセスメントの視点と、対象のストレングスを活かした看護のかかわりかたを具体的に学ぶ機会とする。</p> <p>母性看護では、データベースにまとめる視点とウエルネスの視点や母子一体の視点で母子を関連させたアセスメントについて学ぶ。</p> <p>小児看護では、小児の成長・発達段階や健康障害による影響を踏まえたアセスメントの視点を学ぶ。実習に繋がるように、小児特有の言動への対応について事例を用いて学ぶ。</p>			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I.精神看護 1. 統合失調症の看護 1) 精神・情緒状態のアセスメント 2) セルフケアのアセスメント	講義		
2・3	3) ストレングスのアセスメント 4) 全体像の把握 5) 看護目標と具体的なかかわりについての考え方	講義・演習 (グループワーク)		
4	II. 母性看護 1. 母性看護におけるアセスメントの視点 1) 産褥期のウエルネスの視点	講義		

	2) 新生児のウェルネスの視点 2. 母性看護におけるデータベースの視点	
5	3. 産褥期のアセスメントの視点 1) 産褥経過：退行性変化（全身の復古・生殖器の復古） 2) 産褥経過：進行性変化	講義
6	4. 新生児のアセスメントの視点 5. 母子関係のアセスメントの視点	講義
7	Ⅲ. 小児看護 1. 小児看護におけるアセスメントの視点	講義
8	2. 臨床判断プロセス 小児特有の言動への対応 1) ベッドからの転落 2) 病棟での転倒	講義・演習 (グループワーク)
9	まとめ	
評価方法	筆記試験90%（90点） （内訳：精神35%（35点）、母性35%（35点）、小児20%（20点）） レポート10%（10点） （内訳：小児10%（10点））	
テキスト	1. メディックメディア 看護が見える vol.4 看護過程の展開 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 3. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 4. (株) 新宿スタジオ DVD を用いた精神科シミュレーション学習 5. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 7. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 8. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 9. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 10. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 11. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

シラバス

Ver. 1

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	領域横断 問題解決法Ⅲ	2年次後期	1単位 (成人0.3、老年0.2、 小児0.1、母性0.3、 精神0.1単位)	30時間
科目責任者	小林 羽麻 勝野 さおり 江見 たか江 木村 雅子 佐藤 由加			
担当教員	未定			
事前学習内容	問題解決法Ⅰ・Ⅱで学んだことを復習しておく。			
科目のねらい	各領域の特徴を踏まえた看護過程の展開方法を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を展開する具体的な方法を個人ワークおよびグループワークを通して考え、記述できる。(第1～9、12・13回) 2. 成果発表を通して、成人・老年の看護過程の展開方法を理解する。(第12・13回) 3. 演習を通して、論理的、批判的思考を身につけることができる。(第1～13回) 4. 対象の特徴を理解できる。(第1～13回) 5. 対象のアセスメントができる。(第1～5回) 6. 看護上の問題を明確にできる。(第1、3～9、12・13回) 7. 看護計画を立案できる。(第7・8回) 8. メンバーの一員としての責任を果たすことができる。(第1～13回) 9. 母子の特徴を踏まえた情報収集とアセスメントの根拠についてグループワークを通して考え、記述ができる。(第10回) 10. 小児の特徴を踏まえた情報収集内容の根拠についてグループワークを通して考え、データベースの記述ができる。(第11回) 			
授業概要	本科目は、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の5領域における領域横断科目である。問題解決法Ⅰ・Ⅱで学んだ看護過程を、紙上事例を用いて初期計画立案まで実施する(成人・老年)。個人ワーク・グループワークにより学習を深め、成果を発表して学びを共有する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 事例紹介(成人・老年)	講義		
2	II. データベース	演習 (グループワーク)		
3～5	III. アセスメント	演習 (グループワーク)		
6	IV. 看護上の問題と優先順位【1H】	演習 (グループワーク)		
7・8	V. 計画立案【4H】	演習 (グループワーク)		
9	VI. 関連図【2H】	演習 (グループワーク)		
10	VII. 母性看護学 1. データベース・SOAP	演習 (グループワーク)		
11	VIII. 小児看護学 1. データベース	演習 (グループワーク)		

12	IX. 発表 1. 成人看護学	演習
13	2. 老年看護学	演習
評価方法	レポート評価（看護過程の展開） 70%（70点） 演習参加態度（提出状況を含む） 30%（30点）	
テキスト	1. メディックメディア 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 2. 中央法規 エビデンスに基づく 疾患別看護ケア関連図	
参考書	必要時、適時紹介する。	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	看護の統合と実践 看護マネジメント	2年次後期	1単位	30時間
科目責任者	未定			
担当教員	未定			
事前学習内容	専門分野で終了している科目を復習しておく。			
科目のねらい	看護師として良質な看護ケアおよび看護サービスを提供するために、看護マネジメントに必要な基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マネジメントプロセスとマネジメントサイクルについて理解できる。(第1・2回) 2. 看護におけるマネジメントの変遷について理解できる。(第1・2回) 3. チーム医療の概念を理解し、医療における多職種との連携・協働の必要性について理解できる。(第3～6回) 4. サービスの概念・特性を理解し、医療サービスにおける顧客満足の重要性を理解できる。(第7・8回) 5. 組織の構造と原則について理解できる。(第9・10回) 6. 組織における人間および人間関係についての諸理論を理解できる。(第9・10回) 7. 医療・看護を取り巻く法律・諸制度について理解できる。(第11・12回) 8. キャリアに関する基本概念を理解できる。(第13回) 			
授業概要	看護マネジメントの基礎となる理論やプロセスを学習し、看護マネジメントは管理者だけの概念ではなく、常日頃から管理的な視点を持つことが重要であることを理解する。また、チーム医療の重要性とその中で看護師が果たす役割について考え、多職種連携の必要性について理解する。より良い看護を提供できる専門職業人となるために、自己のキャリアを主体的に考える姿勢を身につけられるよう学習する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1・2	I. 看護とマネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1. マネジメントとは <ol style="list-style-type: none"> 1) マネジメントプロセス 2) マネジメントサイクル 2. 看護におけるマネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1) マネジメントの考え方の変遷 2) 看護におけるマネジメントの考え方の変遷 3) これからの看護職に求められるマネジメント 	講義・演習		
3～6	II. 看護ケアのマネジメント (講師：担当教員) <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護ケアのマネジメントのプロセス 2) 看護ケアの提供者としての機能 2. 安全管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全管理のしくみ 2) 安全管理のシステム 3. 看護業務の実践 (日常業務のマネジメント) <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護業務 2) 看護基準と看護手順 	講義・演習		

	<ul style="list-style-type: none"> 3) クリティカルパス 4) 情報の活用 5) 日常業務のマネジメント 6) 優先順位の決定と多重課題への対応 <p>4. チーム医療</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) チーム医療とは 2) チーム医療に必要な機能 3) 多職種との連携・協働 4) チーム医療活動の実際 	
7・8	<p>Ⅲ. 看護サービスのマネジメント (講師：担当教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 看護サービスのマネジメント 2. 組織目的達成のマネジメント 3. 看護サービス提供のしくみづくり 4. 人材のマネジメント 5. 施設・設備環境のマネジメント 6. 物品(モノ)のマネジメント 7. 業務量のマネジメント 8. 情報のマネジメント 9. 組織におけるリスクマネジメント 10. サービスの評価 	講義
9・10	<p>Ⅳ. マネジメントに必要な知識と技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 組織とマネジメント <ul style="list-style-type: none"> 1) 組織構造と組織原則 2) 組織マネジメントの基本 2. リーダーシップとマネジメント <ul style="list-style-type: none"> 1) リーダーシップの定義 2) 特性理論 3) 行動理論 4) 条件適合理論 3. 組織の調整 <ul style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーション 2) パワーとエンパワメント 	講義・演習
11・12	<p>Ⅴ. 看護を取り巻く諸制度</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 看護の定義 2. 看護職 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護職の定義 2) 看護職と専門職性 3) 看護職と法・制度 4) 看護職の法的責任 5) 看護職の職業倫理 6) 看護職の教育制度 7) より専門性の高い看護職の養成および認定制度 3. 医療制度 	講義
13・14	<p>Ⅵ. 看護職のキャリアマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. キャリアとキャリア形成 2. 看護職のキャリア形成 <ul style="list-style-type: none"> 1) キャリアプランを考える 2) 看護職の技能習得段階 3) キャリアラダー 3. ワークライフバランス 4. タイムマネジメント 	講義・演習

	5. ストレスマネジメント	
15	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	看護の統合と実践 災害看護・国際看護	3年次前期	1単位	30時間 〔災害：20H〕 〔国際：10H〕
科目責任者	未定			
担当教員	未定			
事前学習内容	世界各国における健康問題、保健・医療システム、看護の現状を各自で調べてまとめ、グループワークで活用できるようにする。国際的なトピックスについて情報を収集し、国際看護についての関心を高めしておく。			
科目のねらい	災害が及ぼす影響を理解し、社会における看護の役割を果たすために必要な災害各期の看護活動を学ぶ。国際的視野で看護ケアと文化的背景について理解し、看護の国際協力について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の種類と被害・疾病の特徴を知る。(第1回) 2. 災害関連死の発生機序について理解できる。(第1回) 2. 災害医療に関する国の政策や法律について理解できる。(第2回) 3. 災害各期における看護活動について理解できる。(第3回) 4. 災害時における要配慮者への支援と看護が理解できる。(第4回) 5. 被災した人々および支援者の災害によるストレスについて理解できる。(第4回) 6. 減災・防災、危機管理の意義を知り、災害時の組織体制を理解できる。(第5回) 7. 災害時の看護活動で必要となる知識・技術が理解できる。(第6～10回) 8. 世界各国の健康問題を知り、国際看護活動の必要性について理解できる。(第11～15回) 			
授業概要	災害時に適切な看護ケアを提供するために、必要な知識・技術を理解し、災害救助における状況判断の方法については、トリアージ演習を通して実践的なイメージを付ける。 国際社会における健康問題や保健・医療システムに影響を与える様々な要因について、グループワークを通して理解し、看護の役割について理解する。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	【災害看護】 【2H】 (講師：予定教員) I. 災害看護とは <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の定義 2. 災害と倫理 II. 災害の種類と健康被害 <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の種類と被害・疾病の特徴 2. 災害関連死 	講義		
2	III. 災害に関する法制度 【2H】 (講師：予定教員) <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療に関する国の政策 2. 災害医療に関する法律 3. 災害時の支援体制 4. 災害医療活動の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害サイクル 2) 体系的対応の基本原則 3) トリアージ 4) 応急処置・治療 5) 移送・搬送 6) 感染症対策 	講義		

3	IV. 災害初期から中長期における看護活動 【2H】 (講師：予定教員) 1. 初動時(超急性期・急性期)における看護活動 2. 医療救護所での看護活動 3. 避難所での看護活動 4. 応急仮設住宅での看護活動 5. 自宅避難者に対する看護活動 6. 復興期の看護活動	講義
4	V. 被災者と支援者の市入りの理解と援助 【2H】 (講師：予定教員) 1. 被災者の心理の理解と援助 2. 遺族に必要な支援と看護 3. 支援者の心理の理解と援助 VI. 配慮を必要とする人への支援と看護	講義
5	VII. 防災・減災マネジメント 【2H】 (講師：予定教員) 1. 防災・減災・レジリエンス 2. 災害に備えた事業継続計画(BCP) 3. 災害時の組織体制	講義
6~10	VIII. 災害時に必要な看護技術 【2H】 1. 体系的な基本原則(CSCATTT) 2. トリアージ 3. 災害時に必要な技術 1) 包帯法・搬送法・止血法、排泄用具作成 (包帯法の知識は、成人看護学(正式な科目名が決まったらその名称に変更)で学ぶ) 2) 災害時トリアージ法 (トリアージシミュレーション) 【8H】	講義・演習
11・12	【国際看護】 I. 国際看護学とは 【5H】 1. 国際看護学の定義 2. 世界の健康問題の現状	講義・演習
13~15	II. グローバルヘルス 【4H】 1. グローバルヘルス 2. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 3. MDGS、SDGS 4. ユニバーサルヘルスカバレッジ III. 国際協力のしくみ 1. 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 2. 国際救援の調整 3. 開発協力(ODA、JICA、国際協力とNGO) IV. 文化を考慮した看護 ・在留外国人への看護の実践	講義
16	まとめ	
評価方法	筆記試験、演習 (配点は授業開講時に説明)	
テキスト	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 学研 看護学テキスト Basic&Practice 統合と実践 国際看護	
参考書	適時、資料を配布する。	
実務経験のある教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員および現役の看護師が実務経験を活かし授業を行う	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	看護の統合と実践 医療安全	3年次前期	1単位	15時間
科目責任者	未定			
担当教員	未定			
事前学習内容	基礎看護学（安全・感染予防・生命活動を支える看護技術）で学習した医療安全の用語の理解をしておく。臨地実習で発生した事故やヒヤリハット体験の振り返りをした上で受講する。			
科目のねらい	対象と医療者に潜む医療事故の危険因子を総合的に判断でき、予防するための方法を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を学ぶ意義とその重要性について理解できる。（第1回） 2. 医療安全を推進するための考え方を理解できる。（第2回） 3. 医療事故を防ぐための方策について理解できる。（第3回） 4. 実習中に起こりやすい事故、医療現場で起こりやすい事故の原因から対策を考えることができる。（第3・4・5回） 5. 医療事故体験をすることで、危険予知の重要性を認識し、潜む危険因子を考えることができる。（第6・7回） 			
授業概要	本授業では、臨地実習で起こりやすい事故を事例に取り上げ、グループワークでの演習を通して、その原因と対策について学ぶ。また、医療事故を想定したシミュレーション体験とリフレクションを実施し、体験後のレポートを記入することで自己の行動特性の理解に繋げ、医療安全の意識を高める。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1	I. 医療安全の歴史と医療・看護を取り巻く状況 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の歴史 2. 医療安全推進・対策 3. 医療安全にかかわる近年の看護職を取り巻く状況 4. 看護職に問われる法的責任 5. 学生としての法的責任 	講義		
2	II. 医療安全の概念 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の用語 2. 医療安全という概念 3. ヒューマンエラーとは何か 4. 医療安全に関する法則とモデル 5. 医療安全に対する最近の動向・考え方 III. ミスを防ぐための方策 <ol style="list-style-type: none"> 1. 各レベルでのミスを防ぐための方策 2. 事故発生後の対応 	講義		
3～5	3. 実習中・医療現場で起こりやすい事故 4. 事例の危険予知と危険回避のための方策 IV. 医療事故防止活動の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故防止活動の実際 ・K Y T活動 V. 事故防止のための方策	講義・演習		
6～8	VI. 事故体験と振り返り 「医療事故体験シミュレーション」	演習		

9	まとめ	
評価方法	筆記試験100% (100点)	
テキスト	1. 学研 看護学テキスト Basic&Practice 統合と実践 医療安全～患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力 2. メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全	
参考書	必要時、適時紹介する。	
実務経験のある 教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当	

分野	科目名	配当時期	単位数	時間数
専門分野	看護の統合と実践 看護技術の総合評価	3年次後期	1単位	15時間
科目責任者	未定			
担当教員	未定			
事前学習内容	これまでに学んだ知識・技術を総復習しておく。			
科目のねらい	自身の技術の到達度を把握するために、既習の知識・技術を統合し、設定した事例対象の状態に応じて看護を実践・評価する。本科目を通し、自己の課題を明確にする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職の専門性と看護職としての責務を理解する。(第1～4回) 2. 設定した事例の状態から、必要な看護援助を計画することができる。(第1・4回) 3. 設定した事例の状況に応じて、必要な援助を実施することができる。(第7・9回) 4. 時間制限の中で、視覚的に対象の状況を把握し、異常を述べるができる。(第8回) 5. 看護師としてのセルフマネジメントについて考えることができる。(第5・6回) 			
授業概要	本科目は、『看護技術の総合評価』として自己の到達状況を把握する。これまでに学んだ知識・技術を統合し、設定した事例に必要な援助を計画立案・実践する。自己の不足する技術を明確にすることで、卒業時までには到達できるよう課題として取り組む。本科目の履修条件は、本科目以外の科目において単位を修得していることを条件とする。			
授業展開				
回	学習内容	方法		
1～5	I. 看護職としての責務 【5H】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護専門職とは 2. 看護に必要な能力と責任 II. 状況設定に必要な看護実践 【5H】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床に近い状況に設定された事例に基づいた看護実践（事例提示） 2. 「安全性」「安楽性」「効率性」「倫理性」「経済性」「自立性」「関係性」の視点を考慮した援助計画の立案 3. 実施と振り返り 4. 援助計画の追加・修正 	講義・演習 (グループワーク)		
6	III. 看護者自身のマネジメント 【3H】	講義・演習 (グループワーク)		
7	IV. 技術項目の卒業時到達度 Iレベルの技術確認 1. 視覚状況把握試験 【1H】	演習		
8	2. 設定事例に基づいた看護実践 【1H】	演習		
9	まとめ			
評価方法	筆記試験 35% (35点) 技術試験 65% (65点)			
テキスト	日本看護協会出版 看護職の基本的責務			
参考書	日本看護協会出版『キラリ！看護のシゴト』（ホームページ掲載動画）			
実務経験のある教員による授業	看護師の実務経験がある専任教員が担当			

臨地実習

科目	単位	時間	目的
基礎看護学			既習の知識・技術・態度を臨地で活用し、看護を実践するための基礎的能力を身につける。
基礎看護学Ⅰ期実習	1	40	対象の不足している生活行動を把握し、日常生活動作を整える援助を実践する能力を身につける。
基礎看護学Ⅱ期実習	2	80	対象の理解を基に、援助を行う必要性を判断し、個別性を踏まえた基本的な看護を展開する能力を身につける。
地域・在宅看護論			
地域・在宅看護論実習	2	80	地域医療における看護の役割を理解する。また、地域で生活しながら療養する人々とその家族、および在宅で提供される看護活動を理解し、必要な看護を実践できる基礎的能力を身につける。
成人看護学			成人期にある対象の発達段階・発達課題をふまえ、あらゆる健康段階にある患者と家族を総合的に理解し、多様な場で看護を必要とする人々のQOLを考慮した看護実践能力を身につける。
成人看護学実習Ⅰ (急性期の看護)	1	40	救命救急医療を必要とする対象の健康危機状況をアセスメントし、救命救急看護の特徴を理解する。
成人看護学実習Ⅱ (慢性期の看護)	1	40	疾病と共存しながら、生活している対象を理解し、セルフケアを確立していくために必要な看護を実践する基礎的能力を身につける。
成人看護学実習Ⅲ (終末期の看護)	2	80	終末期にある対象を理解し、全人的苦痛の緩和とQOLを考慮した看護を展開する能力を身につける。
老年看護学			老年期に関わる保健・医療・福祉の連携および看護の機能、看護師の役割について理解する。また、老年期にある対象を包括的に理解し、高齢者のニーズを捉え、QOLを考慮した看護を実践するための能力を身につける。
老年看護学実習Ⅰ	1	40	地域で生活する高齢者を理解し、QOLを高めるための支援やサービスの在り方、健康を支える老年看護について理解する。
老年看護学実習Ⅱ	1	40	健康障害のある高齢者を理解し、退院後の生活を見据えた看護を実践する基礎的能力を身につける。
老年看護学実習Ⅲ	1	40	退院後の生活を支える社会資源の活用方法を知り、療養の場の移行を目指し、看護を実践する基礎的能力を身につける。また、在宅復帰を目的とした病棟の取り組みの実際を知り、保健・医療・福祉の連携について理解する。
小児看護学			
小児看護学実習	1	40	成長発達途上にある小児の特徴を理解し、小児とその家族に適切な看護を実践する基礎的能力を身につける。
母性看護学			
母性看護学実習	1	40	褥婦および新生児の特徴を妊娠期・分娩期をふまえて理解し、母子およびその家族に対して必要な看護の基礎的能力を身につける。
精神看護学			
精神看護学実習	2	80	精神の健康回復への援助及びその対人プロセスを通して精神に障害のある対象を理解し、精神看護に必要な看護の基礎的能力を身につける。

科目	単位	時間	目的
領域横断 (成人・老年・小児・母性)			さまざまな成長発達・健康状態にある対象とその家族の特徴、ならびに看護を実践する場の特性を多角的に理解し、多職種との連携を含めた健康支援や継続看護について複数の領域を横断して学ぶ。また、生命の維持と生活機能の回復に向けた看護実践の方法を学ぶ。
健康支援論実習	2	80	さまざまな成長発達・健康状態にある対象とその家族の特徴、ならびに看護を実践する場の特性を多角的に理解し、人々の日常生活に沿った健康支援のための方法を学ぶ。
継続看護実習	2	80	病院の外来部門における看護活動の実際を知り、継続看護について考え、多職種との連携を含めた看護師の役割を学ぶ。
周術期看護実習	2	80	手術を受ける対象の身体的・精神的侵襲を把握し、生命の維持と生活機能の回復に向けた看護実践の方法を学ぶ。
看護の統合と実践			
看護の統合と実践実習	2	80	専門的知識を統合し、医療チームの中で、複数の対象のニーズに対応した看護を展開することができる。
実習合計	24	960	

【各実習の先修条件】

臨地実習科目		履修条件となる科目
基礎看護学Ⅰ期実習		援助技術試験の合格が条件
基礎看護学Ⅱ期実習		基礎看護学Ⅰ期実習、基礎看護学『看護過程』
地域・在宅看護論実習		基礎看護学Ⅱ期実習
成人看護学実習	成人看護学実習Ⅰ (急性期の看護)	基礎看護学Ⅱ期実習
	成人看護学実習Ⅱ (慢性期の看護)	基礎看護学Ⅱ期実習
	成人看護学実習Ⅲ (終末期の看護)	基礎看護学Ⅱ期実習 領域横断 『終末期看護』、『問題解決法Ⅰ』、『問題解決法Ⅲ』
老年看護学実習	老年看護学実習Ⅰ	基礎看護学Ⅱ期実習
	老年看護学実習Ⅱ	基礎看護学Ⅱ期実習
	老年看護学実習Ⅲ	基礎看護学Ⅱ期実習
小児看護学実習		基礎看護学Ⅱ期実習
母性看護学実習		基礎看護学Ⅱ期実習
精神看護学実習		基礎看護学Ⅱ期実習
領域横断実習	健康支援論実習	領域横断『健康支援論』、基礎看護学Ⅰ期実習
	継続看護実習	基礎看護学Ⅱ期実習
	周術期看護実習	基礎看護学Ⅱ期実習
看護の統合と実践実習		『看護の統合と実践「技術の総合評価（1単位15時間）」以外の全ての科目が単位修得（単位数（102単位））』

※学科目で単位未修得科目を履修する場合、学科目を優先するため臨地実習に参加することができない。

